

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第77集

番屋前遺跡群

# 番屋前遺跡Ⅲ

BANYAMAE

長野県佐久市大字猿久保  
番屋前遺跡Ⅲ発掘調査報告書

2000. 3

長野県経済事業農業協同組合連合会  
長野県佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第77集

番屋前遺跡群

# 番屋前遺跡Ⅲ

BANYAMAE

長野県佐久市大字猿久保  
番屋前遺跡Ⅲ発掘調査報告書

2000. 3

長野県経済事業農業協同組合連合会  
長野県佐久市教育委員会

# 例 言

- 1 本書は、平成10年に調査した、長野県佐久市大字猿久保に所在する番屋前遺跡Ⅲの調査報告書である。  
遺跡名 番屋前遺跡群 番屋前遺跡Ⅲ  
所在地 長野県佐久市大字猿久保字番屋前27-1、27-3、30-1、31  
調査面積 8700㎡（内調査対象面積2500㎡）  
開発主体者 長野県経済事業農業協同組合連合会  
開発事業名 店舗等建築工事
- 2 本調査は、長野県経済事業農業協同組合連合会の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。
- 3 本調査は、羽毛田卓也（本調査）、上原学（試掘調査）を担当者とし、地元の皆様をはじめ多数の方の協力を得て実施した。
- 4 本遺跡に関わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
- 5 本書の執筆・編集は羽毛田卓也が担当した。

# 凡 例

- 1 遺跡の略称 SBYMⅢ
- 2 遺構の略称 M→溝状遺構 土坑→D 竪穴遺構→Ta P→ピット群・柱穴
- 3 遺構の縮尺は図中にスケールを付したので参照されたい。
- 4 遺構のスクリーン・トーンは以下のものを表す。  
遺構横断面図・土層断面図の地山 → 斜線
- 5 遺物実測図中の矢印は、使用方向を表す。
- 6 ピット付近の数値（例-22cm、-22）は、深さを表す。
- 7 遺構の海拔標高は、各遺構ごとに統一し、測量基準ライン上に明記した。
- 8 表中の番号（例12-3）は挿図番号（例第12図3番）と対応する。
- 9 土層説明中の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・（財）日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色』の表示に基づいた。
- 10 写真図版中の遺物の縮尺はその都度明記した。

# 目 次

例言  
凡例  
目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
1 調査に至る動機	1
2 調査の概要	3
3 調査の体制	4
4 調査日誌	4
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	6
1 遺跡の自然的環境	6
2 遺跡の歴史的環境	6
第Ⅲ章 遺構と遺物	10
1 竪穴遺構	10
2 土坑	12
3 溝	30
4 ピット	51
5 調査のまとめ	62
写真図版	65



# 第I章 発掘調査の経緯

## 1 調査に至る動機

番屋前遺跡群は、佐久市大字猿久保・中込に所在し、南北に伸びる田切地形（帯状低地と帯状台地の交互地形）の帯状台地上標高689mから699mに展開する弥生時代・平安時代から中世の複合遺跡である。本遺跡は平成8年に発掘調査され、時代不明瞭な溝・土坑・井戸が検出されている。今回調査した番屋前遺跡Ⅲは、本遺跡中央東端の標高694m内外を測る台地東端に位置する。

今回、長野県経済事業農業協同組合連合会が行う店舗等建築工事に伴い、長野県経済事業農業協同組合連合会と佐久市教育委員会とで協議の結果、試掘調査により遺構の確認作業を行うこととなった。試掘調査により対象地全体に中世の遺構が広がっていることが判明し、再度両者で協議を行った。その結果、駐車場部分に若干の盛り土をし保存することとし、店舗本体部分については長野県経済事業農業協同組合連合会より委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査を行う運びとなった。



第1図 番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅲ位置図 (1:50,000)



第2図 番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅲ位置図 (1:5,000)

## 2 調査の概要

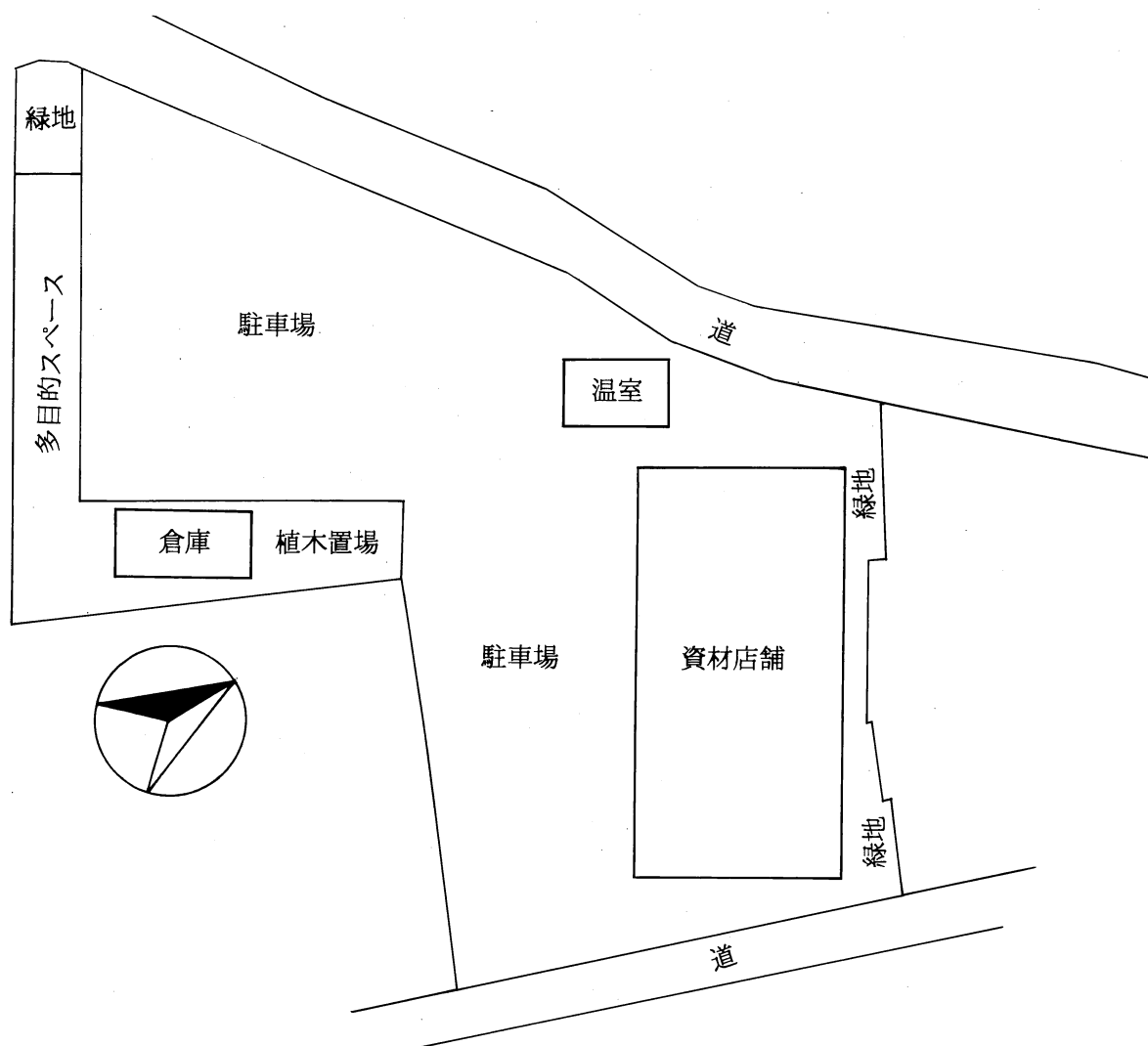
平成10年度 試掘調査

対象面積 8677.87㎡  
 調査期間 平成10年10月29日～11月7日  
 検出遺構 中世の<sup>たてあないこう</sup>竪穴遺構・<sup>どこう</sup>土坑・溝・柱穴など

平成10年度 本調査

調査面積 2500㎡  
 調査期間 平成10年11月7日から平成10年12月24日  
 調査遺構 中世の竪穴遺構 3棟  
           中世の土坑 64基  
           中世の溝状遺構 6条  
           中世の柱穴 1018基

平成11年度 整理調査 平成11年4月1日から平成12年3月31日



第3図 事業計画平面図 (1:600)

### 3 調査の体制

事務局（平成10年度）	佐久市教育委員会埋蔵文化財課
教育長	依田英夫
教育次長	北澤 馨
埋蔵文化財課長	須江仁胤
埋蔵文化財係長	荻原一馬
埋蔵文化財係	林幸彦、三石宗一、須藤隆司、小林眞寿、羽毛田卓也 富沢一明、上原学
調査主任	佐々木宗昭、森泉かよ子

事務局（平成11年度）	佐久市教育委員会文化財課
教育長	依田英夫
教育次長	小林宏造
文化財課長	草間芳行
文化財係長	荻原一馬
文化財係	林幸彦、須藤隆司、小林眞寿、羽毛田卓也、富沢一明 上原学、山本秀典、出澤力
調査主任	佐々木宗昭、森泉かよ子
調査員（平成10・11年度）	浅沼ノブ江、荒井利男、飯沢つや子、磯貝はな、梅沢淳子、江原富子、遠藤しづか 柏木義男、柏原松枝、川多アヤ子、神津ツネヨ、小須田サクエ、小山澄恵、樋田咲枝 中島とも子、中嶋フクジ、橋詰けさよ、花岡美津子、花里香代子、花里八重子 平林泰、細萱ミスズ、山浦豊子、山村容子、依田みち、渡辺久美子

### 4 調査日誌

平成10年11月9日

現地打合わせ 標高基準杭設置打ち合わせ 機器材の搬入など

平成10年11月9日～

重機による掘削・削平 土砂の移動

平成10年11月9日～

調査開始 遺構プランの確認作業

平成10年11月16日～

遺構の掘り下げ開始 遺構土層断面図実測作業開始

平成10年12月2日～

遺構平面図実測作業開始 遺構写真撮影開始

平成10年12月21日

全遺構の掘り下げ終了 各遺構写真撮影終了



平成10年12月24日

各遺構平面図実測作業終了

平成10年12月25日

全体地形測量 全体写真撮影 機器材の搬出

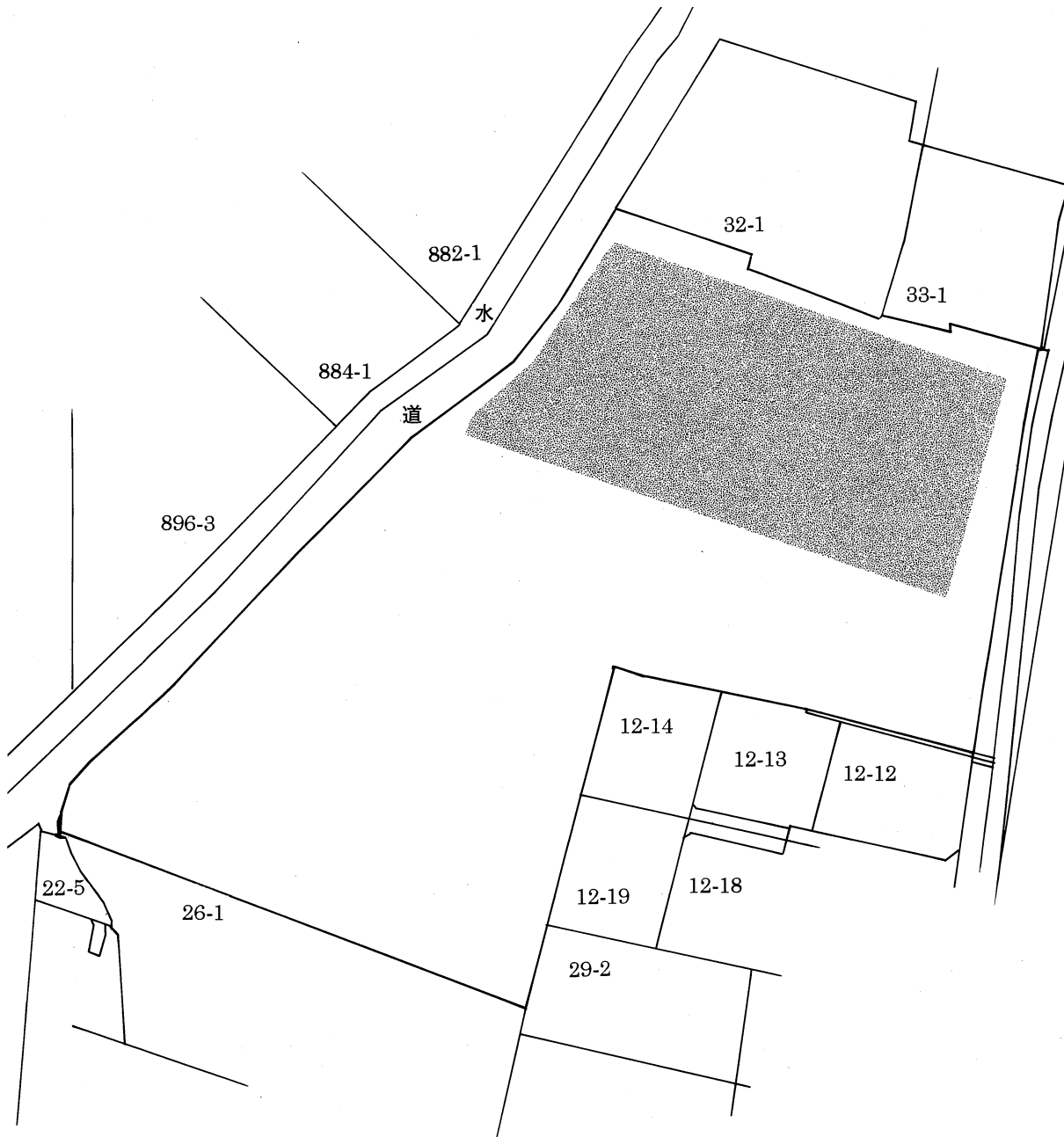
平成11年4月1日～平成12年3月31日

土器・石器等水洗いおよび遺物の注記 実測図面の修正 遺構第2原図作成

土器の復元、石器・土器の実測 遺物図面の修正 遺物第2原図作成

遺構・遺物のトレース 版下作成 遺物の写真撮影

本文の原稿執筆および編集作業 校正



第4図 調査地周辺地籍図・調査対象地位置図 (1:1,000)

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の自然的環境

佐久平は、北に浅間山を主とする三国山脈の南端峰群、東から南に関東山地から連なる山々である佐久山地、西から南に八ヶ岳連峰と、四方を山々に囲まれた盆地で、長野県の中央東端に位置する。佐久平全域の平坦部の標高は600mから1000mを測り、佐久市はこの佐久平のほぼ中央に位置し、平坦部の標高は620mから770mを測る。また北側で軽井沢町・御代田町・小諸市と、西側で浅科村・望月町と、南側で茅野市・佐久町・白田町と、東側で群馬県下仁田町・南牧村と接している。

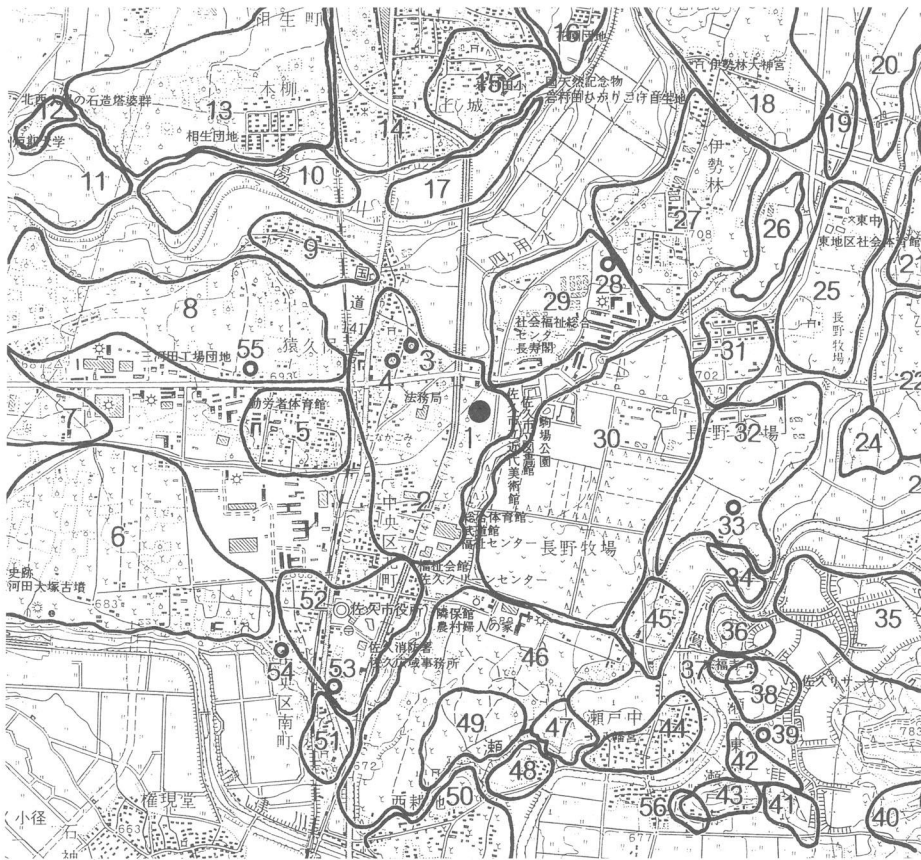
佐久市の中央部を佐久地方南端の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川が北進し、浅間山に源を発する湯川・濁川、佐久山地に源を発する霞川・香坂川・志賀川・滑津川・田子川・瀬早川・八重久保川、八ヶ岳に源を発する石突川・片貝川・大沢川・中沢川・小宮山川・倉沢川・宮川などの小河川がそれに向かって集まり、大小の扇状地や河岸段丘を形成している。佐久山地の八風山や寄石山・物見山・兜岩山・熊倉峰・荒船山は、石英安山岩類や溶結凝灰岩類・ガラス質の荒船安山岩類により形成されている。これらの山の基盤には第三紀層・中生層や古生層が広がっているとされている。化石を産出することで知られる内山の初谷層（白亜紀）は中生層で内山層（漸新世末～中新世初頭）は第三紀層である。また志賀の兜岩層（淡水湖底堆積層）・駒込層（グリーンタフ）・八重久保層は第三紀層である。

浅間山は今から1万4千年～1万1千年前にかけて2回にわたる大規模な噴火をし、軽石流（火砕熱泥流）を発生させている。平成4年度の寄山遺跡の調査でこの軽石流により埋没した森林が炭化して発見された。発見された木々は立ったままの状態、発見面から根元までは7mの深さであった。この地は軽石流の最南東端にあたり、斜面に乗り上げる形で堆積している。そのため木々は倒れることなく立ったまま埋まったと想定される。分析を行った結果、樹種はほとんどが針葉樹のトウヒ属であり、現在より冷涼な気候であったことがうかがえる。佐久平の北側は、前述した浅間山第1軽石流の火山噴出物によって厚く覆われ、雄大な山麓を形成している。この山麓は火山噴出物という性格上水の各種作用を受けやすく、大小様々な峡谷や「田切り地形」と呼ばれる帯状台地と帯状低地の交互地形が形されている。今回調査した番屋前遺跡Ⅲは、佐久市中央の北北東―南西・南南西に伸びる2本の田切り低地に挟まれた帯状台地上に展開している。

### 2 遺跡の歴史的環境

今回調査した番屋前遺跡Ⅲの周辺には、弥生時代から中世にかけての遺跡や遺跡群が点在している。番屋前遺跡は平成8年度に2ヶ所調査され、時代不明の土坑・溝状遺構・井戸址が確認されている。今回番屋前遺跡Ⅲで検出された遺構は、中世の竪穴遺構・土坑・溝状遺構・柱穴である。また遺物は縄文土器破片や石鏃、中近世の陶磁器・石器などが出土している。近年の開発に伴う発掘調査により、付近にはいくつかの中世集落が点在することが判明してきた。本遺跡北西の高師町遺跡、西側の梨の木遺跡・割地遺跡である。いずれも他の時代との重複のない中世単期の遺跡である。

その他周辺の各遺跡および時代等の詳細は第5図と第1表を参照されたい。



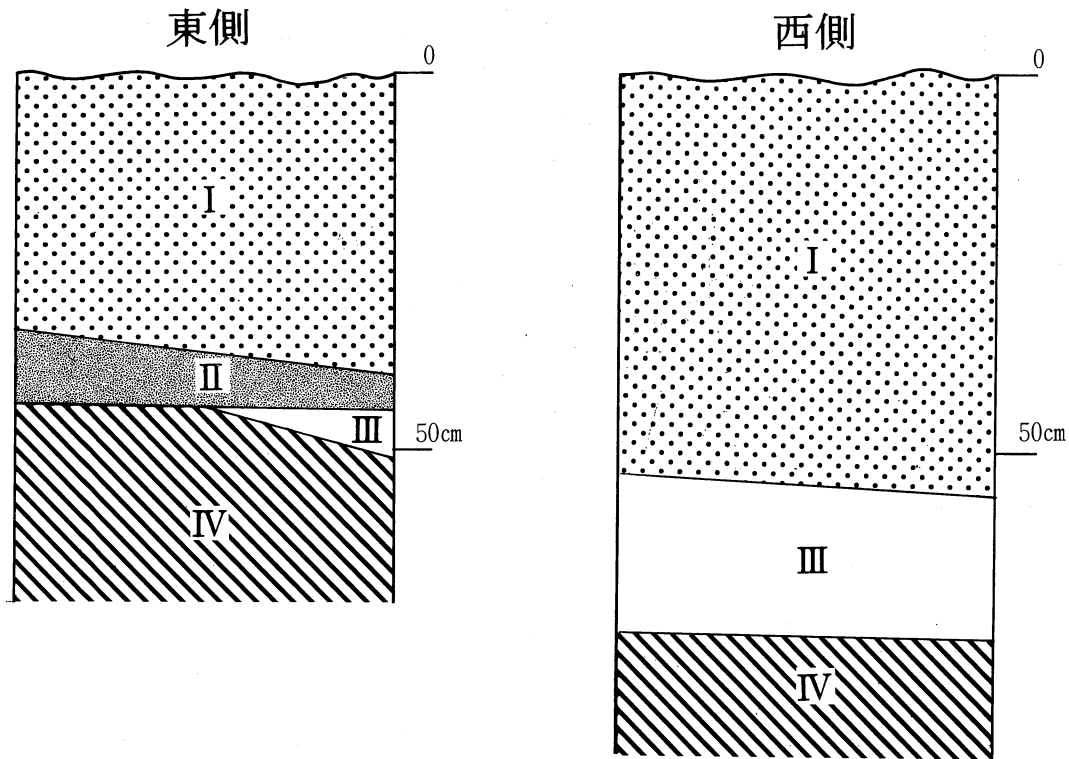
第5図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	所在地	備考
1	番屋前遺跡Ⅲ	中世	猿久保	今回調査
2	番屋前遺跡群	奈良～中世	中込・猿久保	番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ(H8)
3	金比羅古墳	古墳	猿久保	
4	御経塚古墳	古墳	猿久保	
5	西妻神遺跡	弥生・平安	中込	
6	中原遺跡群	縄文～中世	中込・横和	梨の木遺跡(S62・63, H8・9)
7	宮の上遺跡群	縄文～中世	横和・根々井	高根遺跡(S50)、宮の上遺跡(S62・63) 根々井芝宮遺跡(H4)、割地遺跡(H9)
8	寺畑遺跡群	縄文～平安	根々井・猿久保	寺畑遺跡(H7)
9	猿久保屋敷添遺跡	弥生～平安	猿久保	
10	中鳴澤遺跡群	弥生～平安	岩村田	中鳴澤遺跡(H7)
11	中西の久保遺跡群	弥生～平安	岩村田	中西の久保遺跡(H7～9)
12	北西の久保遺跡 北西の久保古墳群	弥生～中世 古墳	岩村田	北西の久保遺跡(S57・60) 北西の久保古墳群(S57・60)
13	一本柳遺跡群	弥生～中世	岩村田	東一本柳遺跡(S43)、北一本柳遺跡(S47) 東大門遺跡(H1)、西一本柳遺跡(H4～9)

14	上の城遺跡群	縄文～中世	岩村田	上の城遺跡 (S43)、上の城丹過遺跡 (S54) 西八日町遺跡 (S58)、観音堂遺跡 (H9)
15	藤ヶ城跡	近世	岩村田	
16	下信濃石遺跡	平安～中世	岩村田	
17	岩井堂遺跡	弥生～平安	岩村田	
18	蛇塚A遺跡群	平安	安原	
19	猫久保遺跡群	平安	安原	
20	戸屋敷遺跡群	平安	安原・下平尾	
21	筒畑遺跡群	縄文～平安	安原・新子田	田端遺跡 (H1)
22	戸坂遺跡群	弥生～中世	新子田	戸坂遺跡 (S46)
23	家之前遺跡	弥生～平安	新子田	
24	鳥坂城跡	中世	新子田	
25	高師町遺跡群	平安～中世	新子田	高師町遺跡 (S61, H7)
26	東内池遺跡	平安～中世	新子田	東内池遺跡 (S60)
27	蛇塚B遺跡群	平安	新子田	蛇塚B遺跡 (S54・58, H6) 野馬久保遺跡 (H2・9)
28	野馬窪古墳	古墳	猿久保	
29	野馬窪遺跡群	弥生～平安	猿久保	野馬窪遺跡 (S56)
30	馬瀬口遺跡群	弥生・平安	瀬戸・新子田	
31	小池遺跡	弥生～平安	新子田	
32	和田上遺跡群	縄文～平安	瀬戸・新子田	和田上南遺跡 (S54)
33	和田上古墳	古墳	瀬戸	
34	和田遺跡	縄文～平安	瀬戸	
35	寄山遺跡群	縄文～中世	瀬戸・志賀	勝負沢遺跡 (H2～4)、寄山遺跡 (H2～4) 寄山古墳群 (H3・4)
36	中条峯城跡	中世	瀬戸	中条峯遺跡 (H1・2)
37	中条峯古墳群	古墳	瀬戸	3基消滅
38	中条峯遺跡	縄文～中世	瀬戸	中条峯遺跡 (H1・2)
39	大日山古墳	古墳	瀬戸	
40	長峯遺跡	縄文	瀬戸	
41	宮の脇遺跡	縄文～平安	瀬戸	
42	南海道遺跡	古墳～平安	瀬戸	
43	城山城跡	中世	瀬戸	
44	中反遺跡群	平安	瀬戸	
45	鷺の宮遺跡	古墳・平安	瀬戸	古墳2基宅地造成により消滅
46	深堀遺跡群	縄文～中世	瀬戸	深堀遺跡 (S40) 瀬戸原遺跡 (H10・11)
47	八反田城跡	中世	瀬戸	
48	八反田遺跡	平安	瀬戸	
49	瀬戸狐塚古墳群	古墳	瀬戸	2基消滅
50	東千石平遺跡群	古墳～中世	瀬戸	
51	深堀城跡	中世	中込	
52	大塚遺跡群	弥生・平安	中込	
53	中込大塚古墳	古墳	中込	中込大塚古墳 (S43)
54	蟹ヶ沢古墳	古墳	中込	
55	富士塚古墳	古墳	猿久保	
56	屋敷古墳群	古墳	瀬戸	3基消滅

### 第三章 層序

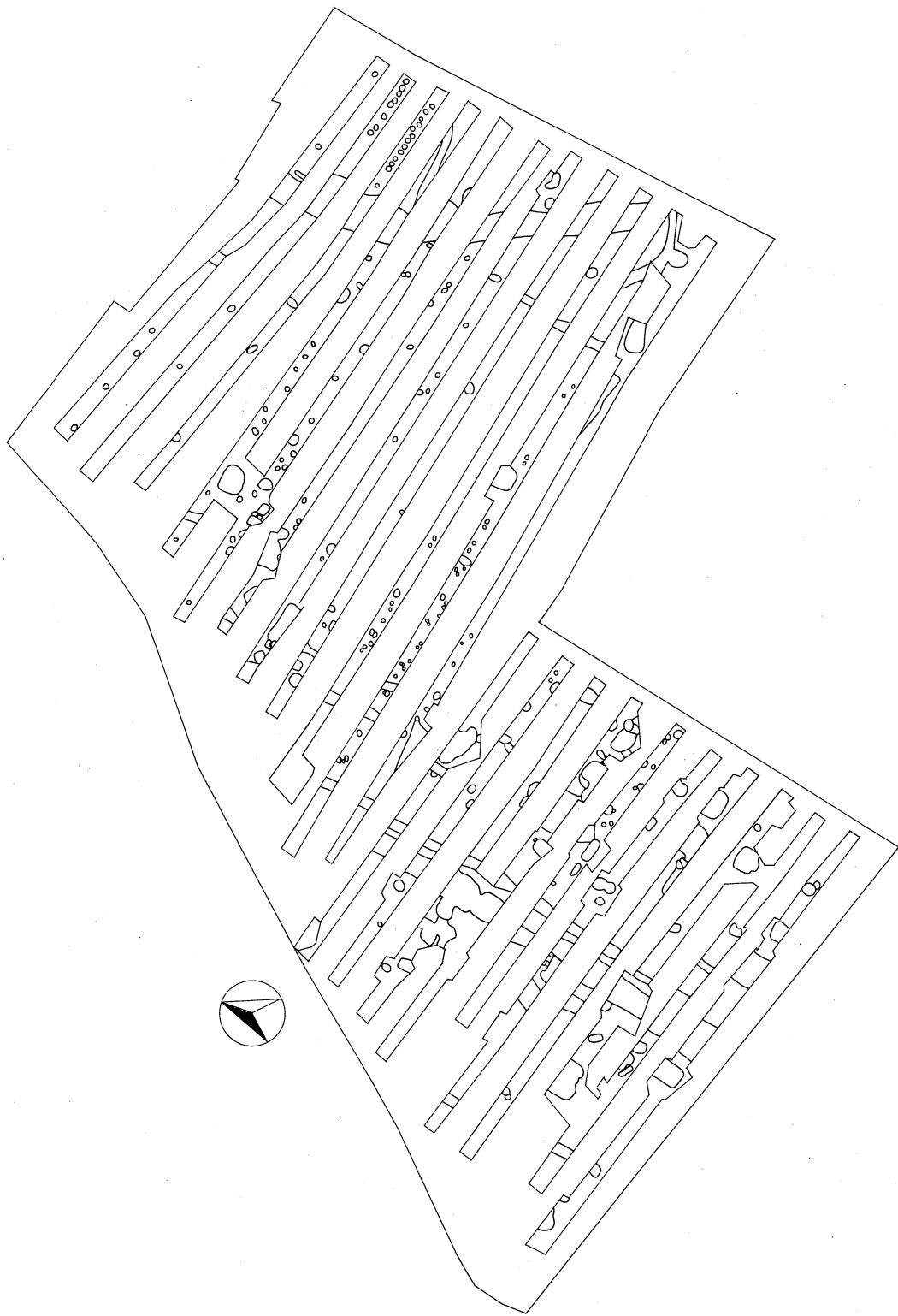


第6図 層序模式図

番屋前遺跡群番屋前遺跡Ⅲは、標高693m内外を測り、全体が北方から南方にかけて緩やかに傾斜し、南側では中央より東と西に不規則であるが緩やかに傾斜する。

基本とした層序は、調査対象区の北側中央壁面・東側中央北寄り壁面・西側中央南寄り壁面において観察し、東西壁面のみ図示した。

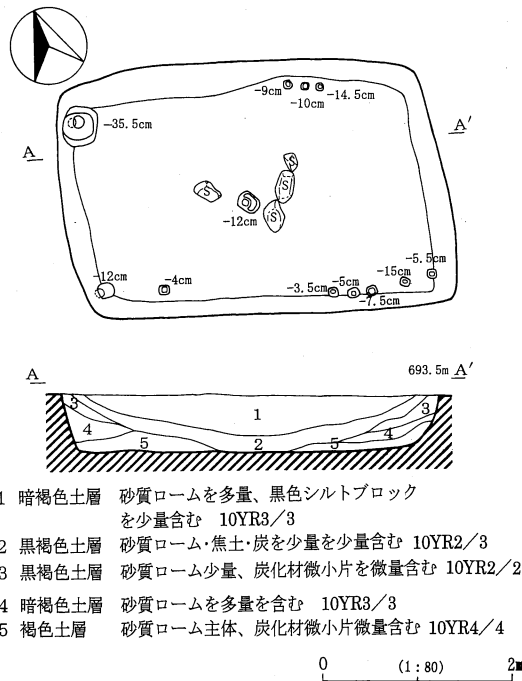
第Ⅰ層は耕作の影響下で成立したと考えられる黒褐色土で、西側一部で面的な整地による層の不整合が見られた。整地に使用した土砂は、シルト質の褐色土とパミスを含むシルト質の黄褐色ロームであった。整地は江戸時代中期以降に行われたと考えられ、整地層からは江戸時代中期以降の陶磁器片が出土した。なお整地面での遺構は確認されなかった。第Ⅱ層はローム粒子・砂粒・黒色シルトを少量含む暗褐色土で、調査区の東側1/3を覆っていた。本層は二次堆積層と考えられ、水により運ばれた土砂により成立しており、中世後半から江戸時代中期に一带を洪水が襲ったことが窺える。第Ⅲ層はローム粒子・白色パミス中粒以下・砂粒を微量含むやや荒い黒色シルトで、調査区中央から西側を覆っていた。第Ⅲ層中からは縄文時代中期と考えられる土器片や石匙・打製石斧などが出土し、本層は縄文時代中期以降に成立した層と推測される。第Ⅳ層はパミス極大粒以下を含む黄褐色砂質ロームである。なお遺構の確認は第Ⅲ層中および第Ⅳ層上面で行った。



第7図 番屋前遺跡Ⅲ試掘調査全体図 (1:800)

# 第Ⅳ章 遺構と遺物

## 1 竪穴遺構



第8図 第1号竪穴遺構実測図

### 1) 第1号竪穴遺構

第1号竪穴遺構は、調査区北東部、お・か—14・15グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は東西に長い長方形で、規模は東西401cm・南北267cmを測る。長軸の方向はほぼ東西を指し、南へ18°ずれる。また床の面積は7.68㎡を測る。

検出面から床までの土層は5層に分割され、床面は平坦であるが軟弱であった。また床面には4個の石が配されていたが性格は不明である。検出面から床までの壁の高さは37.5～61cmを測る。ピットは中央に1個、壁際に10個が検出された。

遺物は、青磁片・瓦質土器片（手焙）・角釘・擦り石が出土した。

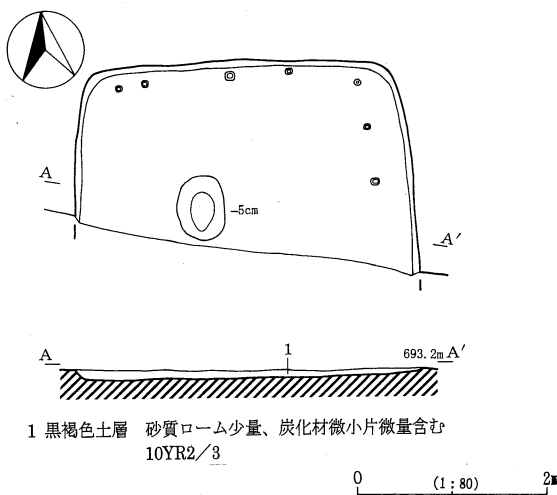
### 2) 第2号竪穴遺構

第2号竪穴遺構は、調査区西側中央部、き・く—14グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

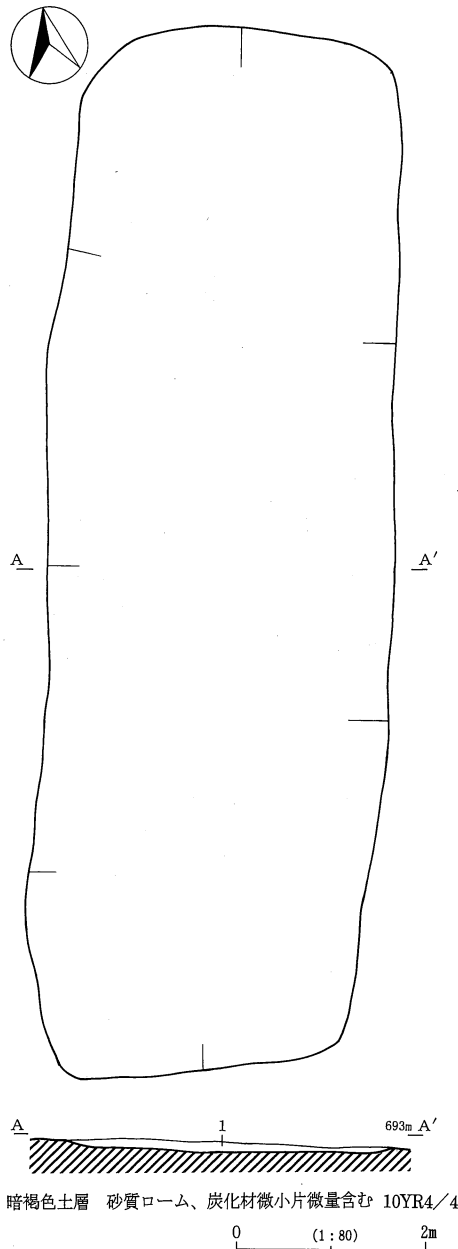
平面の形態は方形と考えられ、規模は東西181cmを測る。方向は南北を指し、西へ2°ずれる。また現存する床の面積は1.37㎡を測る。

検出面から床までの土層は1層のみが確認され、床面は平坦で固くしまっていた。また床面中央西寄り炉が検出され、底面の土が熱を受け変色していた。検出面から床までの壁の高さは0～16cmを測る。ピットは壁際に7個が検出された。

遺物は、瀬戸（小皿片）・常滑（甕片）・チャート製石匙が出土した。



第9図 第2号竪穴遺構実測図



1 暗褐色土層 砂質ローム、炭化材微小片微量含む 10YR4/4

第10図 第3号竖穴遺構実測図

### 3) 第3号竖穴遺構

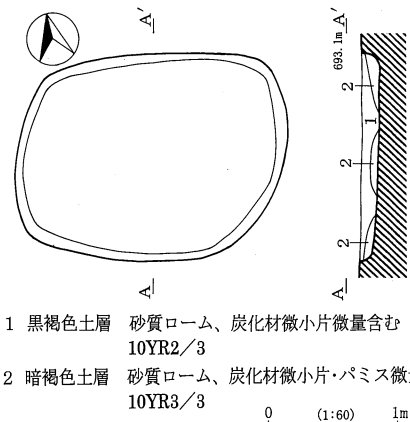
第3号竖穴遺構は、調査区中央南側、く～さー9～11グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は南北に長い隅丸長方形で、規模は南北552cm・東西184cmを測る。長軸の方向は南北を指し、西へ9.5°ずれる。また床の面積は9.59㎡を測る。

検出面から床までの土層は1層のみが確認され、床面は平坦で非常に固くしまっていた。壁はなく中央部に向かって床が緩やかに傾斜する。

形態などから本遺構は土間状の建物跡と想定される。

遺物は、常滑（甕片）・青磁（碗片）が出土した。



1 黒褐色土層 砂質ローム、炭化材微小片微量含む 10YR2/3  
2 暗褐色土層 砂質ローム、炭化材微小片・パミス微量含む 10YR3/3

第11図 第1号土坑実測図

## 2 土坑

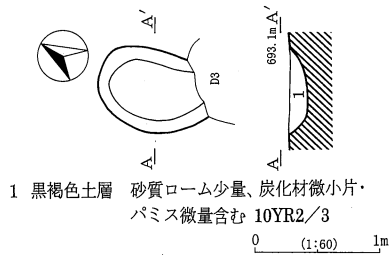
### 1) 第1号土坑

第1号土坑は、調査区中央の南側、く～さー9～11グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

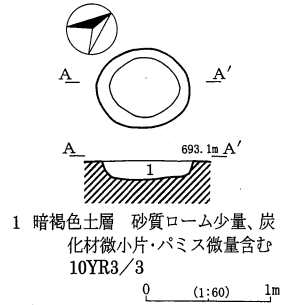
平面の形態は東西に長い隅丸長方形で、規模は南北164cm・東西212cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ9.5°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

遺物は、常滑（甕片）・青磁（碗片）・辺部に敲打痕を持つ台石・敲き石などが出土した。





第12図 第2号土坑実測図



第13図 第3号土坑実測図

## 2) 第2号土坑

第2号土坑は、調査区の東側、くー2・3グリッド内に位置し、第3号土坑により南東部を破壊される。本土坑は全体層序第Ⅲ層中において検出された。

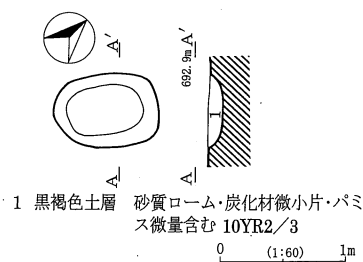
平面の形態は南北に長い楕円形で、規模は94cm×65cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ8°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

## 3) 第3号土坑

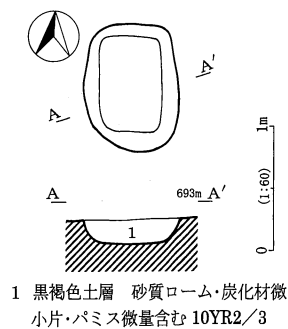
第3号土坑は、調査区の東側、くー2グリッド内に位置し、第2号土坑を破壊する。本土坑は全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は東西にやや長い楕円形で、規模は78cm×68cmを測る。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

遺物は、土師質土器が出土した。



第14図 第4号土坑実測図



第15図 第5号土坑実測図

## 4) 第4号土坑

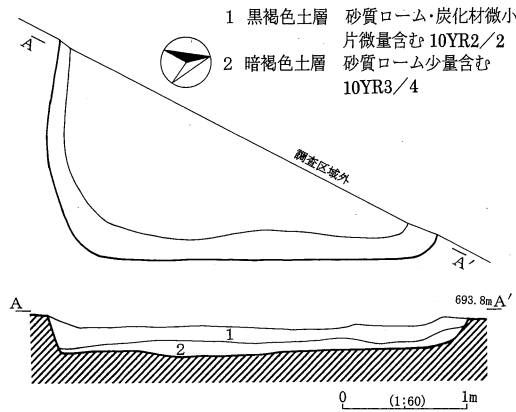
第4号土坑は、調査区の東側、こー3・4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は東西に長い楕円形で、規模は東西83cm・南北58cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は北へ29°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

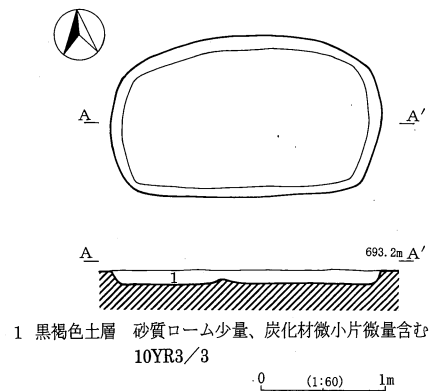
## 5) 第5号土坑

第5号土坑は、調査区の東側、こー4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は南北102cm・東西76cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ1°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



第16図 第6号土坑実測図



第17図 第7号土坑実測図

## 6) 第6号土坑

第6号土坑は、調査区の西端、か・きー20グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

なお北西部半分は調査区域をはずれる。

平面の形態は隅の丸い長方形と推測される。検出面から床までの土層は2層が確認された。

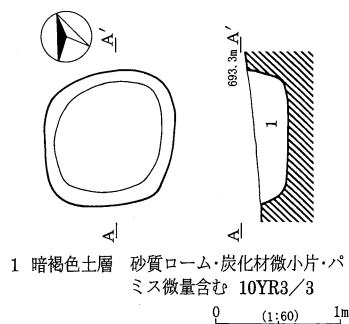
遺物は、中世前半と考えられる常滑製甕の破片と土鍋片が出土した。

## 7) 第7号土坑

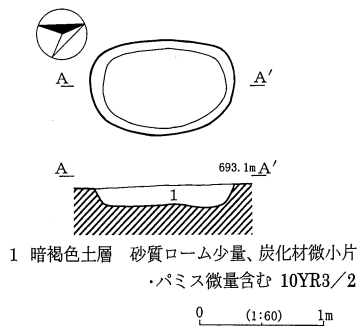
第7号土坑は、調査区の南西部、けー16・17グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

また、第808・809・850・851・852・853・854・881・882・887号ピットを破壊する。

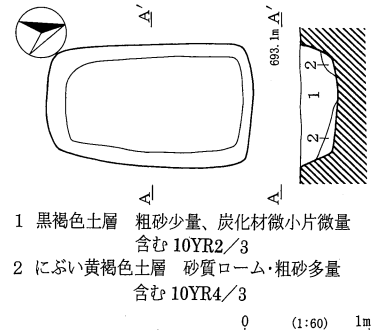
平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は南北130cm・東西216cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は南へ5.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



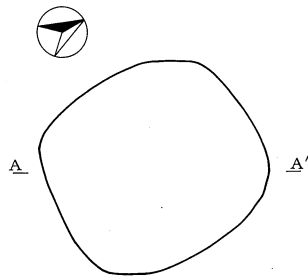
第18図 第8号土坑実測図



第19図 第10号土坑実測図



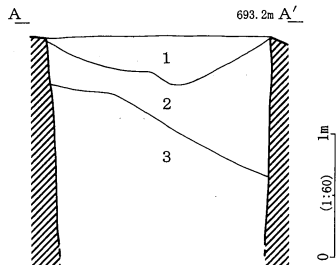
第20図 第12号土坑実測図



### 8) 第8号土坑

第8号土坑は、調査区の北側、おー9グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は不整形で、規模は104cm×107cmを測る。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



### 9) 第9号土坑

第9号土坑は、調査区の中央北寄り、かー9グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は隅の丸い方形で、規模は東西158cm・南北171cmを測る。北を主とした軸は西へ12.5°ずれる。検出面から床までの土層は3層が確認された。

本土坑は壁面が砂質ロームで脆く、約170cm程度掘下げたところで断念した。形態などから井戸址と推定される。

- 1 黒褐色土層 黒色土主体、炭化材微小片微量含む 10YR3/2
- 2 暗褐色土層 砂質ローム・炭化材微小片微量含む 10YR3/3
- 3 にぶい黄褐色土層 砂質ローム少量、炭化材微小片微量含む 10YR3/4

第21図 第9号土坑実測図

### 10) 第10号土坑

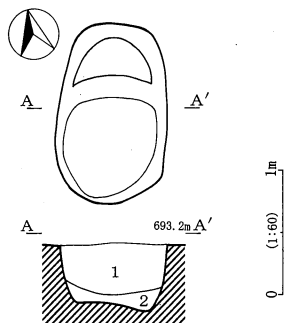
第10号土坑は、調査区の中央、かー9グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は楕円形で、規模は東西77cm・南北115cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ21°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

### 11) 第11号土坑

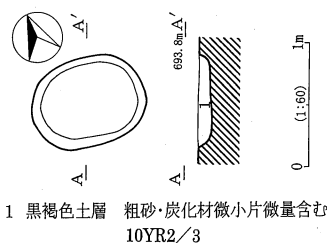
第11号土坑は、調査区の東側、き・くー8グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は楕円形で、北側にテラスをもつ。規模は東西88cm・南北144cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ16°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。



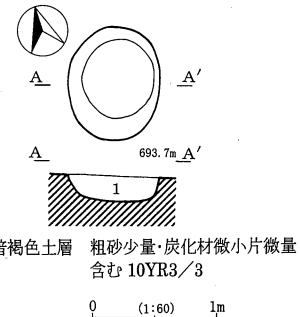
- 1 黒褐色土層 砂質ローム多量、炭化材微小片微量含む 10YR2/3
- 2 にぶい黄褐色土層 砂質ローム多量含む 10YR4/3

第22図 第11号土坑実測図



- 1 黒褐色土層 粗砂・炭化材微小片微量含む 10YR2/3

第23図 第13号土坑実測図



- 1 暗褐色土層 粗砂少量・炭化材微小片微量含む 10YR3/3

第24図 第14号土坑実測図

## 12) 第12号土坑

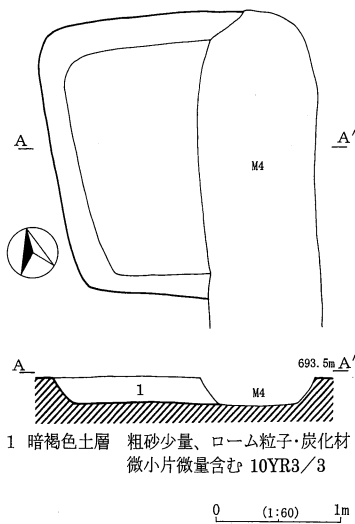
第12号土坑は、調査区の中央、き・く-9グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西98cm・南北166cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ15°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

## 13) 第13号土坑

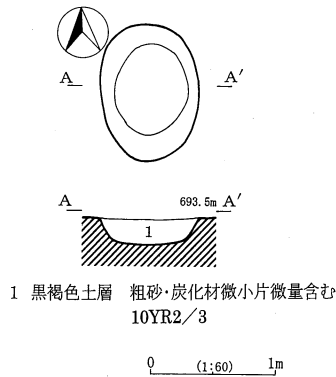
第13号土坑は、調査区の西側、え-16・17グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。平面の形態は楕円形で、規模は東西93cm・南北72cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は南へ7°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

## 14) 第14号土坑

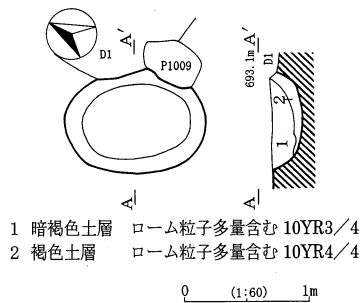
第14号土坑は、調査区の西側、お-17グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。平面の形態は楕円形で、規模は東西73cm・南北92cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ12°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



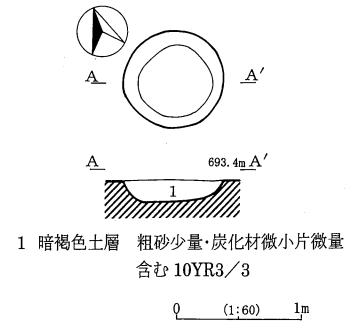
第25図 第17号土坑実測図



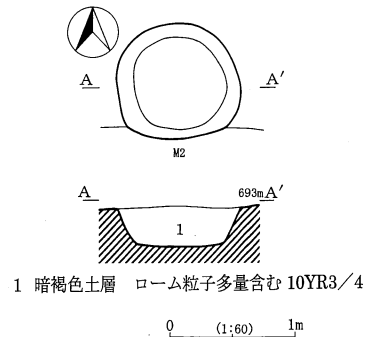
第26図 第15号土坑実測図



第28図 第18号土坑実測図



第27図 第16号土坑実測図



第29図 第19号土坑実測図

## 15) 第15号土坑

第15号土坑は、調査区の西側、かー17グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は楕円形で、規模は東西80cm・南北111cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ5.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

## 16) 第16号土坑

第16号土坑は、調査区の中央北端、えー9グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は円形で、規模は80cm×77cmを測る。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

遺物は、常滑製の甕の破片が出土した。

## 17) 第17号土坑

第17号土坑は、調査区の西側、かー18・19グリッド内に位置し、第4号溝状遺構に東側を破壊される。本土坑は全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は方形と推測され、規模は南北227cm・東西現存136cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ5.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

遺物は、常滑製の甕の破片が出土した。

## 18) 第18号土坑

第18号土坑は、調査区の東側、くー4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお第1号土坑・第1009号ピットにより東側を破壊される。

平面の形態は楕円形で、規模は東西現存82cm・南北113cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ19°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

## 19) 第19号土坑

第19号土坑は、調査区の西側、くー4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお南側壁上部を第2号溝状遺構により破壊される。

平面の形態は円形で、規模は98cm×現存93cmを測る。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

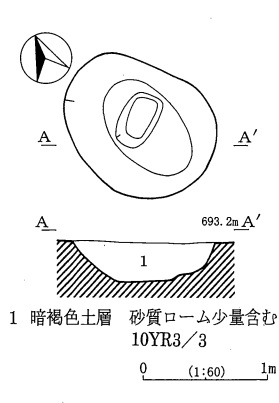
## 20) 第20号土坑

第20号土坑は、調査区の中央北側、かー10グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

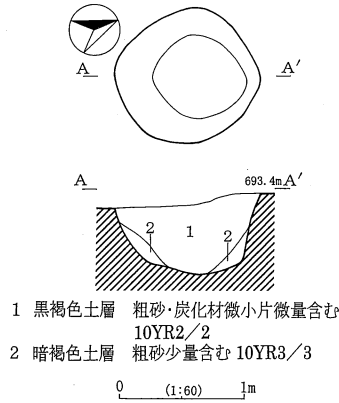
平面の形態は楕円形で、中央に深さ13.5cmを測るピットをもつ。規模は東西104cm・南北129cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ21°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

## 21) 第21号土坑

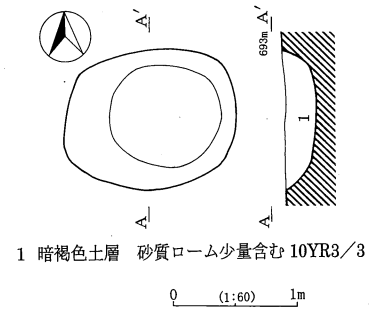
第21号土坑は、調査区の北西部、うー13グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。平面の形態は隅の丸い方形で、規模は東西103cm・南北107cmを測る。北を主とした軸は西へ21°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。



第30図 第20号土坑実測図



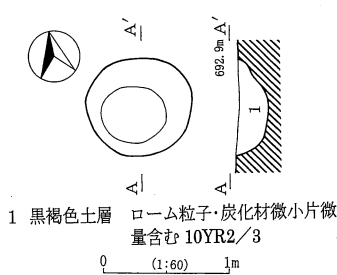
第31図 第21号土坑実測図



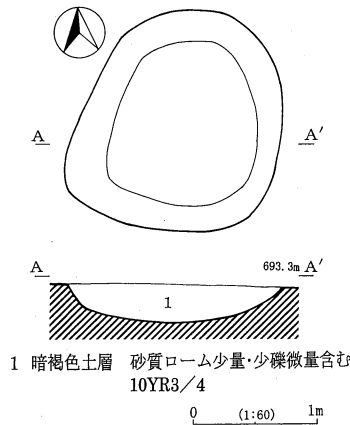
第32図 第22号土坑実測図

## 22) 第22号土坑

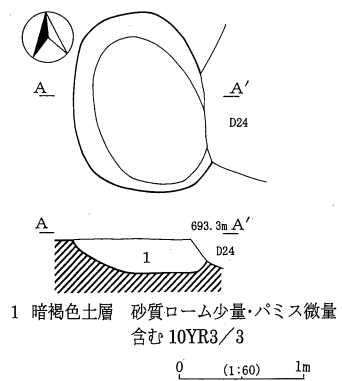
第22号土坑は、調査区の東側、けー4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。平面の形態は楕円形で、規模は東西139cm・南北112cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は北へ10°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



第33図 第23号土坑実測図



第34図 第24号土坑実測図



第35図 第25号土坑実測図

## 23) 第23号土坑

第23号土坑は、調査区の東側、こー4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。平面の形態は楕円形で、規模は東西84cm・南北78cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は南へ6.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

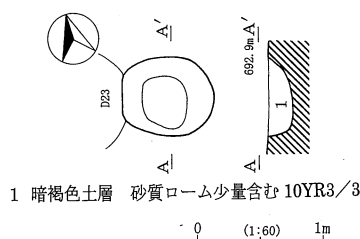
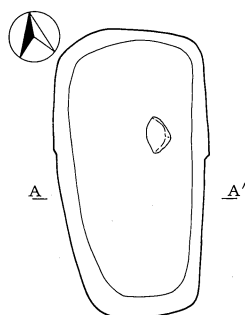
## 24) 第24号土坑

第24号土坑は、調査区の西側、き・く—16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。平面の形態は不整楕円形で、規模は東西162cm・南北182cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ19°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。遺物は、中世前半代の古瀬戸の壺片・土師質土器破片・台石・敲き石などが出土した。

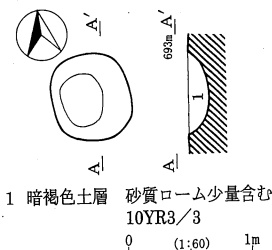
## 25) 第25号土坑

第25号土坑は、調査区の西側、く—16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお東壁を第24号土坑により破壊される。

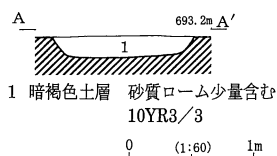
平面の形態は楕円形で、規模は東西現存106cm・南北148cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ14°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。遺物は、中世前半代の古瀬戸の壺の破片などが出土した。



第37図 第27号土坑実測図



第38図 第28号土坑実測図



第36図 第26号土坑実測図

## 26) 第26号土坑

第26号土坑は、調査区の西側、き・く—15グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西123cm・南北232cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ10.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。遺物は、中世前半代の常滑製の甕片・角釘・炭化材などが出土した。

## 27) 第27号土坑

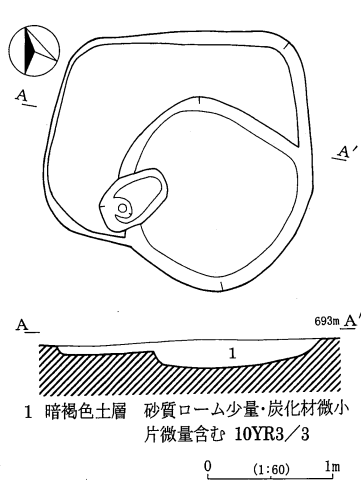
第27号土坑は、調査区の東側、こ—3グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西側壁上部を第23号土坑により破壊される。

平面の形態は楕円形で、規模は東西現存73cm・南北62cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は南へ16°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。遺物は、常滑製の甕片などが出土した。

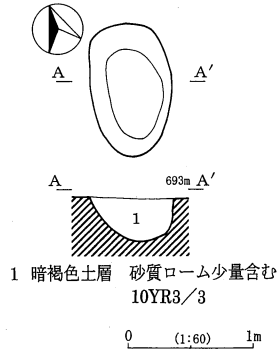
## 28) 第28号土坑

第28号土坑は、調査区の東側、こー6 グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

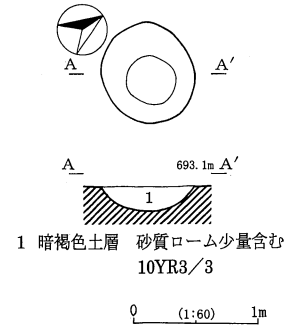
平面の形態は楕円形で、規模は東西63cm・南北73cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ22°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



第39図 第29号土坑実測図



第40図 第30号土坑実測図



第41図 第31号土坑実測図

## 29) 第29号土坑

第29号土坑は、調査区の中央やや東寄り、く・けー8・9 グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は不整長方形で、規模は東西216cm・南北207cmを測る。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。また南側床面でピットが検出され、深さは26cmを測る。本土坑は2基の土坑が重複していた可能性が高いが、覆土での差異は認められなかった。

遺物は、中世前半代の瀬戸の甕片などが出土した。

## 30) 第30号土坑

第30号土坑は、調査区の中央部の北寄り、お・かー8 グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

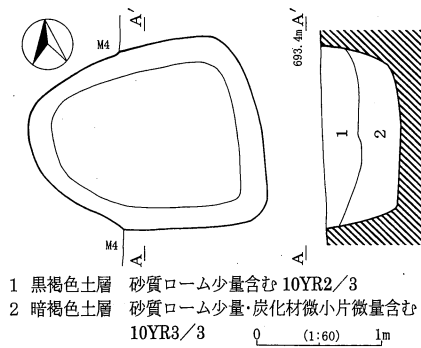
平面の形態は楕円形で、規模は東西66cm・南北107cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ17.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

## 31) 第31号土坑

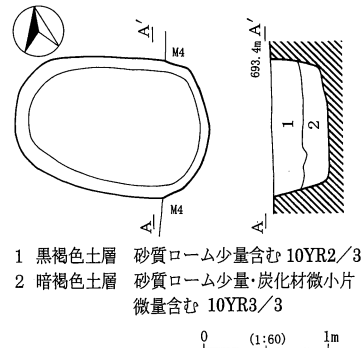
第31号土坑は、調査区の中央部の北寄り、かー7・8 グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は円形で、規模は81cm×73cmを測る。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

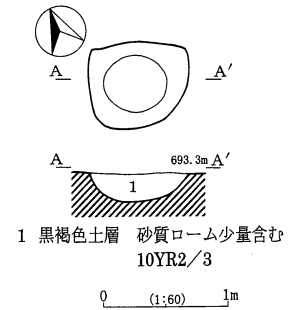




第42図 第32号土坑実測図



第43図 第33号土坑実測図



第44図 第34号土坑実測図

### 32) 第32号土坑

第32号土坑は、調査区の西側、くー18・19グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお第4号溝状遺構により西側壁上部を破壊される。

平面の形態は不整長方形で、規模は東西184cm・南北140cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は北へ6°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

遺物は、中世前半代の古瀬戸の壺片・角釘・擦り石などが出土した。

### 33) 第33号土坑

第33号土坑は、調査区の西側、くー18・19グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお第4号溝状遺構により東壁上部を破壊される。

平面の形態は楕円形で、規模は東西157cm・南北112cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は南へ13.5°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

遺物は、中世前半代の常滑製の甕片・擦り石などが出土した。

### 34) 第34号土坑

第34号土坑は、調査区の中央北側、おー7グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は楕円形で、規模は東西80cm・南北71cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は南へ22°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

### 35) 第35号土坑

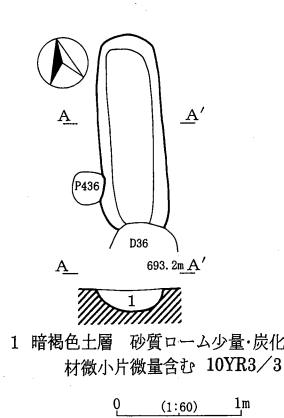
第35号土坑は、調査区の中央部、か・きー12グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西壁の一部を第436号ピットに、南端を第36号土坑により破壊される。

平面の形態は楕円形で、規模は東西52cm・南北現存151cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ15°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

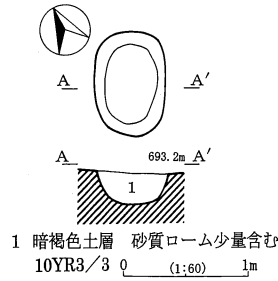
### 36) 第36号土坑

第36号土坑は、調査区の中央部、きー12グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

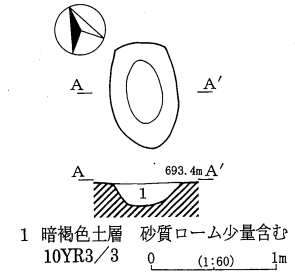
平面の形態は楕円形で、規模は東西57cm・南北83cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ29.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



第45図 第35号土坑実測図



第46図 第36号土坑実測図



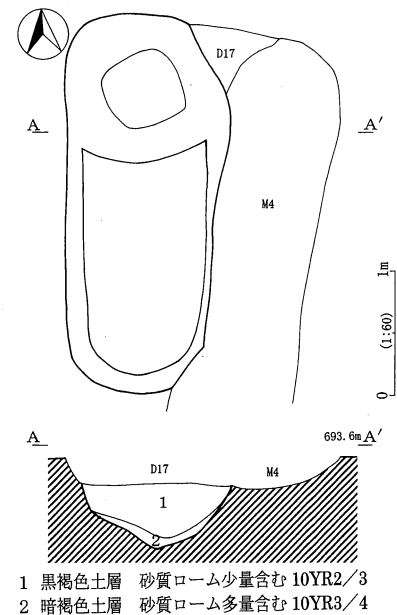
第47図 第38号土坑実測図

### 37) 第37号土坑

第37号土坑は、調査区の西側、かー18・19グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお東壁を第4号溝状遺構に、北東部を第17号土坑により破壊される。

平面の形態は楕円形で、規模は東西現存132cm・南北303cmを測る。また南側のテラスと北側底部との比高差は37.5cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ0.5°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕の破片・角釘・一部火を受けて変色した台石・敲き石などが出土した。



第48図 第37号土坑実測図

### 38) 第38号土坑

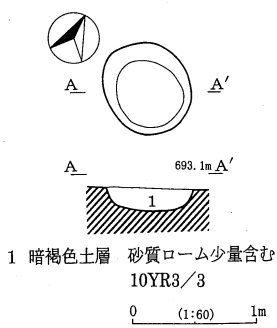
第38号土坑は、調査区の中央北側、うー11グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は楕円形で、規模は東西55cm・南北84cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ25°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

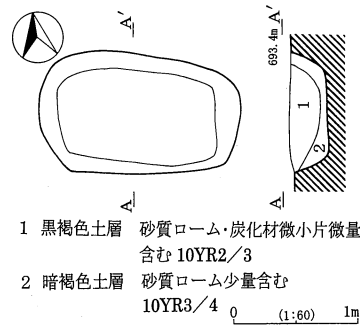
### 39) 第39号土坑

第39号土坑は、調査区の中央部、きー10グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

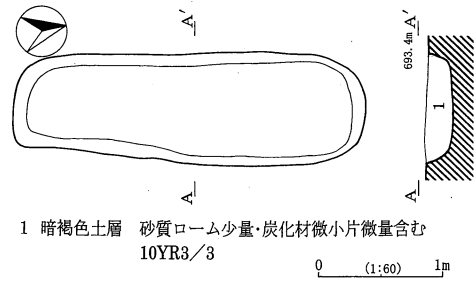
平面の形態は楕円形で、規模は東西66cm・南北77cmを測る。北を主とした軸は西へ61°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



第49図 第39号土坑実測図



第50図 第40号土坑実測図



第51図 第41号土坑実測図

#### 40) 第40号土坑

第40号土坑は、調査区の西側、か・き—15グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

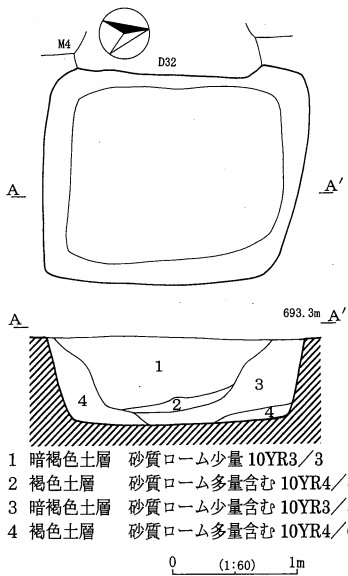
平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西163cm・南北97cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は東へ10°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕の破片が出土した。

#### 41) 第41号土坑

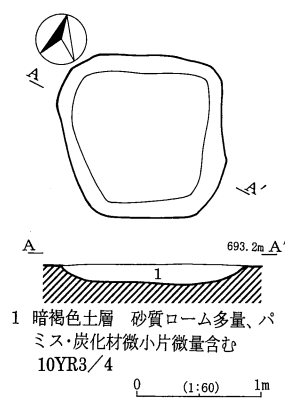
第41号土坑は、調査区の西側、か・き—15グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西89cm・南北282cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ8.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

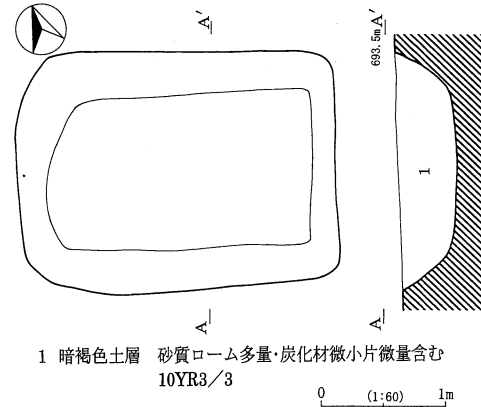


第53図 第43号土坑実測図

第52図 第42号土坑実測図



第54図 第44号土坑実測図



#### 42) 第42号土坑

第42号土坑は、調査区の西側、く—18グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西壁の上部を第32号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西現存167cm・南北210cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ7°ずれる。検出面から床までの土層は4層が確認された。

遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕片と古瀬戸の壺片・滑石製不明模造品などが出土した。

### 43) 第43号土坑

第43号土坑は、調査区の西側、く・け—13グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は隅の丸い方形で、規模は東西132cm・南北131cmを測る。北を主とした軸は西へ9.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

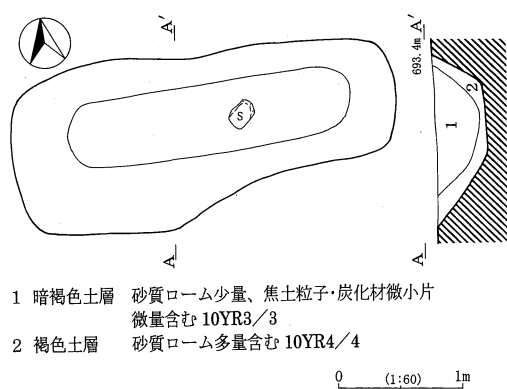
遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕片などが出土した。

### 44) 第44号土坑

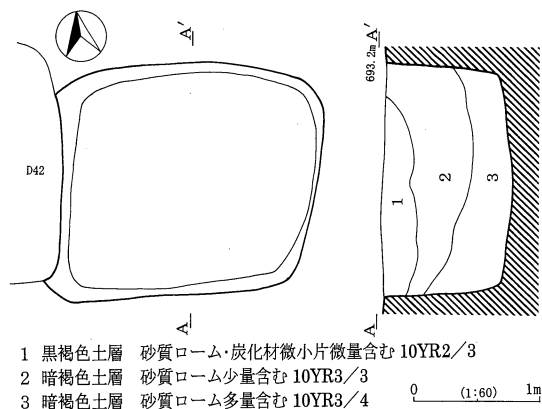
第44号土坑は、調査区の西側、か・き—15・16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西256cm・南北192cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は南へ18°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕片・敲き石などが出土した。



第55図 第45号土坑実測図



第56図 第48号土坑実測図

### 45) 第45号土坑

第45号土坑は、調査区の西側、き—17・18グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は楕円形で、規模は東西313cm・南北140cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は北へ4.5°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕片・青磁片・擦り石・炭化材などが出土した。

### 46) 第46号土坑

第46号土坑は、調査区の西側、き—15グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は楕円形で、規模は東西97cm・南北253cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸

は西へ15°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

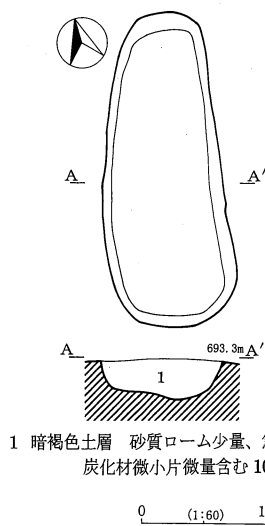
遺物は、角釘・炭化材などが出土した。

### 47) 第48号土坑

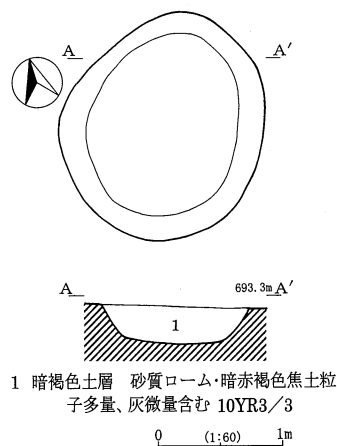
第48号土坑は、調査区の西側、くー18グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西側壁の上部を第42号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西現存207cm・南北186cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は南へ9°ずれる。検出面から床までの土層は3層が確認された。

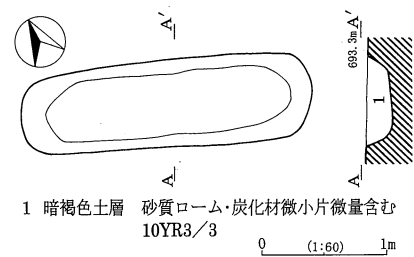
遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕片・青磁碗片・擦り石・火を受け変色した台石・角釘などが出土した。



第57図 第46号土坑実測図



第58図 第49号土坑実測図



第59図 第50号土坑実測図

### 48) 第49号土坑

第49号土坑は、調査区の西側、きー16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

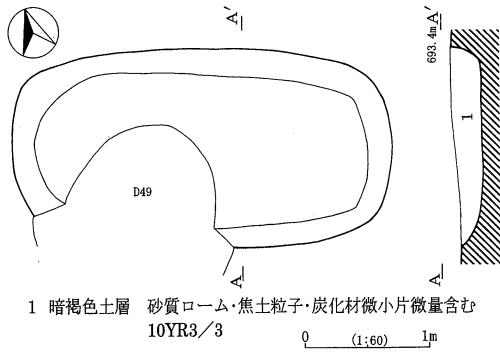
平面の形態は楕円形で、規模は東西160cm・南北184cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は西へ31.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

遺物は、白色のかわらけ・古瀬戸壺片・角釘・皇宋通宝・炭化材などが出土した。

### 49) 第50号土坑

第50号土坑は、調査区の西側、きー14・15グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

平面の形態は楕円形で、規模は東西235cm・南北72cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は北へ13.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



第60図 第51号土坑実測図

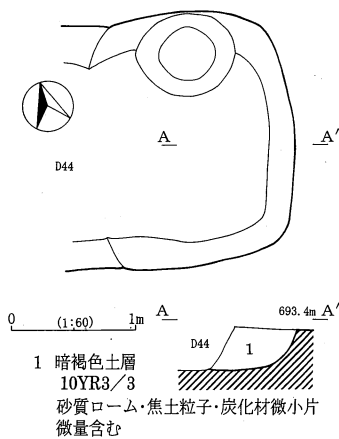
## 50) 第51号土坑

第51号土坑は、調査区の西側、き—16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお南西部を第49号土坑により破壊される。

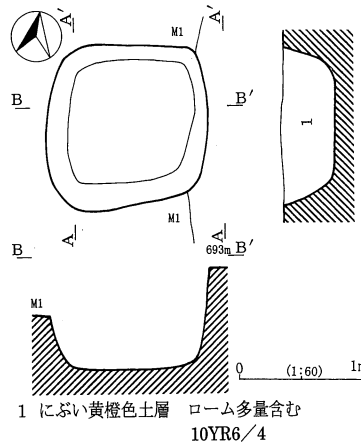
平面の形態は楕円形で、規模は東西306cm・南北160cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は南へ18.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

遺物は、中世前半代と考えられる常滑製甕の破片、

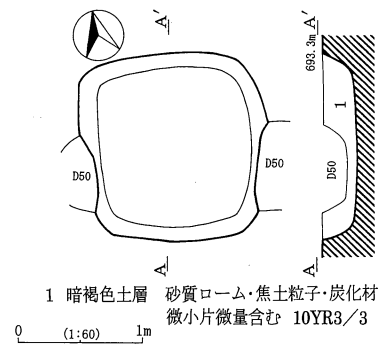
陶器製の鉢片・古瀬戸の壺の破片・角釘・砂岩製の砥石などが出土した。



第61図 第52号土坑実測図



第62図 第53号土坑実測図



第63図 第54号土坑実測図

## 51) 第52号土坑

第52号土坑は、調査区の西側、か・き—15・16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西側を第44号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西現存152cm・南北204cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ12°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。また北端でピットが検出され、床面からの深さは7cmを測る。

## 52) 第53号土坑

第53号土坑は、調査区の東側、き・く—5グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお東側壁付近を除き、上部を第1号溝状遺構により破壊される。

平面の形態は隅の丸い方形で、規模は東西現存130cm・南北現存132cmを測る。北を主とした軸は西へ1.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

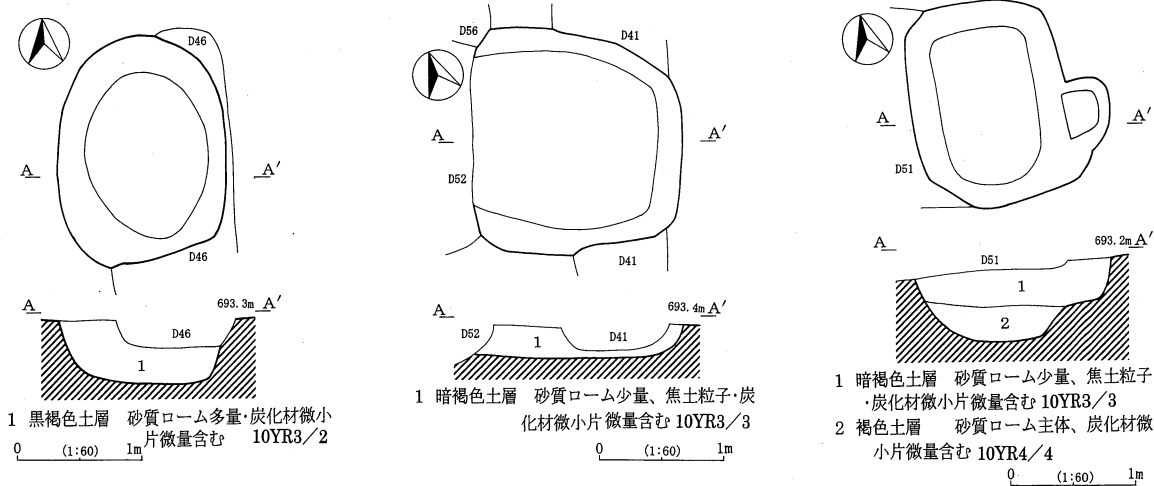
遺物は、すり鉢の破片、台石・黒色緻密安山岩製の石核などが出土した。

### 53) 第54号土坑

第54号土坑は、調査区の西側、き—15グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお東西壁上部を第50号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い方形で、規模は東西148cm・南北141cmを測る。北を主とした軸は東へ10°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

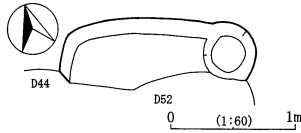
遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕片・擦り石・敲き石などが出土した。



第64図 第55号土坑実測図

第65図 第57号土坑実測図

第66図 第59号土坑実測図



第67図 第56号土坑実測図

### 54) 第55号土坑

第55号土坑は、調査区の東側、き—15グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお東側上部を第46号土坑により破壊される。

平面の形態は楕円形で、規模は東西現存136cm・南北現存178cmを測る。北を主とした軸は東へ7°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

### 55) 第56号土坑

第56号土坑は、調査区の西側、か—15・16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお南側を第44号・第52号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い方形と考えられ、規模は東西155cm・南北現存58cmを測る。

### 56) 第57号土坑

第53号土坑は、調査区の西側、か・き—15・16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西側を第52・56号土坑に、東側を第41号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形と考えられ、規模は東西現存168cm・南北181cmを測る。北を主とした軸は東へ15°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

遺物は、すり鉢の破片、台石・黒色緻密安山岩製の石核などが出土した。

### 57) 第58号土坑

第58号土坑は、調査区の西側、きー15・16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西側上部を第51号土坑に、南側を第59号土坑に、東側を第55号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形と考えられ、規模は東西現存281cm・南北138cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は北へ1.5°ずれる。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

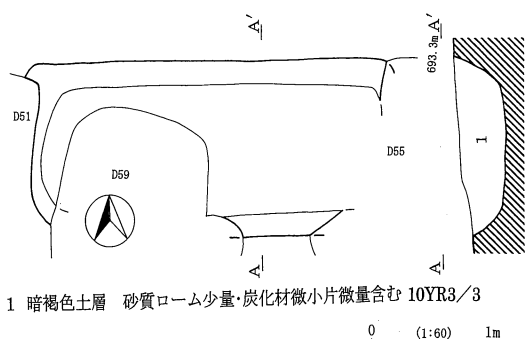
遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕片・古瀬戸壺片、土師質土器などが出土した。

### 58) 第59号土坑

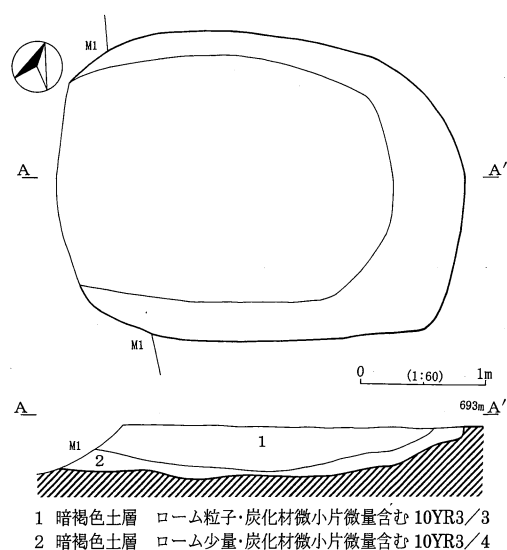
第59号土坑は、調査区の西側、きー16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西側上部を第51号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形で、南東部に入口状のテラスをもつ。規模は東西現存124cmでテラス部を含めて157cm・南北163cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ3°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

遺物は、中世前半代と考えられる常滑製の甕片などが出土した。



第68図 第58号土坑実測図



第69図 第60号土坑実測図

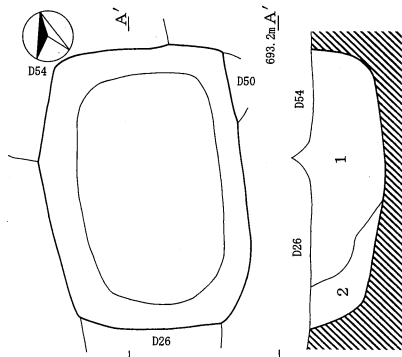
### 59) 第60号土坑

第60号土坑は、調査区の東側、けー4・5グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西側を第1号溝状遺構により破壊される。

平面の形態は楕円形で、規模は東西現存325cm・南北248cmを測る。長軸の方向は東西を指し、東を主とした軸は北へ10°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

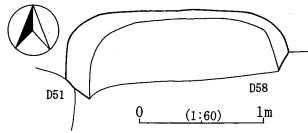


遺物は、敲き石・黒色緻密安山岩製のフレイクなどが出土した。

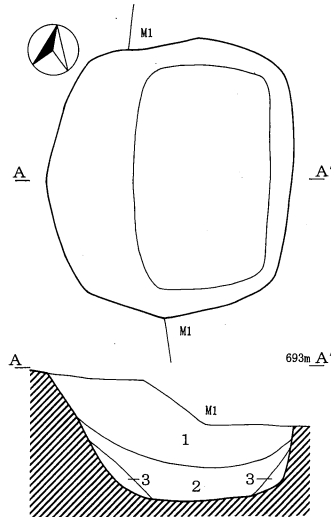


- 1 黒褐色土層 砂質ローム少量、焦土粒子・炭化材大粒  
～微小片微量含む 10YR2/3
- 2 褐色土層 砂質ローム多量含む 10YR4/4

第70図 第61号土坑実測図

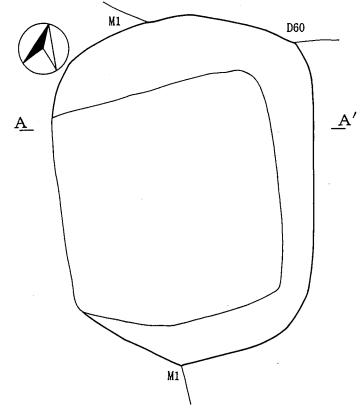


第71図 第64号土坑実測図



- 1 暗褐色土層 砂質ローム少量・炭化材微小片  
微量含む 10YR3/3
- 2 黒褐色土層 砂質ローム・炭化材微小片微量  
含む 10YR2/3
- 3 褐色土層 砂質ローム主体 10YR4/4

第72図 第62号土坑実測図



- 1 暗褐色土層 砂質ローム少量・炭化材微小片  
微量含む 10YR3/3
- 2 黒褐色土層 砂質ローム・炭化材微小片微量  
含む 10YR2/3
- 3 褐色土層 砂質ローム主体 10YR4/4

第73図 第63号土坑実測図

## 60) 第61号土坑

第61号土坑は、調査区の西側、き・く—15グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお北西上部を第54号土坑に、北東上部を第50号土坑に、南上部を第26号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西現存161cm・南北現存226cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は東へ6.5°ずれる。検出面から床までの土層は2層が確認された。

遺物は、陶製坏、敲き石・火を受け変色した台石・石鏃・角釘などが出土した。

## 61) 第62号土坑

第62号土坑は、調査区の東側、く—5・6グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお東側を第1号溝状遺構により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形で、規模は東西現存195cm・南北現存219cmを測る。長軸の方向は南北を指し、北を主とした軸は西へ10°ずれる。検出面から床までの土層は3層が確認された。

遺物は、台石・擦り石などが出土した。

## 62) 第63号土坑

第63号土坑は、調査区の東側、け・こ—4・5グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお西側を第1号溝状遺構により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形と考えられ、規模は東西現存212cm・南北現存274cmを測る。長軸の方向は

南北を指し、北を主とした軸は西へ24°ずれる。検出面から床までの土層は3層が確認された。

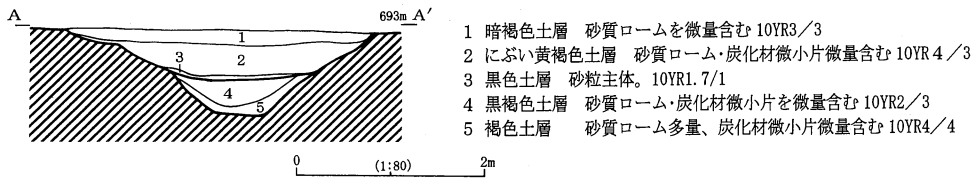
### 63) 第64号土坑

第64号土坑は、調査区の西側、きー16グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。なお南側を第51・58号土坑により破壊される。

平面の形態は隅の丸い長方形と考えられ、規模は東西177cm・南北現存59cmを測る。

## 3 溝状遺構

### 1) 第1号溝状遺構



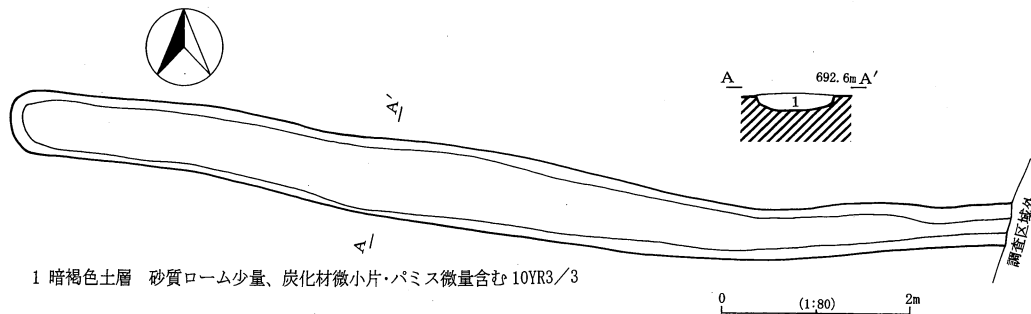
第74図 第1号溝状遺構土層断面図

第1号溝状遺構は、調査区の東側、えーしー3～6グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

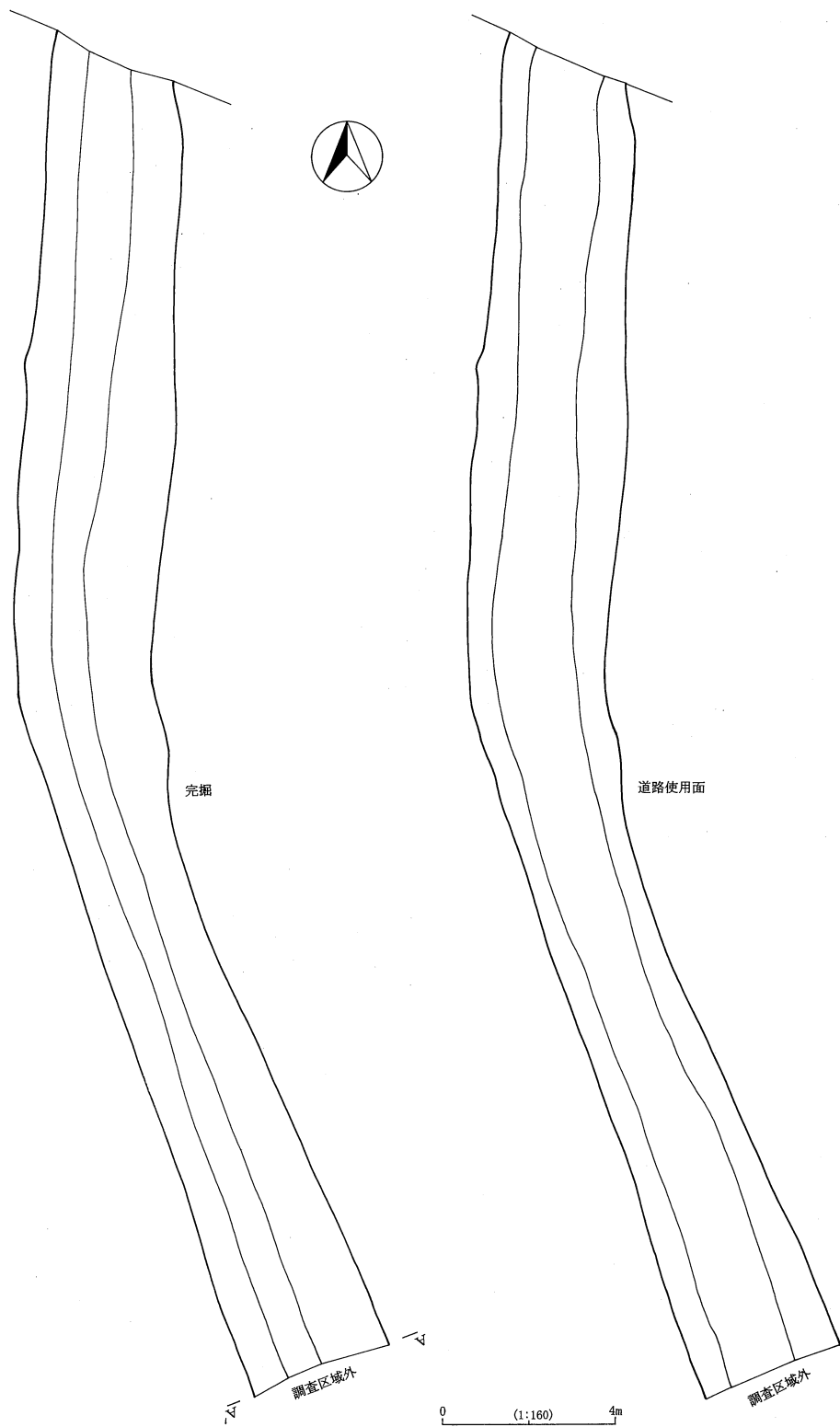
断面の形態は底部の平坦なV字状を呈する。規模は検出長で31.32m・幅2.58m～3.52mを測る。また床面のレベルは北から南に向かって緩やかに低下する。検出面から床までの土層は5層が確認された。

本遺構は、第4層上面で道路として使用されていたと考えられ、第3層は道路使用時の硬化面である。道路としての使用年代は、中世の遺構を破壊している点・近世中頃の遺物が混入していない点などを考慮し、中世後半代から近世前期頃と推測される。また第4・5層を覆土にもつ溝は、中世の遺構に破壊されたり、破壊したりしているため、中世の大溝と考えられる。

遺物は、道路使用面および道路覆土から多量の搬入礫が、大溝から陶製甕片・常滑製甕片・すり鉢破片・土師質土器・青磁碗片・台石・敲き石・擦り石などが出土した。



第75図 第2号溝状遺構実測図

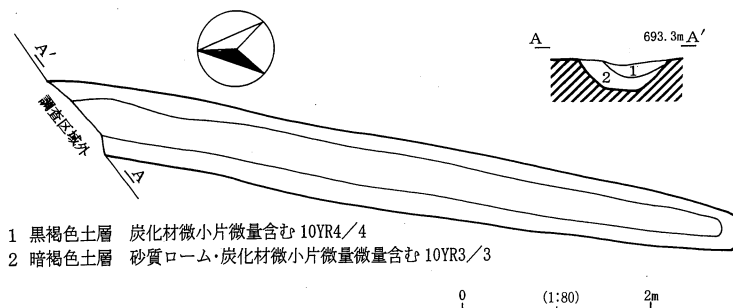


第76図 第1号溝状遺構実測図

## 2) 第2号溝状遺構

第2号溝状遺構は、調査区の東側、く・けー2～4グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

規模は検出長で10.61m・幅0.88m～0.32mを測る。また床面のレベルは東から西に向かって緩やかに低下する。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

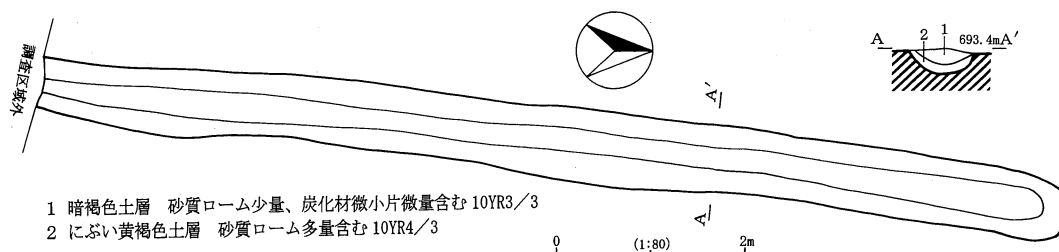


第77図 第3号溝状遺構実測図

### 3) 第3号溝状遺構

第3号溝状遺構は、調査区の西側、う～お—18グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

規模は検出長で7.38m・幅0.73m～0.56mを測る。また床面のレベルはほぼフラットである。検出面から床までの土層は2層が確認された。



第78図 第4号溝状遺構実測図

### 4) 第4号溝状遺構

第4号溝状遺構は、調査区の西側、か～け—18・19グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

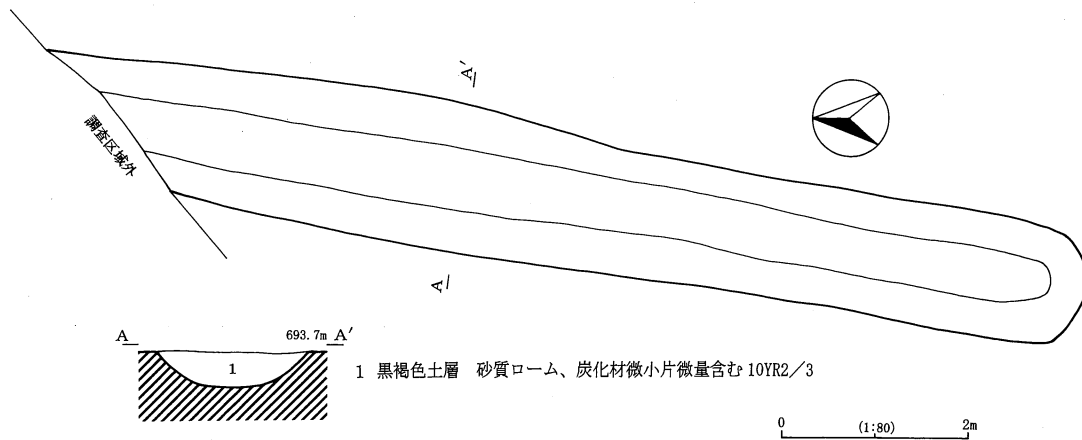
規模は検出長で10.88m・幅0.79m～0.55mを測る。また床面のレベルは北から南に向かって緩やかに低下する。検出面から床までの土層は2層が確認された。

遺物は台石が出土した。

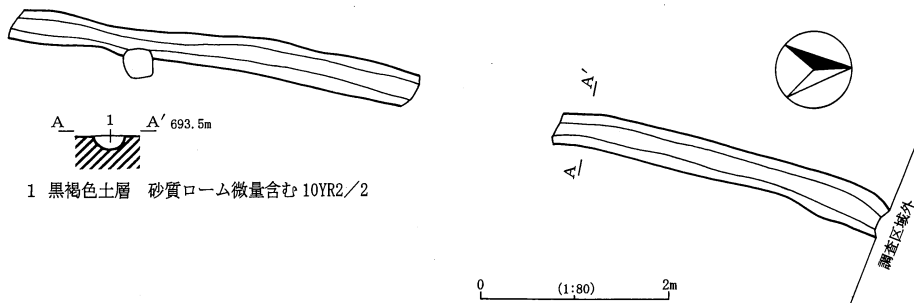
### 5) 第5号溝状遺構

第5号溝状遺構は、調査区の西側、お～き—19グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

規模は検出長で11.02m・幅1.32m～1.58mを測る。また床面のレベルは北から南に向かって緩やかに低下する。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。



第79図 第5号溝状遺構実測図



第80図 第6号溝状遺構実測図

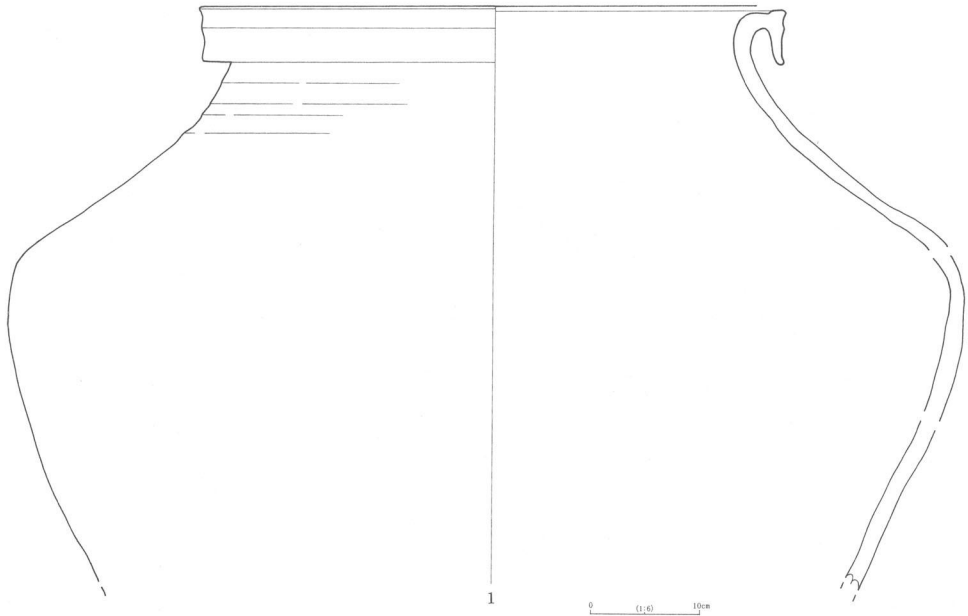
## 6) 第6号溝状遺構

第6号溝状遺構は、調査区の中央北側、い～え-10・11グリッド内に位置し、全体層序第Ⅲ層中において検出された。

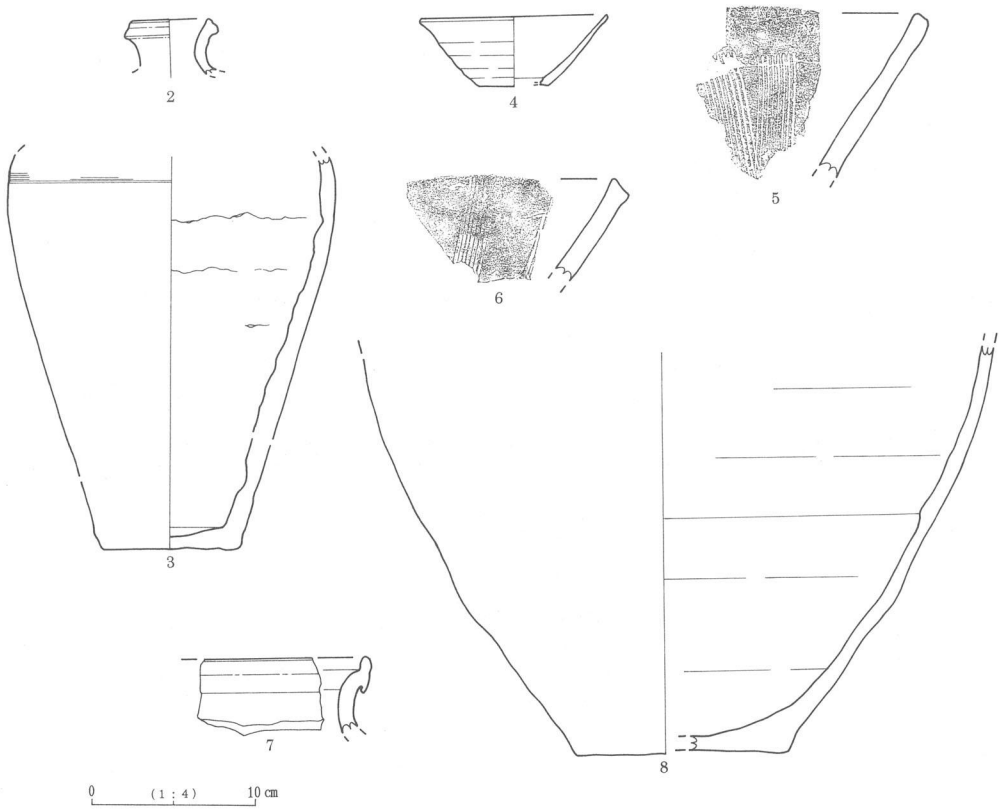
規模は検出長で9.46m・幅0.27m～0.43mを測る。また床面のレベルは北から南に向かって緩やかに低下する。検出面から床までの土層は1層のみが確認された。

第2表 出土遺物説明表

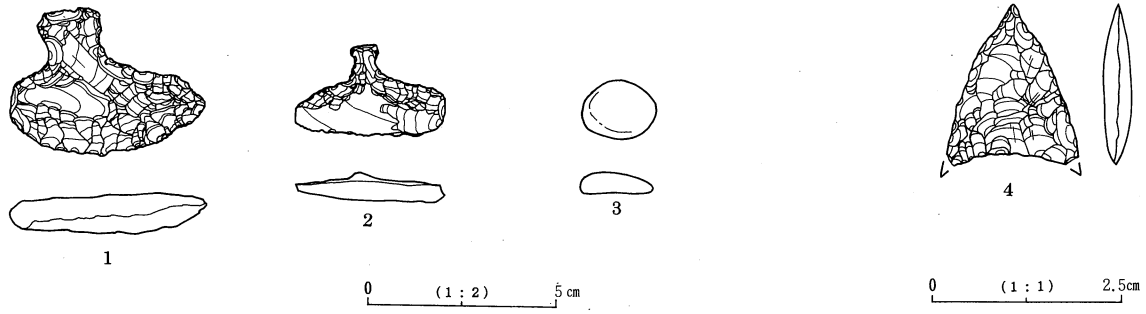
挿図番号	出土遺構	種別	器種	時代	特徴
81-1	D17・26・37・45 D48、M4・5	陶器	大甕	中世前半	常滑。
82-2	D49	陶器	壺	中世前半	灰釉・瀬戸。82-3と同一個体
82-3	D49・51・58	陶器	壺	中世前半	灰釉・瀬戸。胴最大部に単位3本の櫛描文。82-2と同一個体
82-4	D26	陶器	山茶碗	中世	灰釉か
82-5	D53・M1	土師器	すり鉢	中世	櫛目8本
82-6	M1	陶器	すり鉢	中世	櫛目7本
82-7	D49	陶器	甕	中世	常滑。82-8と同一個体
82-8	D45・49・51	陶器	甕	中世	常滑。82-7と同一個体



第81図 出土陶器実測図



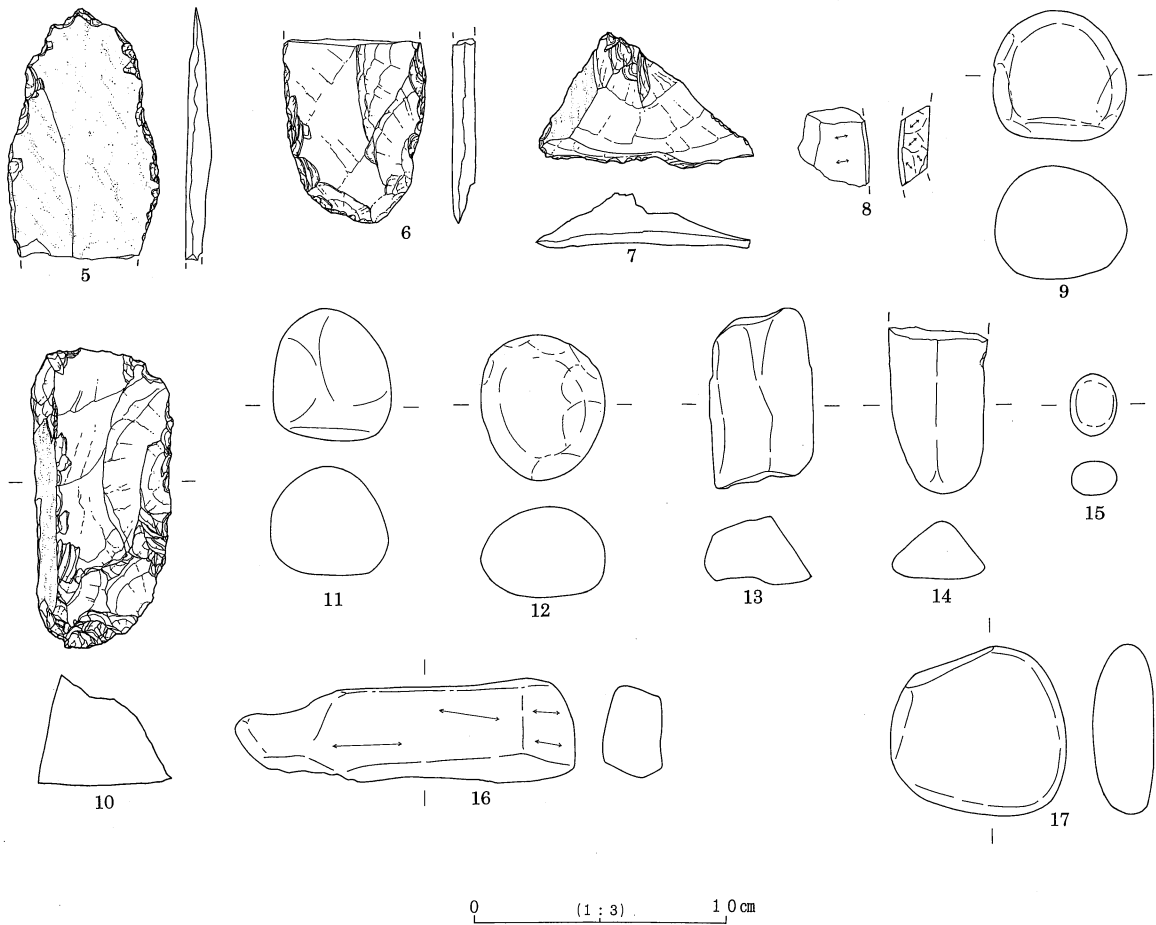
第82図 出土遺物実測図



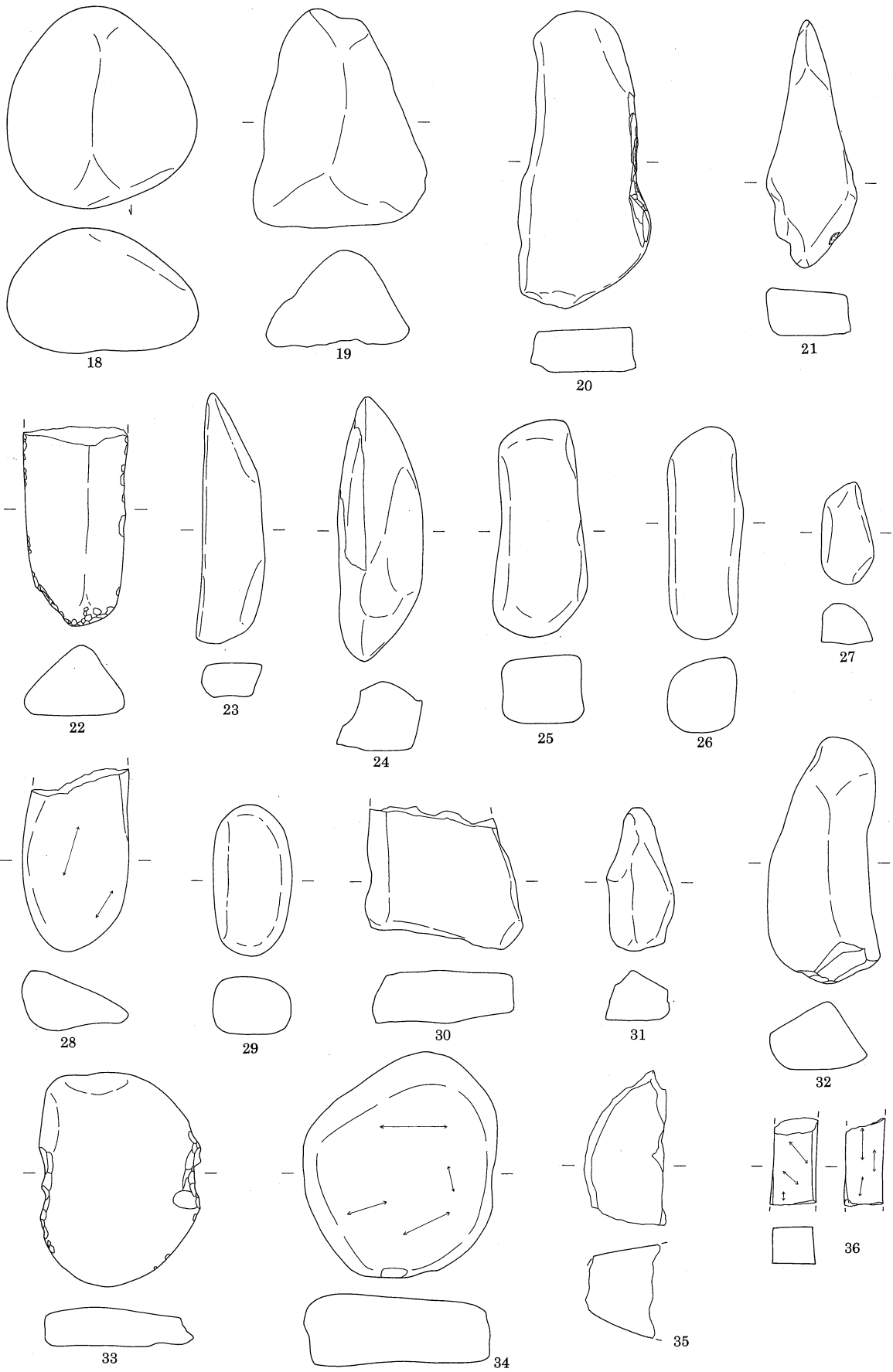
第83図 出土石器実測図

第3表 出土石器説明表

挿図番号	出土遺構	種別	材質	特徴
83-1	Ta 2	石匙	灰色チャート	
83-2	き-8 Gr	石匙	灰色チャート	
83-3	Ta 2	不明	閃緑岩	全面に研磨痕
83-4	D61	石鏃	黒曜石	凹基。逆刺両端折損



第84図 出土石器実測図



第85图 出土石器表测图

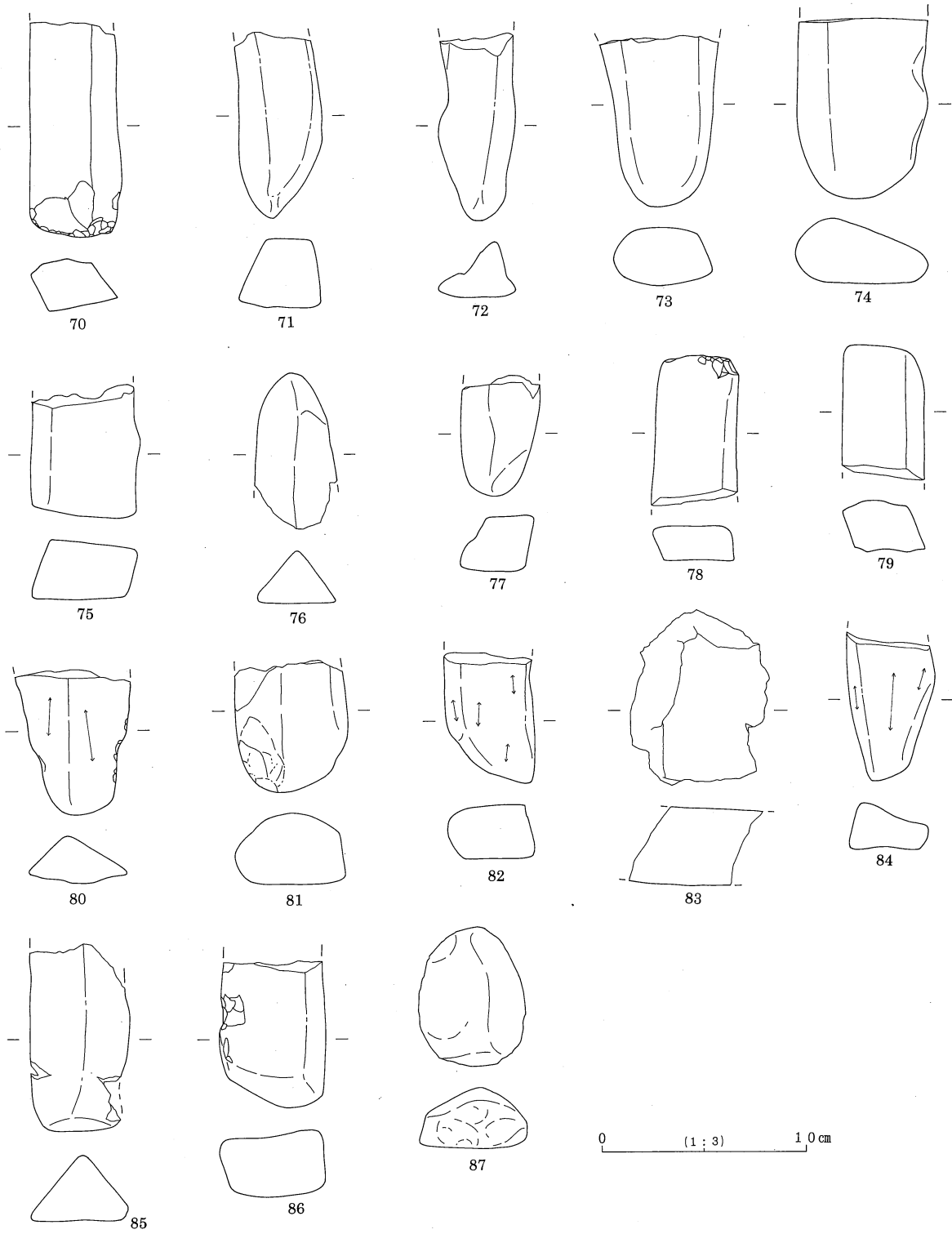




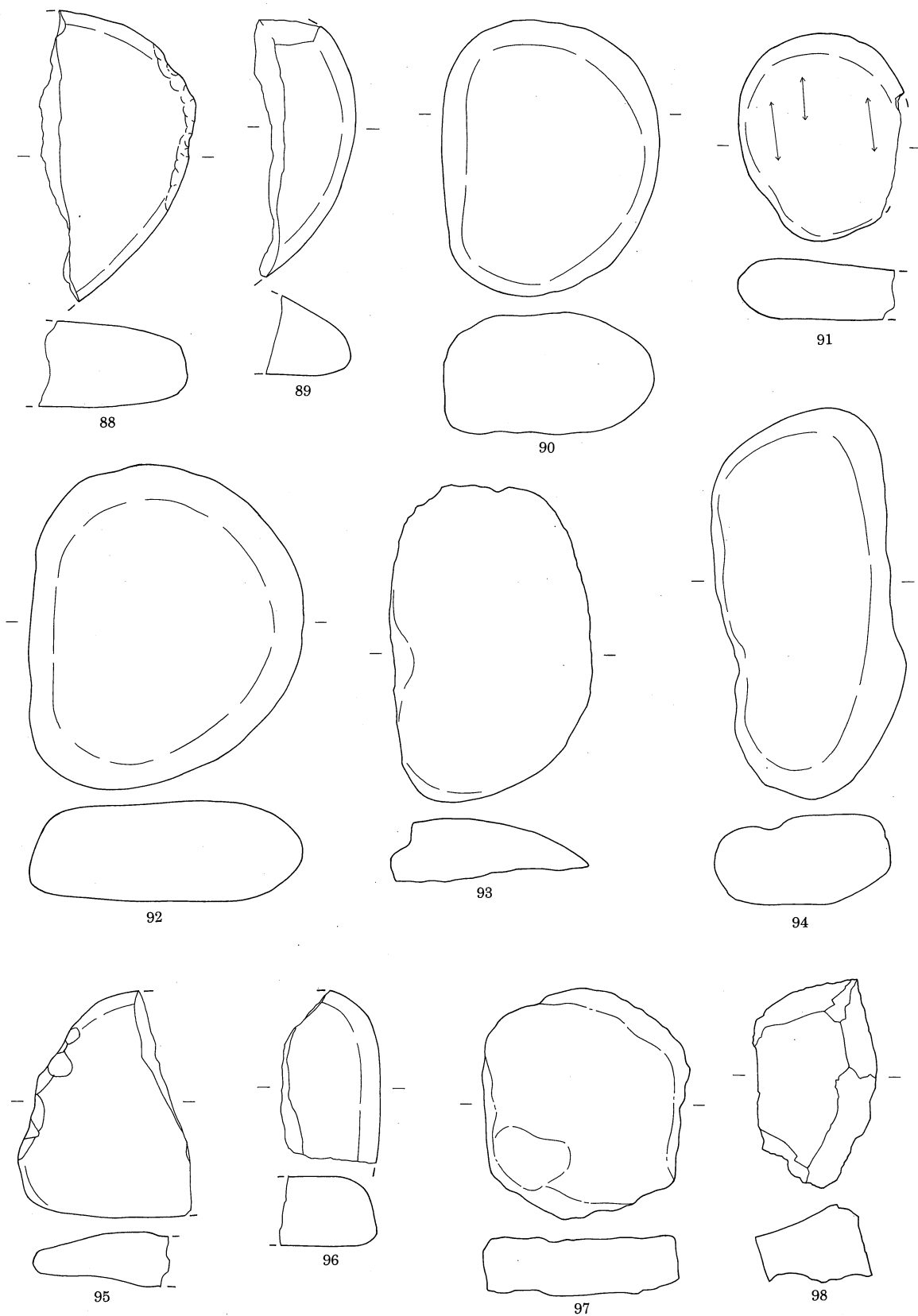
第86图 出土石器实测图



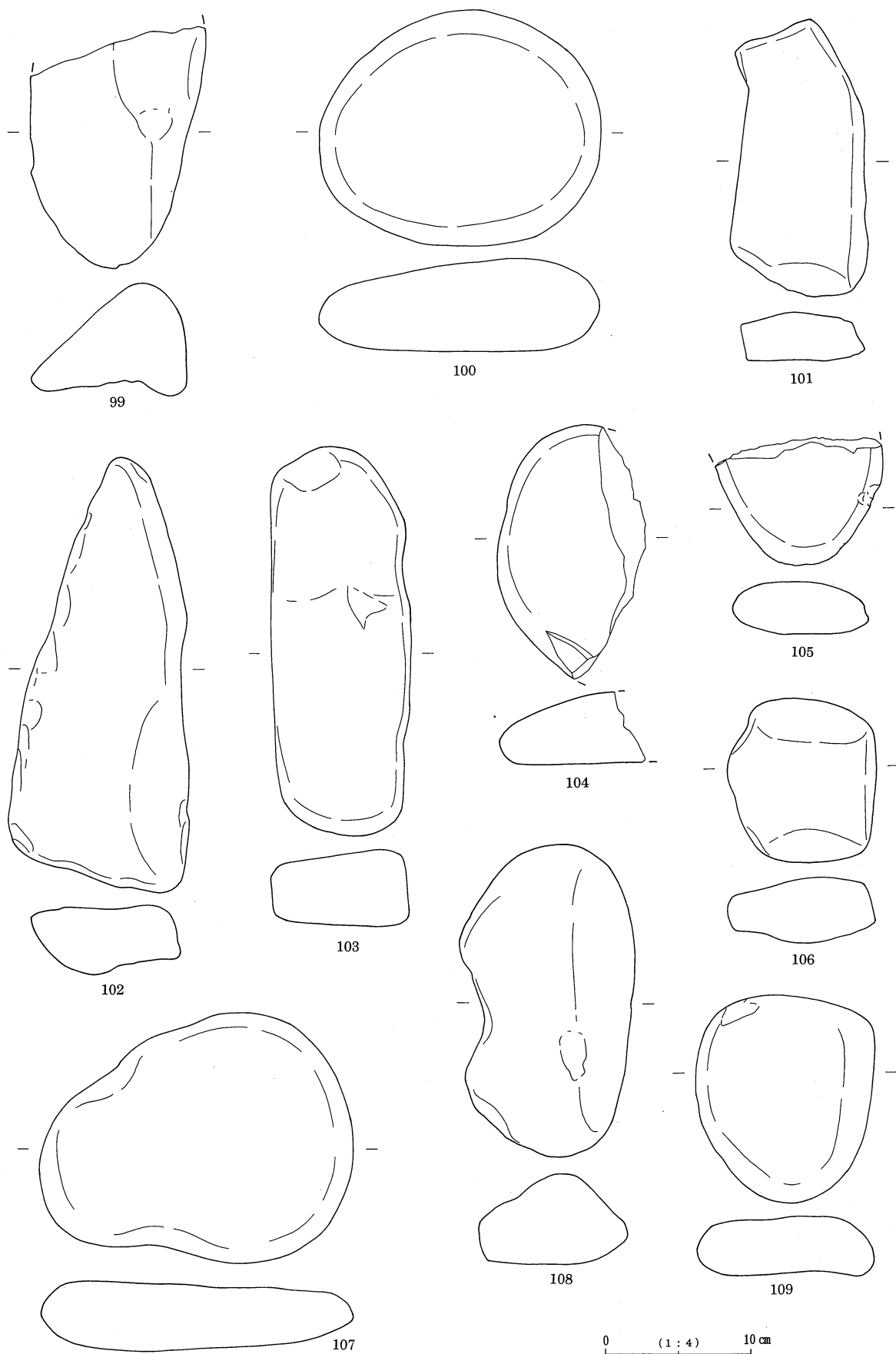
第87图 出土石器实测图



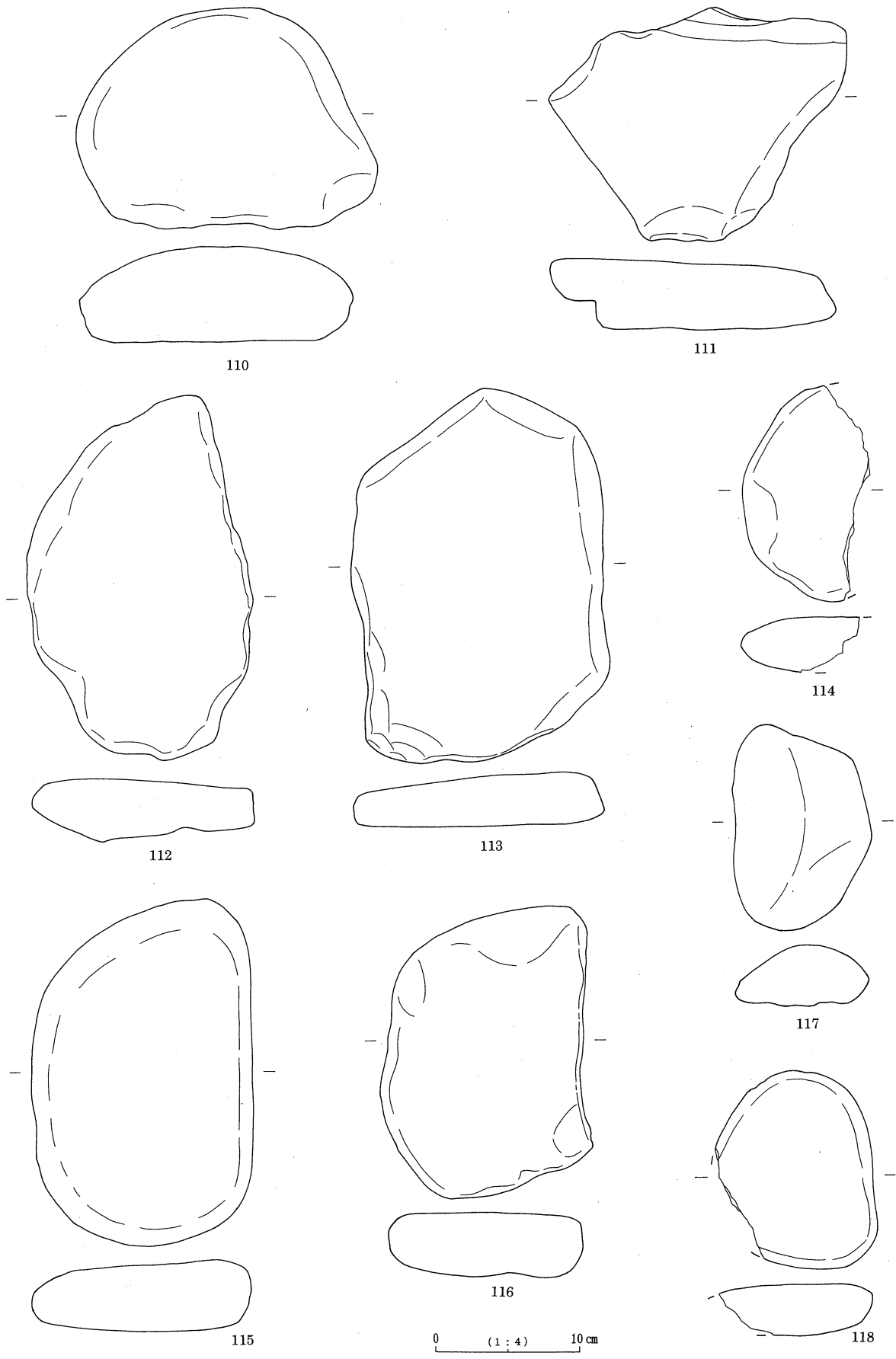
第88图 出土石器实测图



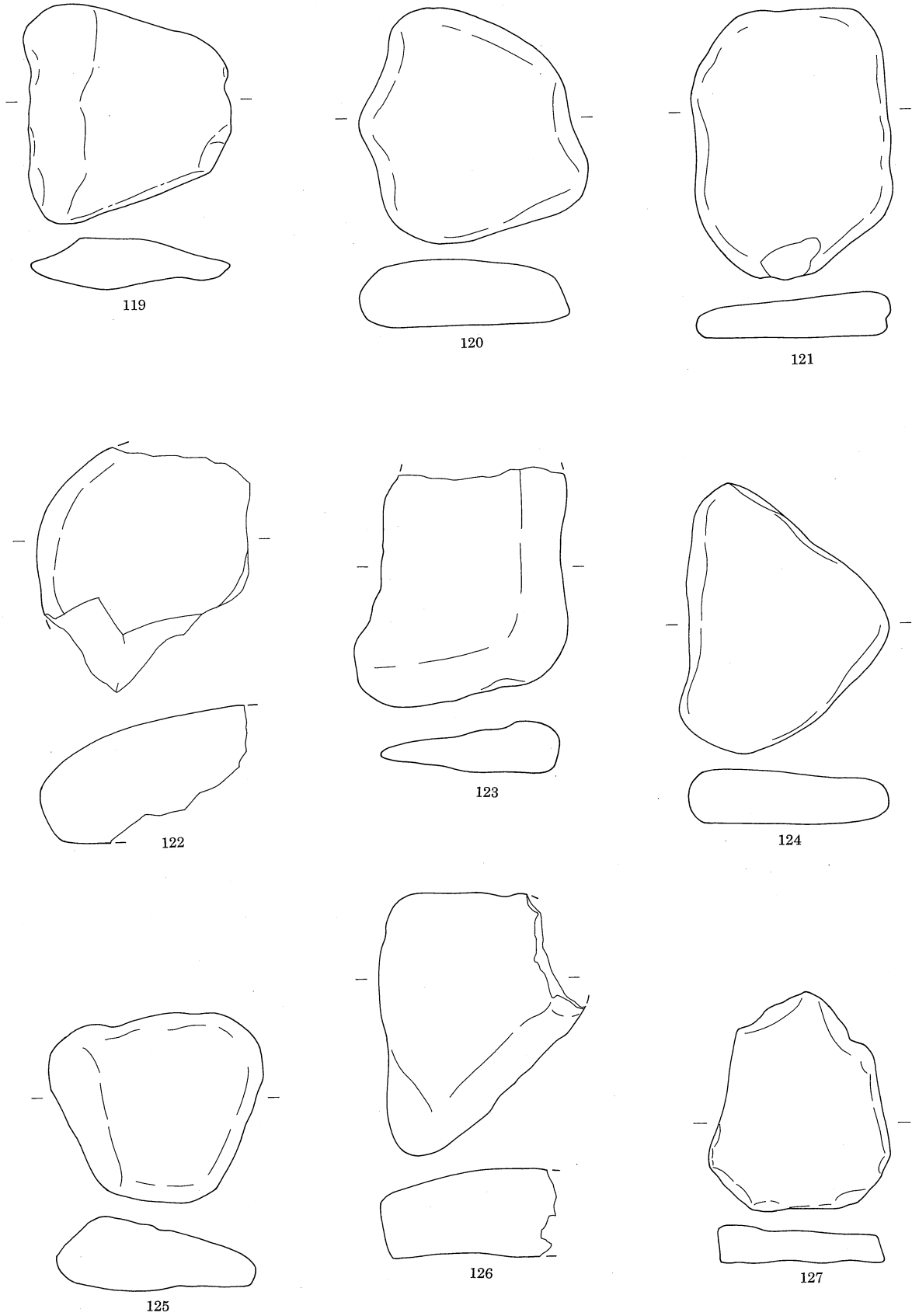
第89图 出土石器实测图



第90图 出土石器实测图

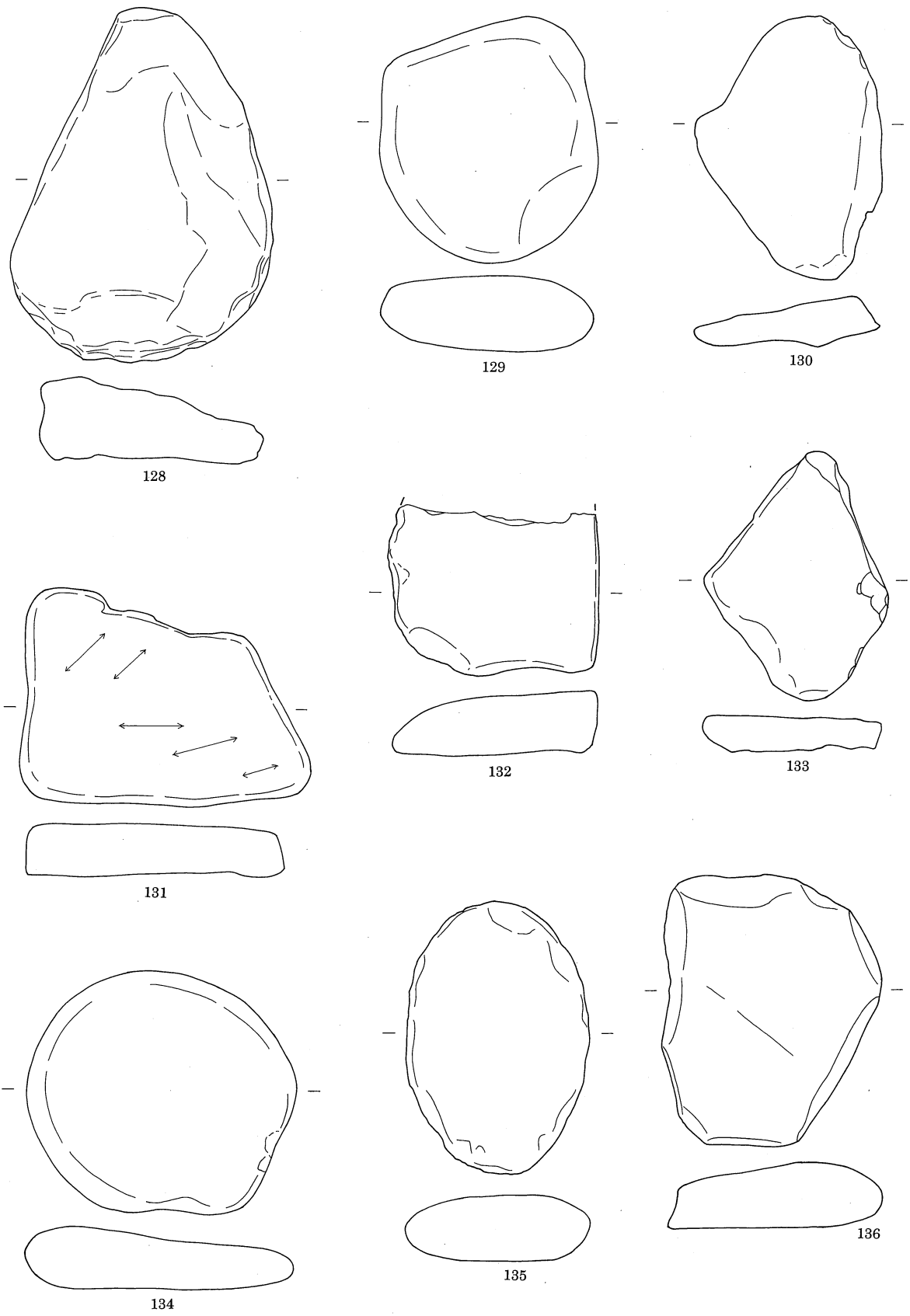


第91图 出土石器实测图



0 (1:4) 10 cm

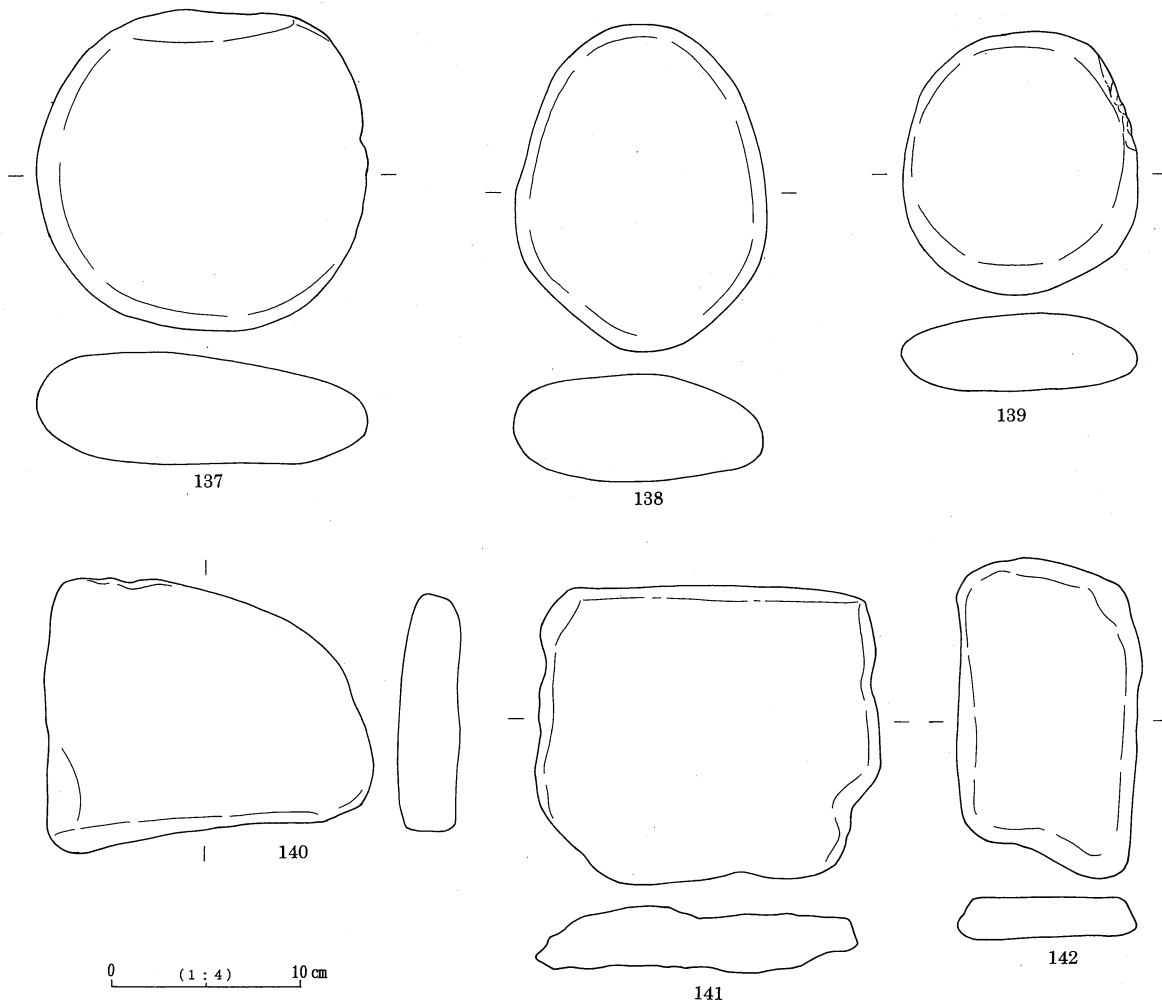
第92图 出土石器实测图



0 (1:4) 10 cm

第93图 出土石器实测图





第94図 出土石器実測図

第4表 出土石器説明表

挿図番号	出土遺構	種別	材質	特徴
84-5	そ-12Gr	打製石斧	輝石安山岩	折損
84-6	M1	打製石斧	輝石安山岩	折損。先端刃部に使用磨耗痕
84-7	D60	フレイク	黒色緻密安山岩	刃部に使用痕
84-8	D42	不明	滑石	研磨成形
84-9	M1	擦り石	安山岩	全面に使用擦過痕
84-10	D53	石核	黒色緻密安山岩	疑刃部に使用剥離痕
84-11	M1	擦り石	輝石安山岩	全面に使用擦過痕
84-12	M1	擦り石	角閃石安山岩	全面に使用擦過痕
84-13	Ta1	敲き石	輝石安山岩	辺部を中心に使用敲打痕
84-14	D54	擦り石	凝灰岩	折損。端部に使用擦過痕
84-15	D32	擦り石	輝石安山岩	全面に使用擦過痕
84-16	D1	敲き石・砥石	安山岩	辺部に敲打痕。火を受け変色
84-17	D24	敲き石	輝石安山岩	辺部を中心に使用敲打痕
85-18	D62	擦り石・敲き石	安山岩	敲打痕・擦過痕。火を受け変色
85-19	D37	敲き石	粗粒黒曜石	辺部に敲打痕
85-20	D60	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕

第5表 出土石器説明表

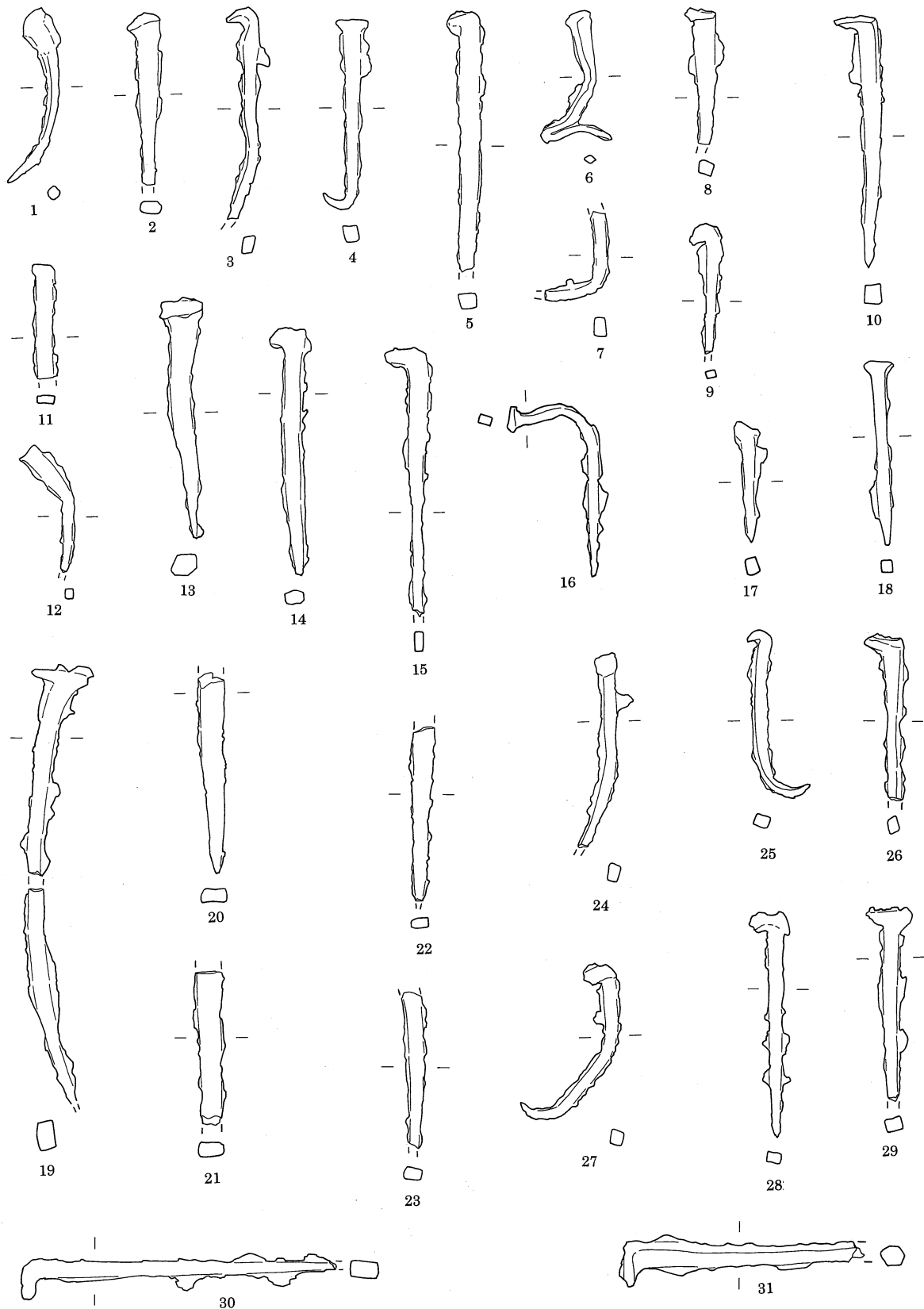
挿図番号	出土遺構	種 別	材 質	特 徴
85-21	D44	敲き石	輝石安山岩	辺部に使用敲打痕
85-22	D61	敲き石	輝石安山岩	辺部に使用敲打痕。折損
85-23	D61	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕
85-24	D61	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕・剥離痕
85-25	D61	敲き石	輝石安山岩	端部・辺部を中心に使用敲打痕
85-26	D48	擦り石	凝灰岩	端部を中心に使用擦過痕
85-27	D27	擦り石	輝石安山岩	端部を中心に使用擦過痕
85-28	D51	砥石	砂岩	砥面2面
85-29	D45	擦り石	輝石安山岩	全面に使用擦過痕
85-30	D54	敲き石	安山岩	辺部に使用敲打痕
85-31	し-5 Gr	敲き石	灰褐色チャート	辺部・端部に使用痕
85-32	け-18Gr	敲き石	輝石安山岩	辺部・端部に使用敲打痕
85-33	M 1	敲き石	溶結凝灰岩	辺部に使用敲打痕
85-34	M 1	砥石・敲き石	輝石安山岩	砥面2面。辺部に使用敲打痕
85-35	M 1	台石	輝石安山岩	表面に光沢、使用擦過痕
85-36	M 1	砥石	流紋岩	砥面4面
86-37	M 1	砥石・敲き石	凝灰岩	砥面1面。敲打剥離痕
86-38	M 1	敲き石	安山岩	辺部に敲打痕
86-39	M 1	敲き石・砥石	輝石安山岩	砥面2面。辺部に敲打痕
86-40	M 1	敲き石	溶結凝灰岩	辺部に敲打痕
86-41	M 1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕
86-42	M 1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕
86-43	M 1	擦り石・敲き石	ホルンヘルス	辺部を中心に敲打痕
86-44	M 1	擦り石・砥石	凝灰岩	砥面2面。端部に使用擦過痕
86-45	M 1	敲き石	輝石安山岩	辺部・端部に敲打痕
86-46	M 1	敲き石	凝灰岩	敲打剥離痕
86-47	M 1	敲き石	輝石安山岩	敲打痕・擦過痕
86-48	M 1	敲き石	輝石安山岩	辺部に使用敲打痕
86-49	M 1	敲き石	輝石安山岩	敲打痕
87-50	M 1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打剥離痕
87-51	M 1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打剥離痕
87-52	M 1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕
87-53	M 1	敲き石	安山岩	辺部を中心に敲打剥離痕
87-54	M 1	敲き石	輝石安山岩	敲打痕
87-55	M 1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕
87-56	M 1	敲き石	輝石安山岩	敲打剥離痕
87-57	M 1	擦り石	凝灰岩	使用擦過痕
87-58	M 1	敲き石	輝石安山岩	辺部・端部に敲打剥離痕
87-59	M 1	擦り石・敲き石	輝石安山岩	敲打・擦過痕
87-60	M 1	敲き石	輝石安山岩	敲打痕
87-61	M 1	敲き石	玢岩	敲打痕
87-62	M 1	擦り石	砂岩	端部に使用擦過痕
87-63	M 1	敲き石	安山岩	敲打痕

第6表 出土石器説明表

挿図番号	出土遺構	種 別	材 質	特 徴
87-64	M1	擦り石・砥石	輝石安山岩	一部に光沢
87-65	M1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕
87-66	M1	擦り石・敲き石	輝石安山岩	敲打剥離・擦過痕
87-67	M1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打剥離痕
87-68	M1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕
87-69	M1	敲き石	輝石安山岩	敲打痕
88-70	M1	敲き石	輝石安山岩	辺部・端部に敲打剥離痕
88-71	M1	敲き石	輝石安山岩	端部・辺部に敲打剥離痕
88-72	M1	擦り石	玢岩	端部に使用擦過痕
88-73	M1	擦り石	砂岩	端部を中心に使用擦過痕
88-74	M1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打痕
88-75	M1	敲き石	溶結凝灰岩	辺部に敲打痕
88-76	M1	敲き石	玢岩	敲打痕
88-77	M1	敲き石	玢岩	敲打剥離痕
88-78	M1	敲き石	輝石安山岩	敲打痕
88-79	M1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打剥離痕
88-80	M1	擦り石・敲き石	輝石安山岩	砥石としても使用、砥面2面。敲打擦過痕
88-81	M1	敲き石	輝石安山岩	敲打痕
88-82	M1	敲き石・砥石	輝石安山岩	砥面3面。辺部に敲打痕
88-83	M1	台石	安山岩	使用擦過痕
88-84	M1	擦り石・砥石	輝石安山岩	砥面3面。使用擦過痕
88-85	M1	敲き石	安山岩	敲打剥離痕
88-86	M1	敲き石	輝石安山岩	辺部に敲打剥離痕
88-87	M1	敲き石	輝石安山岩	敲打剥離痕
89-88	D1	台石	安山岩	辺部に敲打痕。表面に使用擦過痕
89-89	D48	台石	凝灰岩	使用擦過痕。火を受け変色
89-90	P166	礎石	花崗岩	
89-91	M4	台石・砥石	輝石安山岩	使用擦過痕
89-92	D24	台石	安山岩	使用擦過痕
89-93	D62	台石	輝石安山岩	使用擦過痕
89-94	D53	台石	輝石安山岩	表面に使用擦過痕
89-95	D61	台石	輝石安山岩	辺部に敲打剥離痕。表面に擦過痕
89-96	P804	台石	輝石安山岩	台石を成形して礎石として再利用か
89-97	D49	台石	粗粒黒曜石	表面に擦過痕
89-98	D48	台石	安山岩	表面に擦過痕。火を受け変色
90-99	D37	台石	安山岩	表面に擦過痕
90-100	D49	台石・砥石	砂岩	表面に使用擦過痕
90-101	P349	敲き石	粘板岩	辺部を中心に敲打痕
90-102	M1	搬入石	輝石安山岩	
90-103	M1	搬入石	輝石安山岩	
90-104	M1	搬入石	輝石安山岩	
90-105	D61	台石	凝灰岩	辺部に敲打剥離痕。表面に擦過痕。火を受け変色
90-106	M1	搬入石	輝石安山岩	

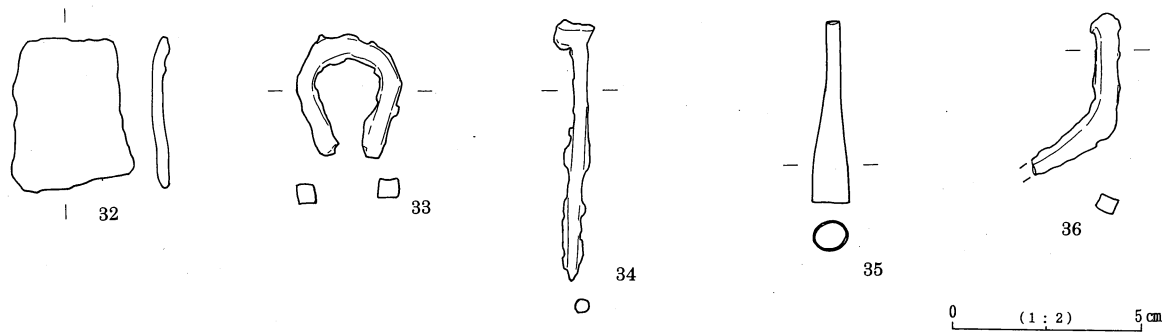
第7表 出土石器説明表

挿図番号	出土遺構	種 別	材 質	特 徴
90-107	M 1	台石	安山岩	表面に擦過痕
90-108	M 1	搬入石	輝石安山岩	
90-109	M 1	搬入石	輝石安山岩	
91-110	M 1	搬入石	安山岩	
91-111	M 1	搬入石	輝石安山岩	
91-112	M 1	搬入石	輝石安山岩	
91-113	M 1	台石	輝石安山岩	表面に使用擦過痕
91-114	M 1	搬入石	輝石安山岩	
91-115	M 1	台石	輝石安山岩	擦過痕
91-116	M 1	台石	輝石安山岩	表面に擦過痕
91-117	M 1	搬入石	安山岩	
91-118	M 1	搬入石	輝石安山岩	
92-119	M 1	搬入石	輝石安山岩	
92-120	M 1	台石	輝石安山岩	表面に擦過痕
92-121	M 1	台石	安山岩	表面に擦過痕。火を受け変色
92-122	M 1	搬入石	輝石安山岩	
92-123	M 1	搬入石	輝石安山岩	
92-124	M 1	搬入石	輝石安山岩	
92-125	M 1	搬入石	輝石安山岩	火を受け変色
92-126	M 1	搬入石	輝石安山岩	
92-127	M 1	搬入石	輝石安山岩	
93-128	M 1	搬入石	輝石安山岩	
93-129	M 1	搬入石	安山岩	
93-130	M 1	搬入石	輝石安山岩	
93-131	M 1	台石・砥石	輝石安山岩	砥面2面。
93-132	M 1	搬入石	輝石安山岩	
93-133	M 1	搬入石	輝石安山岩	
93-134	M 1	搬入石	輝石安山岩	
93-135	M 1	搬入石	輝石安山岩	
93-136	M 1	搬入石	輝石安山岩	
94-137	M 1	搬入石	輝石安山岩	
94-138	M 1	搬入石	輝石安山岩	
94-139	M 1	台石	輝石安山岩	表面に使用擦過痕。火を受け変色
94-140	M 1	搬入石	角閃石安山岩	
94-141	M 1	搬入石	輝石安山岩	
94-142	M 1	搬入石	輝石安山岩	



0 (1:2) 5cm

第95图 出土金属製品実測図



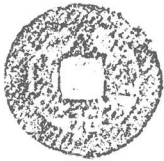
第96図 出土金属製品実測図

第8表 出土金属製品説明表

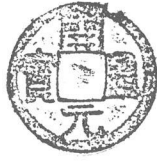
挿図番号	出土遺構	種別	材質	特徴
95-1	Ta 1	角釘	鉄	断面方形
95-2	D26	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損
95-3	D26	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損
95-4	D32	角釘	鉄	断面方形
95-5	D32	角釘	鉄	断面方形。先端欠損
95-6	D32	角釘	鉄	断面方形。屈曲
95-7	D32	角釘	鉄	断面長方形
95-8	D37	角釘	鉄	断面方形。先端欠損
95-9	D46	角釘	鉄	断面方形。先端欠損
95-10	D46	角釘	鉄	断面方形
95-11	D46	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損
95-12	D46	角釘	鉄	断面方形
95-13	D46	角釘	鉄	断面方形
95-14	D46	角釘	鉄	断面方形
95-15	D46	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損
95-16	D46	角釘	鉄	断面長方形
95-17	D48	角釘	鉄	断面方形
95-18	D48	角釘	鉄	断面方形
95-19	D61	角釘	鉄	断面長方形。中央部で折損・先端欠損
95-20	D61	角釘	鉄	断面長方形。頭部欠損
95-21	D61	角釘	鉄	断面長方形。頭部・先端欠損
95-22	D61	角釘	鉄	断面長方形。頭部・先端欠損
95-23	D49	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損
95-24	D49	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損
95-25	D49	角釘	鉄	断面長方形
95-26	D47	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損
95-27	D49	角釘	鉄	断面方形
95-28	D51	角釘	鉄	断面長方形
95-29	D54	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損
95-30	D54	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損
95-31	D47	角釘	鉄	断面方形。先端欠損
96-32	M 2	不明	鉄	

第9表 出土金属製品説明表

挿図番号	出土遺構	種 別	材 質	特 徴
96-33	M 4	不明	鉄	
96-34	か 8 Gr	角釘	鉄	断面方形
96-35	け20Gr	煙管	銅	
96-36	試掘	角釘	鉄	断面長方形。先端欠損



37



38

第10表 出土古銭説明表

挿図番号	出土遺構	銭 名	初 鑄 年
97-37	M 4	皇宋通宝	元宝二年 (1039年)
97-38	表採	開元通宝	武徳四年 (621年)

第97図 出土古銭拓影図 (1 : 1)

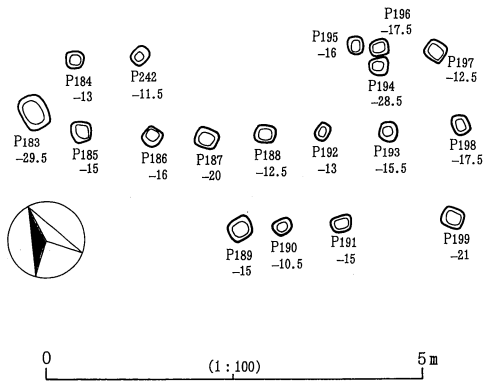
## 4 ピット

### 1) 第1号ピット群

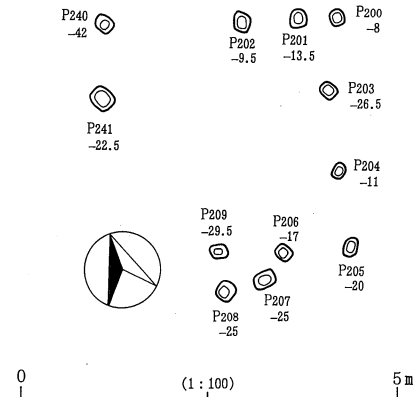


第98図 第1号ピット群実測図

第1号ピット群は、調査区東側のお〜くー1〜4グリッド内において検出された。全体がひとつの総柱の建物址と考えられる。また北側のP1〜P13は柵列と考えられる。覆土はいずれのピットも砂質ロームと炭化材微小片を微量含む黒褐色土であった。



第99図 第2号ピット群実測図



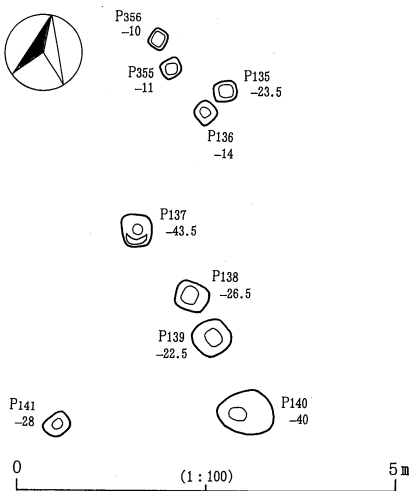
第100図 第3号ピット群実測図

## 2) 第2号ピット群

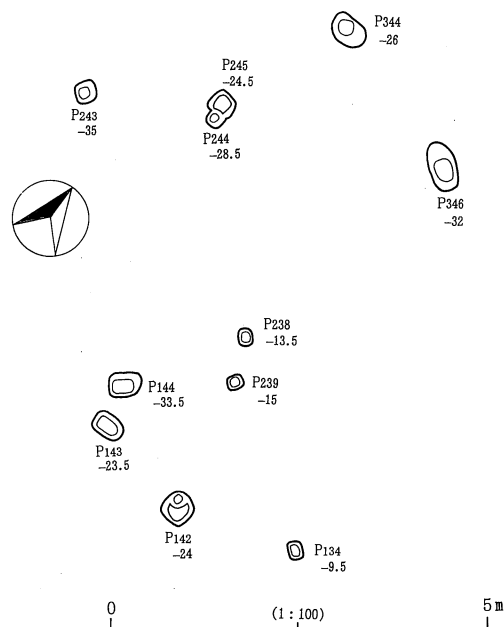
第2号ピット群は、調査区東側のか・こー3・4グリッド内において検出された。小規模な掘立柱建物址と考えられる。覆土は砂質ロームと炭化材微小片を微量含む黒褐色土であった。

## 3) 第3号ピット群

第3号ピット群は、調査区東側のこ・さー3・4グリッド内において検出された。小規模な掘立柱建物址と考えられる。覆土は砂質ロームと炭化材微小片を微量含む黒褐色土であった。



第101図 第4号ピット群実測図



第102図 第5号ピット群実測図

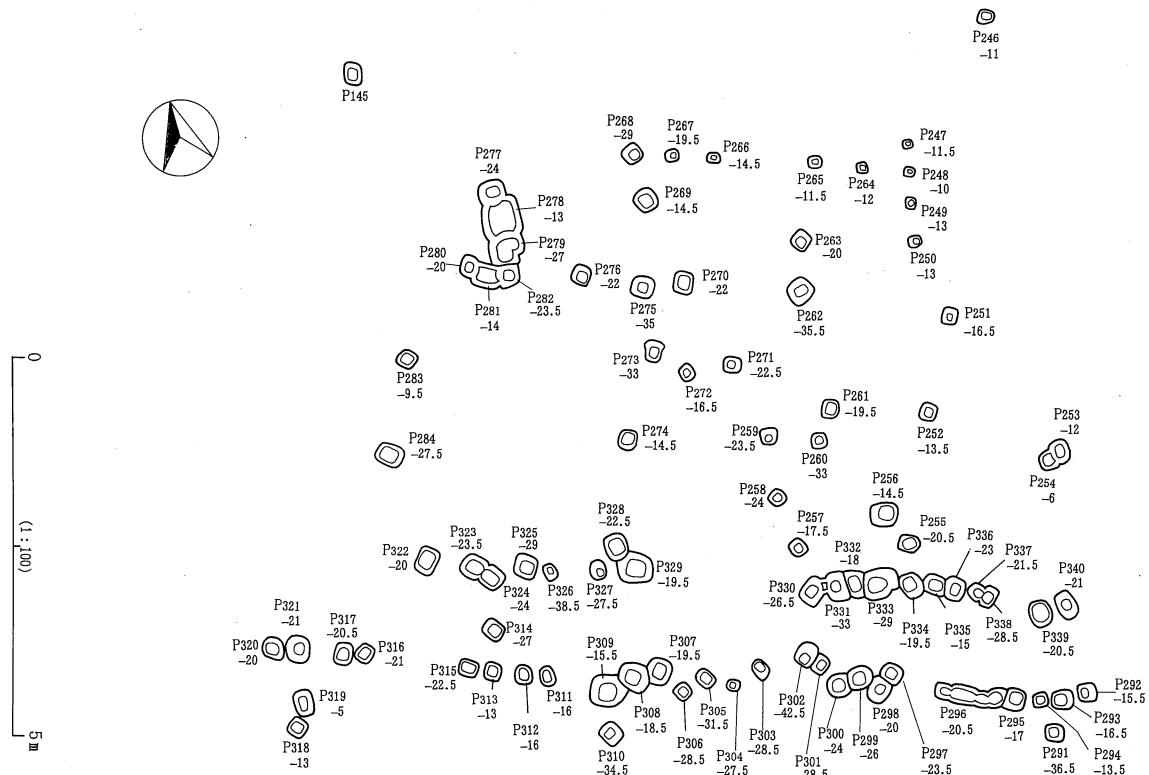


#### 4) 第4号ピット群

第4号ピット群は、調査区東側のこ・さー5・6グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片を微量含む黒褐色土であった。

#### 5) 第5号ピット群

第5号ピット群は、調査区東側のく〜こー5〜7グリッド内において検出された。第1号溝状遺構と平行関係にあることより、第4号ピット群と併せて柵列とも考えられる。覆土は砂質ロームと炭化材微小片を微量含む黒褐色土であった。



第103図 第6号ピット群実測図

#### 6) 第6号ピット群

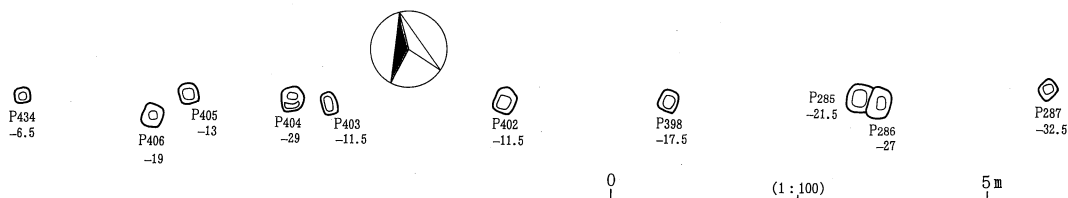
第6号ピット群は、調査区中央北東寄りのお〜きー6〜9グリッド内において検出された。全体がひとつの掘立柱建物址と考えられる。また南側の P291〜P321は柵列と考えられる。覆土は砂質ロームと炭化材微小片を微量含む黒褐色土であった。

#### 7) 第7号ピット群

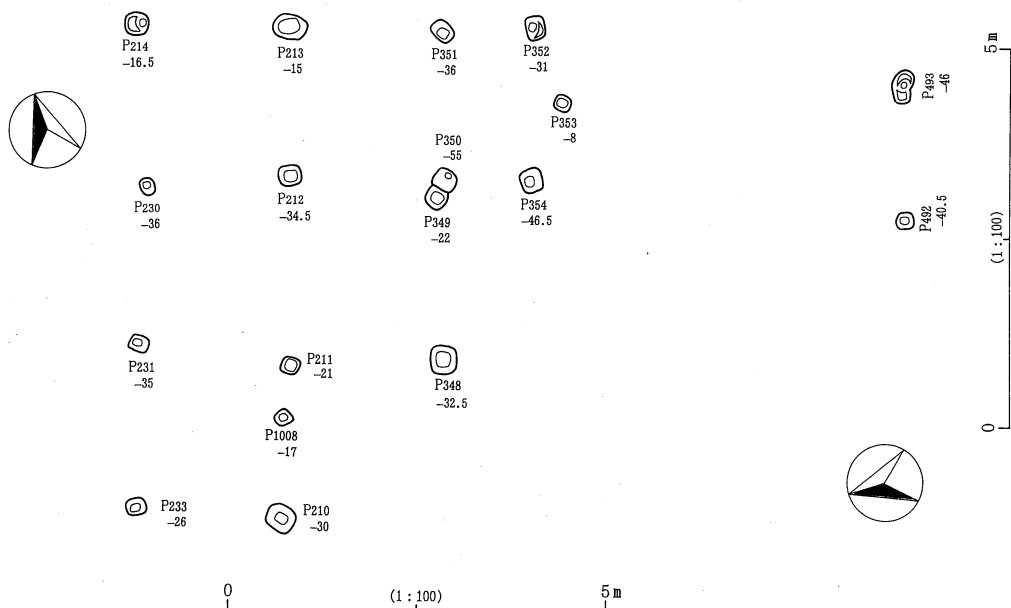
第7号ピット群は、調査区中央のき・くー6〜12グリッド内において検出された。図面ではふたつに分割してあるが全体がひとつの柵列と考えられる。なお P434号より西側にも柵列が続くと考えられるが、不規則かつ不明瞭のため省いた。覆土は砂質ロームと炭化材微小片を微量含む黒褐色土であった。



第104図 第7号ピット群実測図(1)



第105図 第7号ピット群実測図(2)



第106図 第8号ピット群実測図

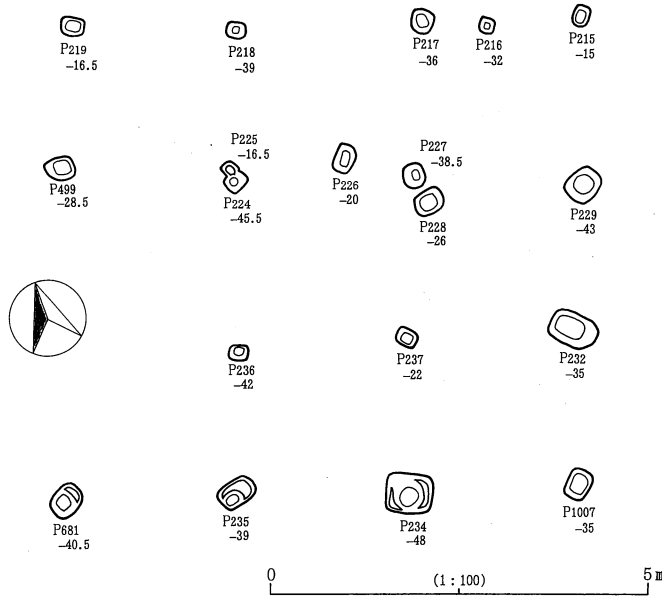
第107図 第10号ピット群実測図

## 8) 第8号ピット群

第8号ピット群は、調査区中央南側のこ・さー6~8グリッド内において検出された。全体がひとつの総柱の建物址と考えられる。なお南東部のピットは調査区域外のため検出されなかった。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。また第9号ピット群と建物の方向や柱間が共通しているため、ふたつ併せてひとつの建物址であった可能性が高い。さらに第9号ピット群を主屋、本址を脇屋と想定すると、第3号竪穴遺構の土間と併せて、1軒1連の建物址とも考えられる。

## 9) 第9号ピット群

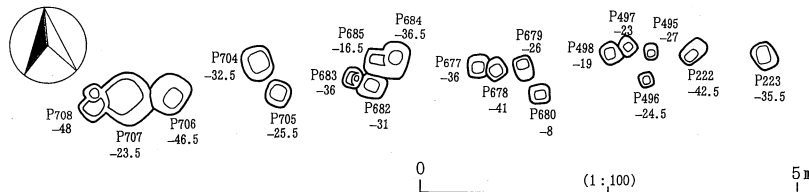
第9号ピット群は、調査区中央南側のけ～さー8～10グリッド内において検出された。全体がひとつの総柱の建物址と考えられる。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。また前述のように第8号ピット群とひとつの建物址であった可能性が高い。



第108図 第9号ピット群

## 10) 第10号ピット群

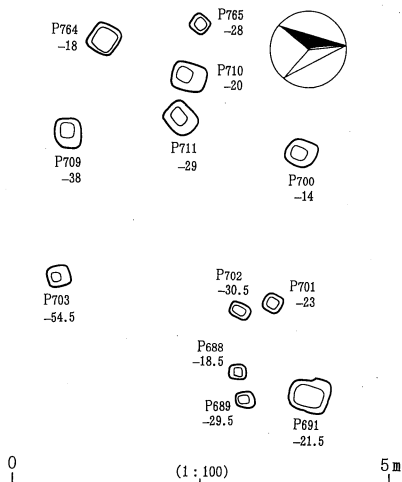
第10号ピット群は、調査区中央南側のこ・さー10～12グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土であった。



第109図 第10号ピット群実測図

## 11) 第11号ピット群

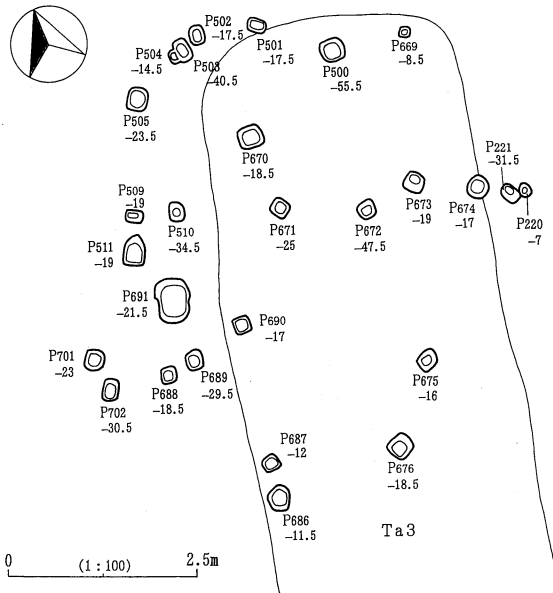
第11号ピット群は、調査区中央南側のこー9～11グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土であった。本址は柵列と考えられる。なお第3号竪穴遺構との重複関係は掴めなかった。



第110図 第11号ピット群実測図

## 12) 第12号ピット群

第12号ピット群は、調査区中央南側のか・こー10～12グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む暗褐色土であった。本址は小規模な建物址と考えられる。また第11号ピット群と軸が同一のため一連の建物址の可能性が有る。

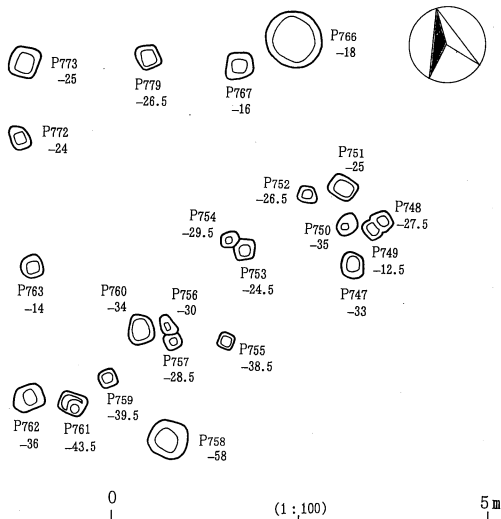


### 13) 第13号ピット群

第13号ピット群は、調査区中央南側のく～こー9～11グリッド内において検出された。

覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。本址は周囲の状況より、第3号竪穴遺構の上屋建物の一部と考えられる。つまり第8・9号ピット群、第3号竪穴遺構（土間）と一連の建物と想定される。

第111図 第13号ピット群実測図



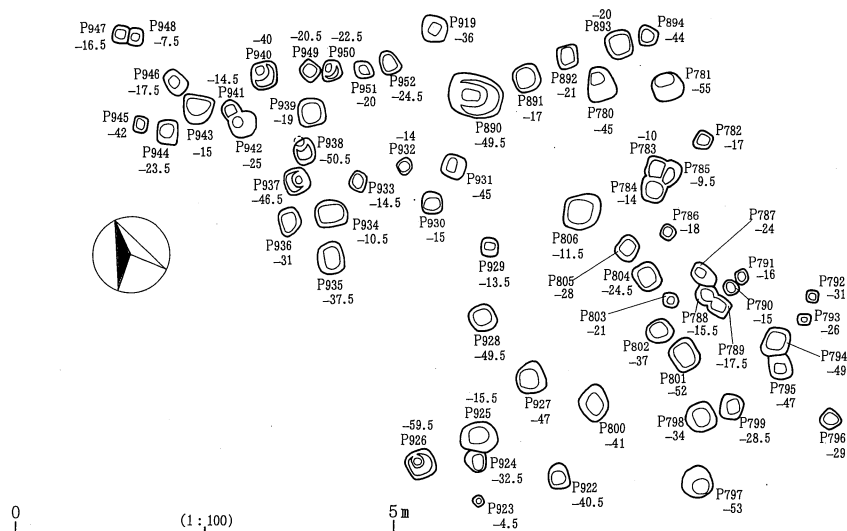
### 14) 第14号ピット群

第14号ピット群は、調査区中央南側のけ・こー12・13グリッド内において検出された。

覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土であった。

本址は西側と南側にさらに展開する可能性があるが不明瞭であるため P772・P773および P762・P763の南北列で区切った。なお第15号ピット群の P925・P928・P929・P890の南北柱列とは平行関係にある。

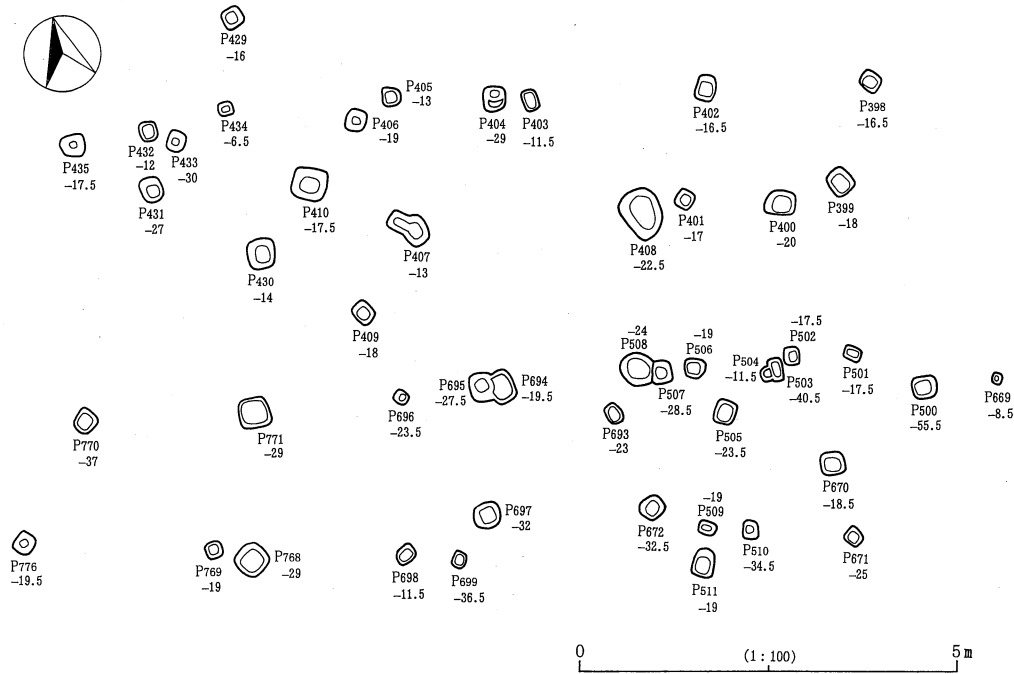
第112図 第14号ピット群実測図



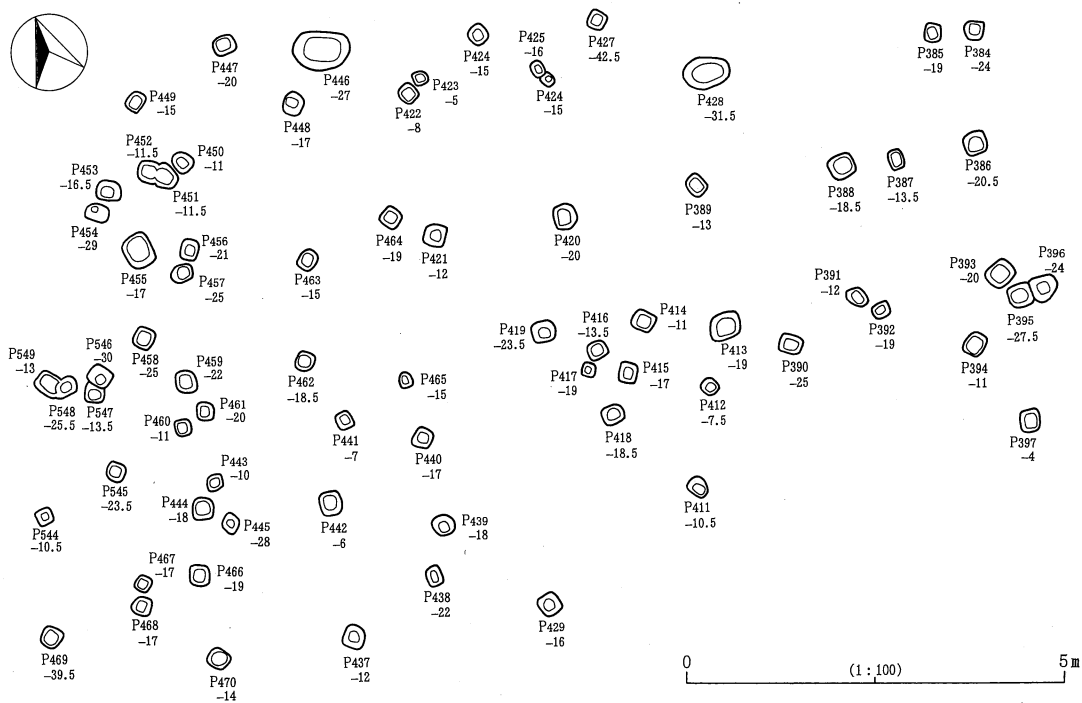
第113図 第15号ピット群実測図

## 15) 第15号ピット群

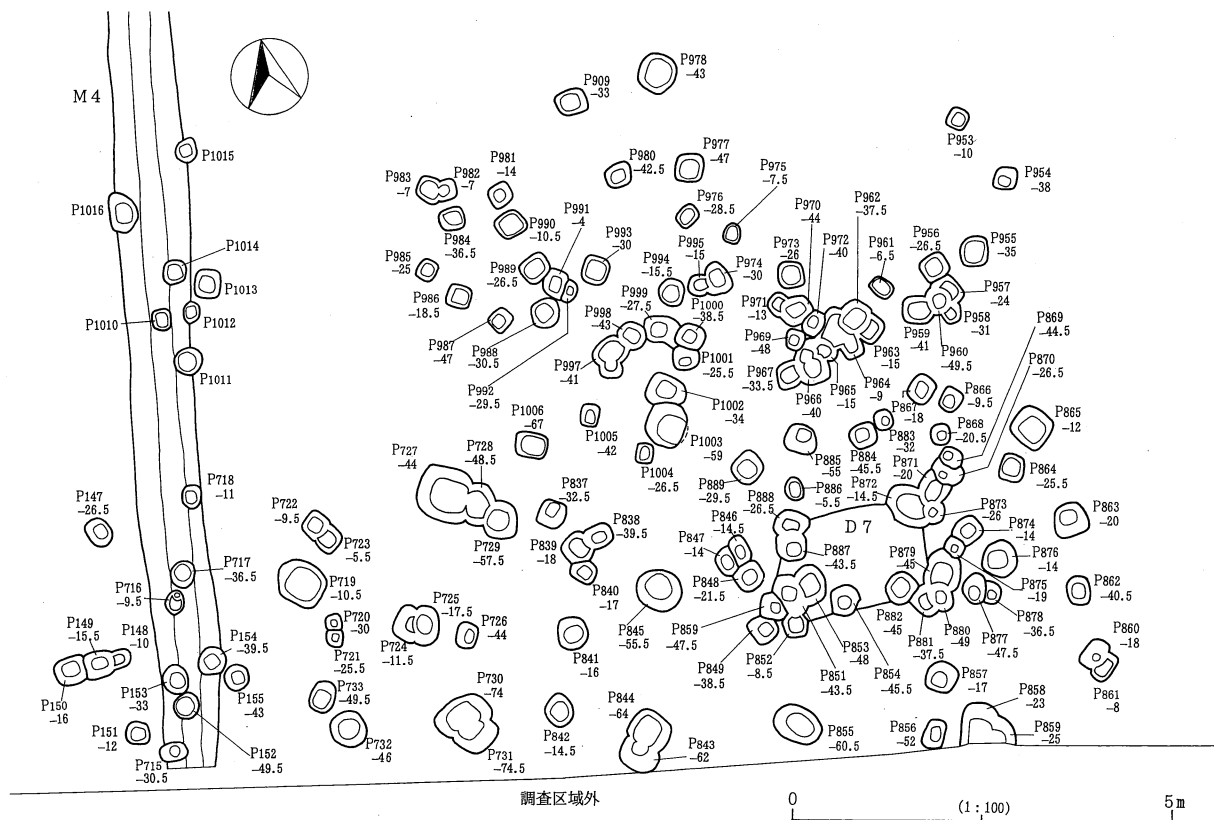
第15号ピット群は、調査区中央南側のく〜こー14・15グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む暗褐色土および黒褐色土であった。本址はいくつかの建物址が重複しているものと考えられる。



第114図 第16号ピット群実測図



第115図 第17号ピット群実測図



第116図 第18号ピット群実測図

## 16) 第16号ピット群

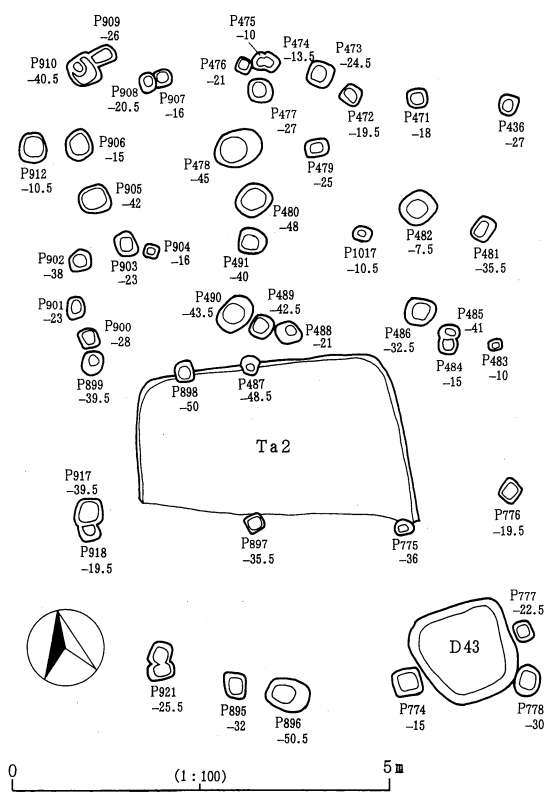
第16号ピット群は、調査区中央のき〜け—10〜13グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。本址はいくつかの建物址が重複しているものと考えられる。

## 17) 第17号ピット群

第17号ピット群は、調査区中央西寄りのえ〜か—10〜13グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。本址はいくつかの建物址・柵列が重複しているものと考えられる。

## 18) 第18号ピット群

第18号ピット群は、調査区西側のき〜こ—16〜19グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。本址はいくつかの建物址・柵列が重複しているものと考えられる。また南側のP153・P733・P730・P844・P855・P856は調査区域外である南側に展開するものと考えられる。ピットの重複がかなり多いが、想定される建物址の方向軸が近似しているため何回かの建替えが行われたと推測される。なお西側の第4号溝状遺構との重複関係については捉えることができなかった。また第7号土坑付近のピットは、D7号に破壊されおり、P727・P728は第48号土坑を破壊していた。



第118図 第20号ピット群実測図

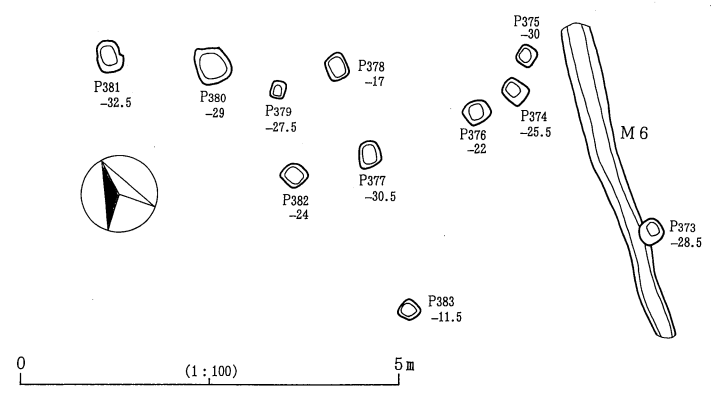
第117図 第19号ピット群実測図

### 19) 第19号ピット群

第19号ピット群は、調査区中央西寄りのか〜く-13・14グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。本址は第2号竪穴建物址の上屋的な建物址と考えられる。

### 20) 第20号ピット群

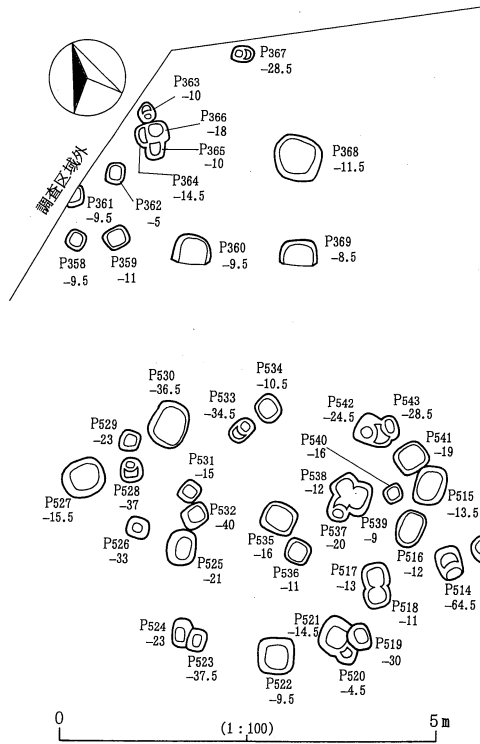
第20号ピット群は、調査区中央西寄りのえ・お-13・14グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む暗褐色土であった。



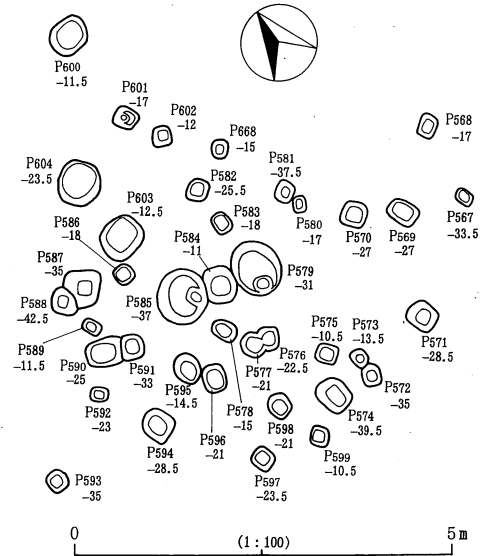
第119図 第21号ピット群実測図

## 21) 第21号ピット群

第21号ピット群は、調査区北側のう・え—11・12グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む暗褐色土であった。



第120図 第22号ピット群実測図



第121図 第23号ピット群実測図

## 22) 第22号ピット群

第22号ピット群は、調査区北西部のあ〜う—13~15グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。

## 23) 第23号ピット群

第23号ピット群は、調査区北西部のう・え—14~16グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む暗褐色土および黒褐色土であった。

## 24) 第24号ピット群

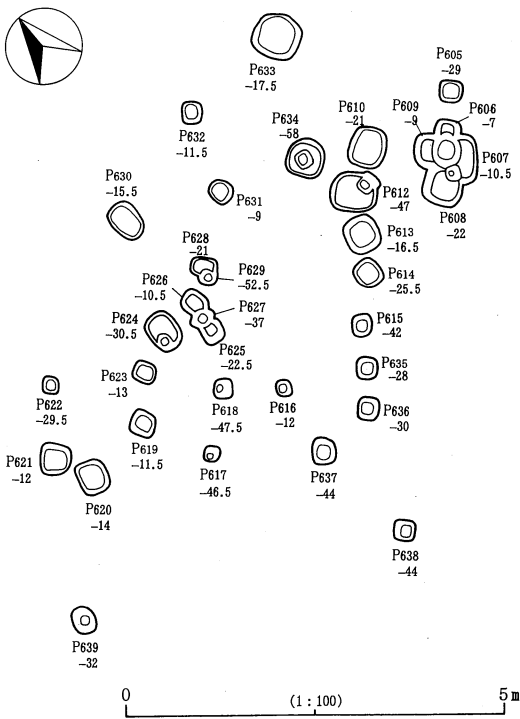
第24号ピット群は、調査区西側のい〜え—15~17グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。本址は第23号ピット群と併せての建物址が想定されるが、不明瞭なため分割した。

## 25) 第25号ピット群

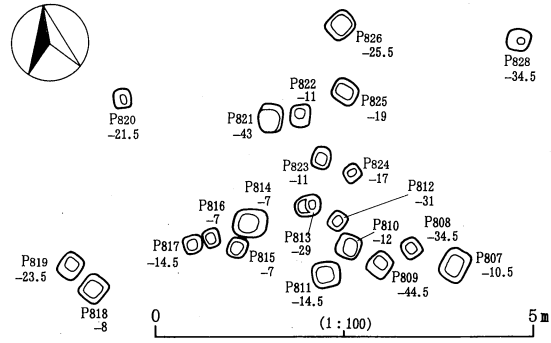
第25号ピット群は、調査区中央西寄りのか・き—15~17グリッド内において検出された。覆土は砂質ロー



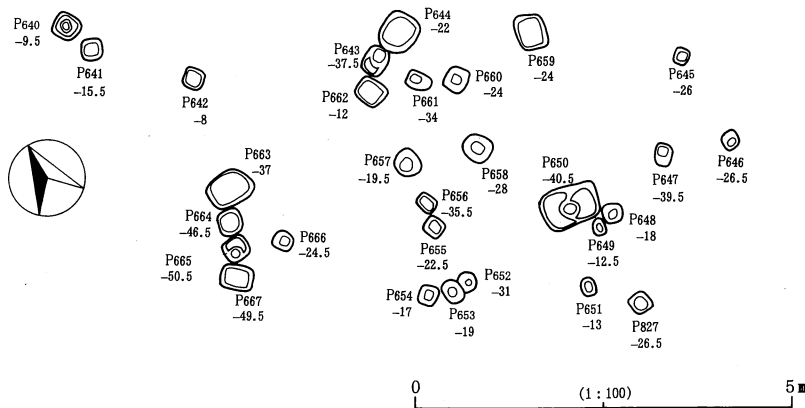
ムと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む暗褐色土および暗褐色土であった。



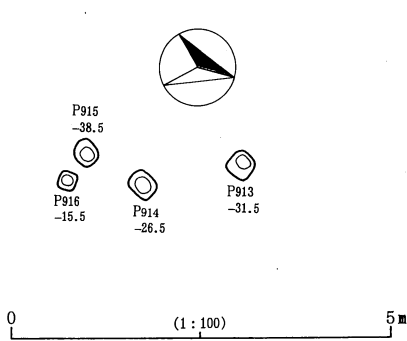
第122図 第24号ピット群実測図



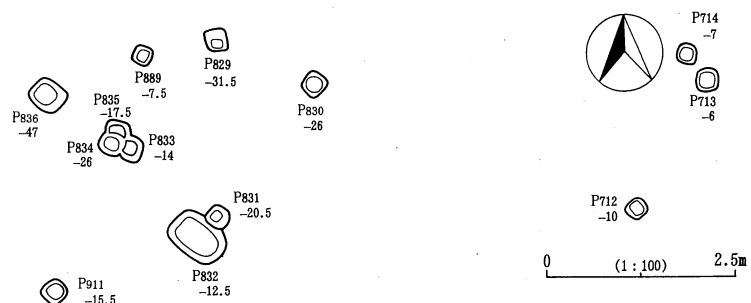
第123図 第25号ピット群実測図



第124図 第26号ピット群実測図



第125図 第27号ピット群実測図



第126図 第28号ピット群実測図

## 26) 第26号ピット群

第26号ピット群は、調査区西側のえ〜か—16・17グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む暗褐色土および黒褐色土であった。本址は小規模な掘立柱建物址と考えられる。

## 27) 第27号ピット群

第27号ピット群は、調査区西側のお〜き—14・15グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む黒褐色土および暗褐色土であった。

## 28) 第28号ピット群

第28号ピット群は、調査区西側のく—20グリッド内において検出された。覆土は砂質ロームと炭化材微小片・パミス中粒以下を微量含む暗褐色土であった。

# 5 調査のまとめ

今回の調査により、中世前半代の集落の一画が明かとなった。検出された遺構はすべて概期のものと推測され、掘立柱建物址を主体とした集落であった。調査は11月から始まり、1月の声を聞く前に何とか終了させることができた。12月には2回ほど雪に見舞われたがすぐに溶け、作業に直接の影響はなかった。12月初旬から地面が凍り始め、中旬には10～15cmの凍土と化した。何とか養生をし作業を進めたが、何回かはかちかちの凍土を移植鏝でつつく事態となった。昼間2cmほどの地面が溶け出すと泥沼ようになり、午後3時を過ぎるとそれらが凍りだすという繰り返しであった。12月20日を前後して今冬初めての真冬日となり、昼間でも氷点下のままであった。そんな中でも、黙々と作業に従事して下さった調査員の皆様に感謝するとともに、発掘調査にご理解とご協力を下さった長野県経済事業農業協同組合連合会の皆様にこの場を借りて感謝いたします。

竪穴遺構は3棟が検出された。Ta2・3号はともに上屋を持つものと想定される竪穴である。特にTa3号は床面が非常に硬化しており土間状の遺構と推測される。

土坑は64基が検出された。D9号は井戸址と考えられる。またD32・42・48・53・62・63号は土倉状遺構と推定される。

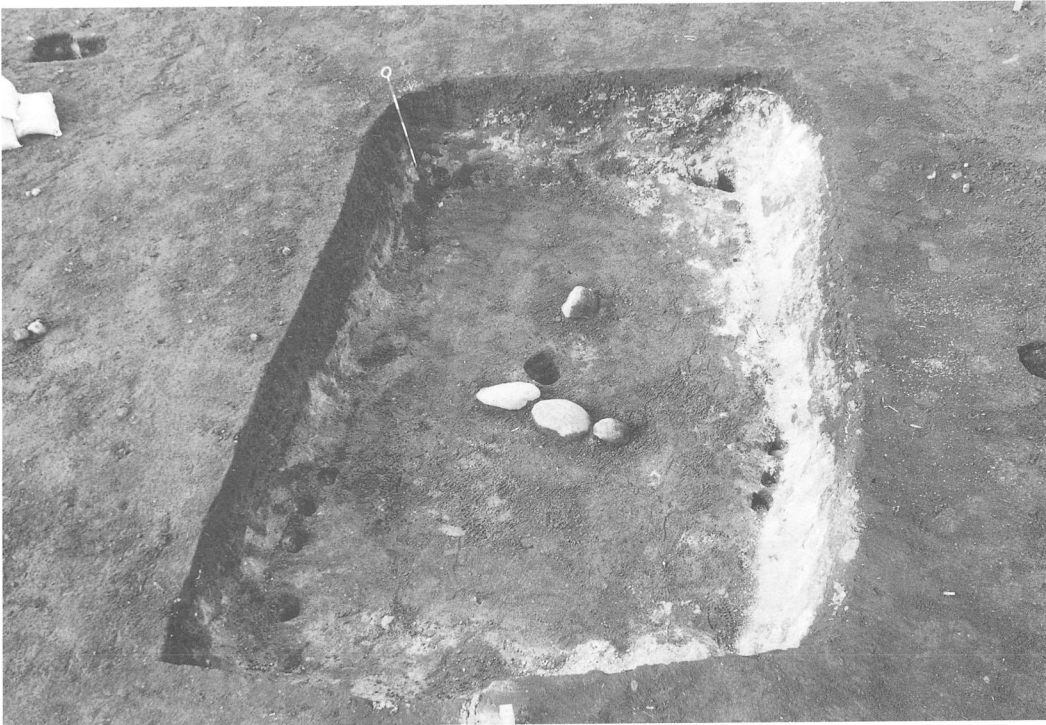
溝状遺構は6条が検出された。M1号は中世の堀状の大溝で近世に道路として使用されたと考えられる。調査区東に隣接して古道である通称「平尾道」が並行しており、M1号が古平尾道である可能性が高い。M3・4・5号は区画溝と考えられる。さらにM5とM3・4間を道と仮定すると、側溝の可能性も有る。

ピットは1018基が検出された。建物址や柵列としていくつかは組めるものも存在したが、重複が激しく正確を欠くためにピット群としてあつかった。

調査区の東側は帯状低地（現在は埋められて平坦地となっている）が南下しており、概地は水はけの良好な台地を形成している。付近の調査状況や試掘調査から、集落は西および南側に広がる中世前半代と考えられる建物址を主体とする大集落と考えられる。



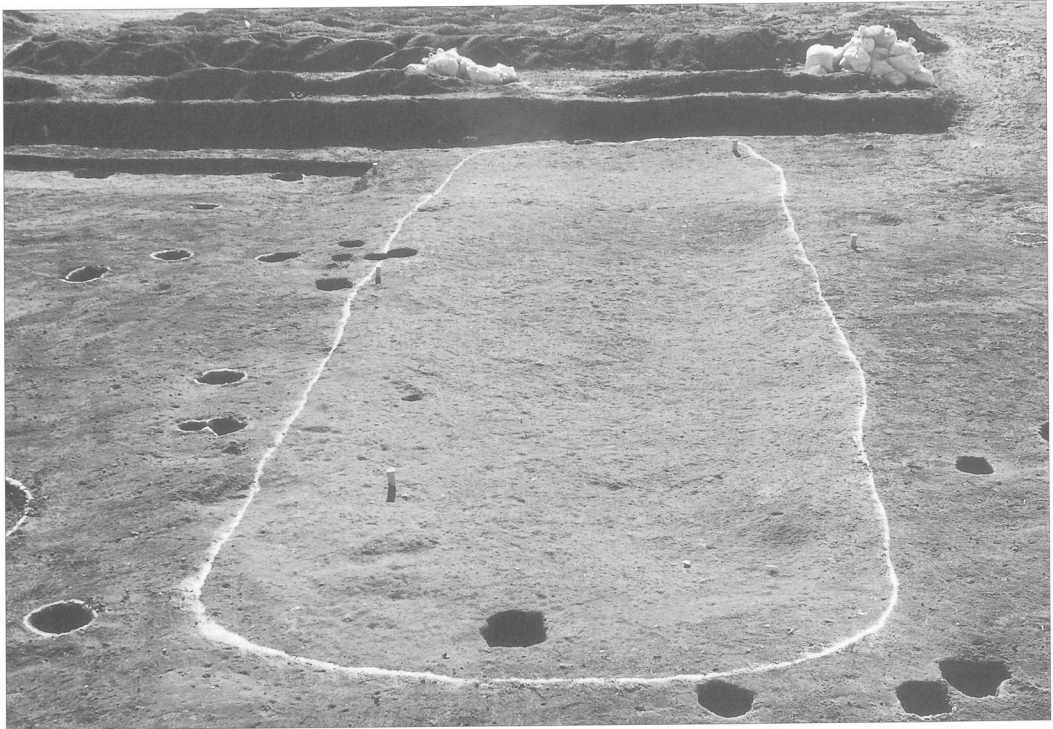
第127図 番屋前遺跡Ⅲ調査区全体図 (1:200)



第1号竖穴遺構（東より）



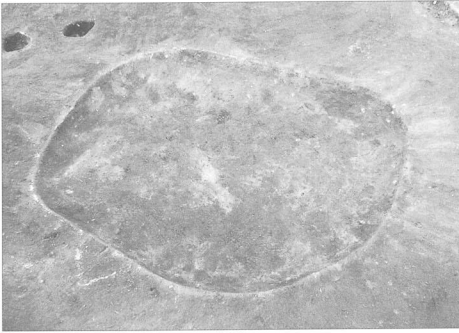
第2号竖穴遺構（北より）



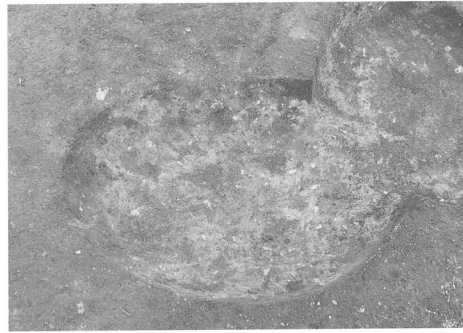
第3号竖穴遺構（北より）



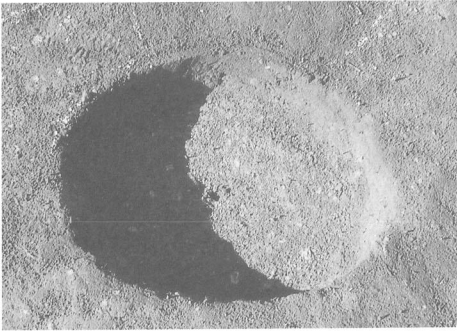
第3号竖穴遺構（北西より）



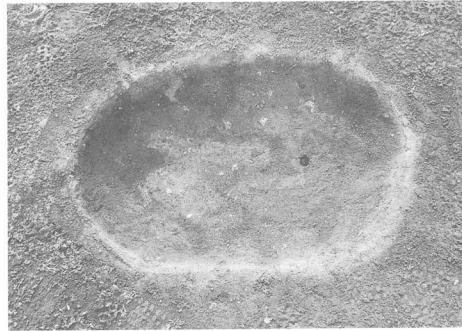
第1号土坑（南より）



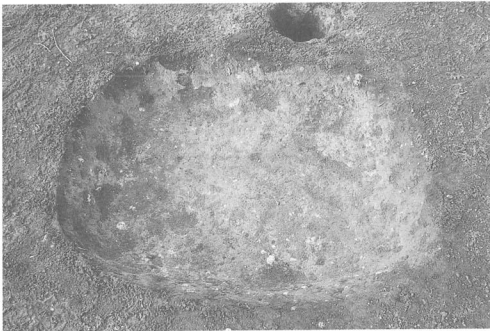
第2号土坑（南西より）



第3号土坑（南より）



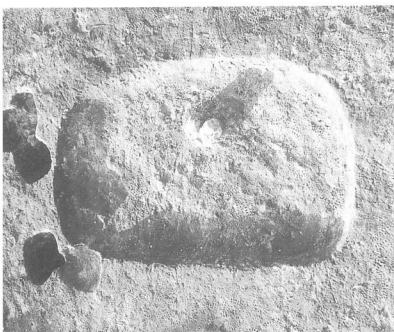
第4号土坑（北より）



第5号土坑（東より）



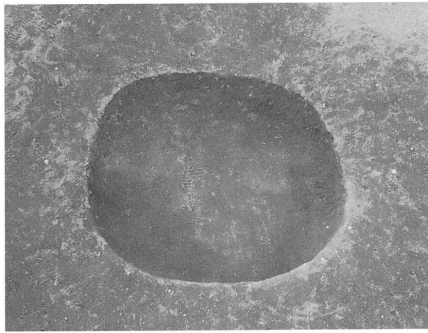
第6号土坑（東より）



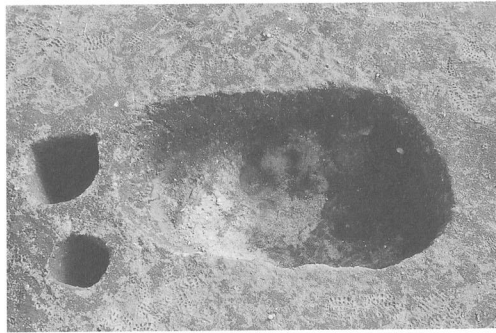
第7号土坑（南より）



第10号土坑（東より）



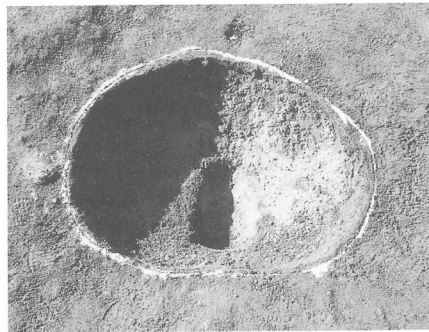
第8号土坑（東より）



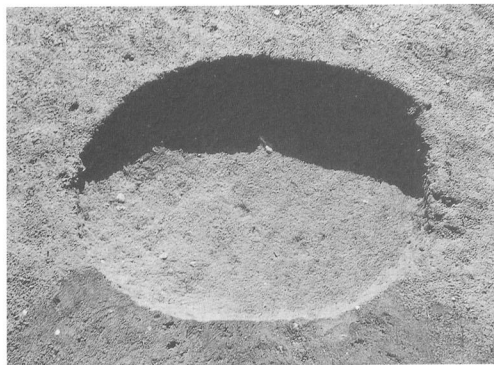
第11号土坑（西より）



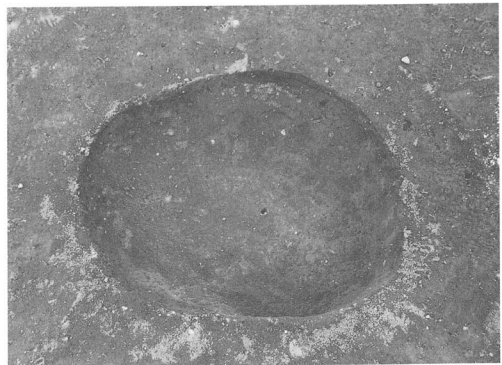
第12号土坑（西より）



第20号土坑（南方より）



第13号土坑（北より）



第14号土坑（東より）



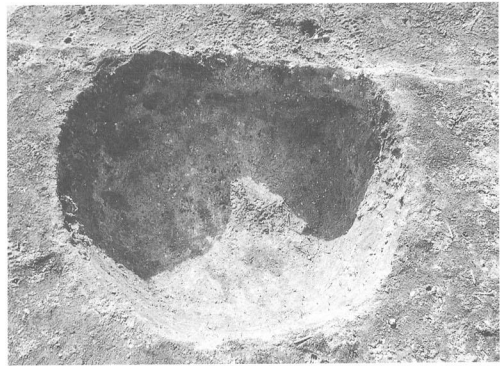
第15号土坑（西より）



第16号土坑（東方より）



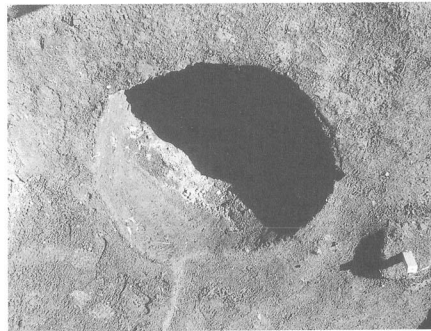
第17号土坑（東より）



第19号土坑（北より）



第18号土坑（南西より）



第21号土坑（西より）



第22号土坑（北より）



第23号土坑（北より）

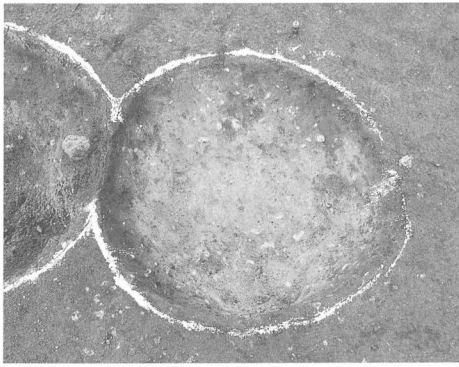


第24号土坑（東より）



第25号土坑（西より）

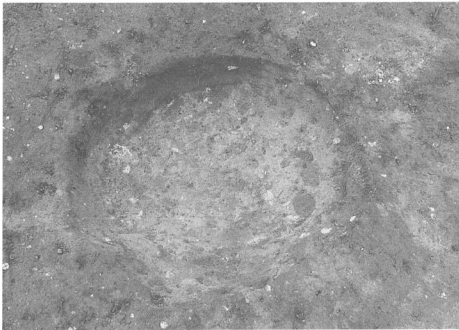




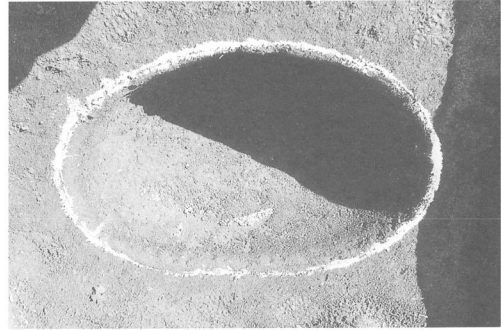
第27号土坑（南より）



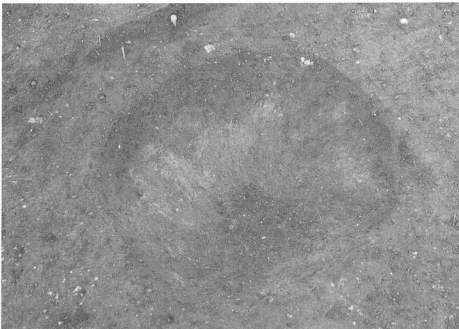
第29号土坑（西より）



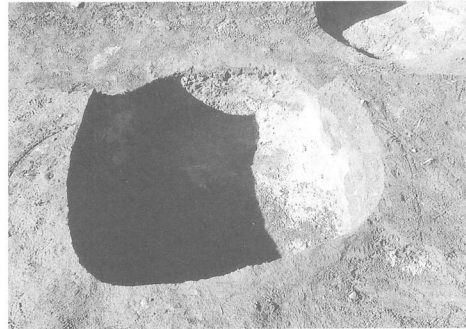
第28号土坑（東より）



第30号土坑（西より）



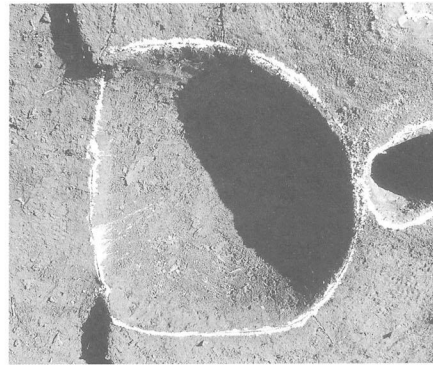
第31号土坑（北より）



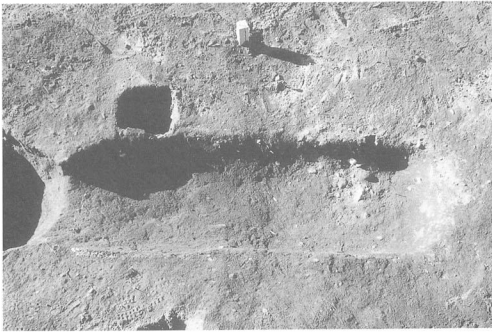
第32号土坑（東より）



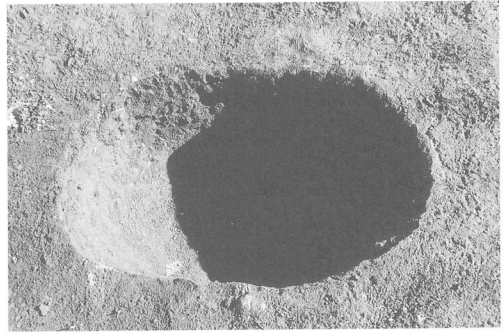
第33号土坑（北より）



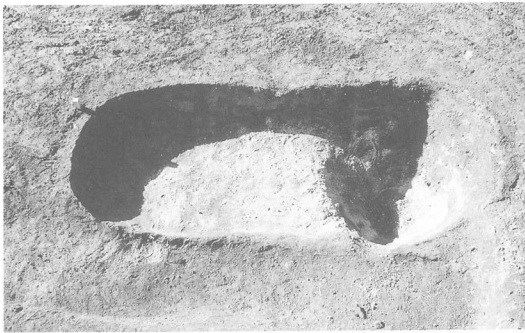
第34号土坑（西より）



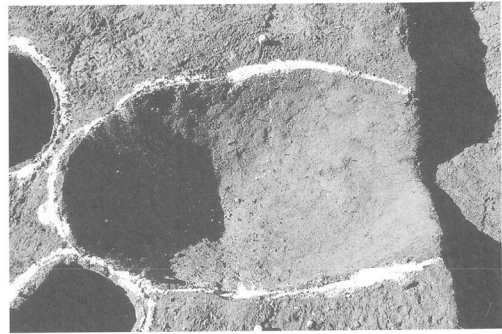
第35号土坑（東より）



第36号土坑（西より）



第37号土坑（東より）



第38号土坑（東より）



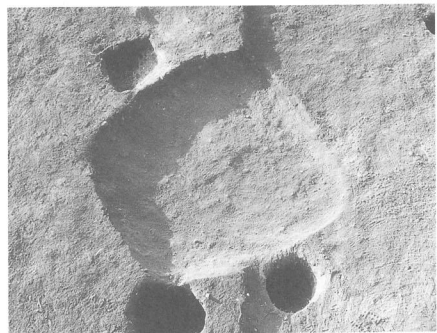
第39号土坑（北より）



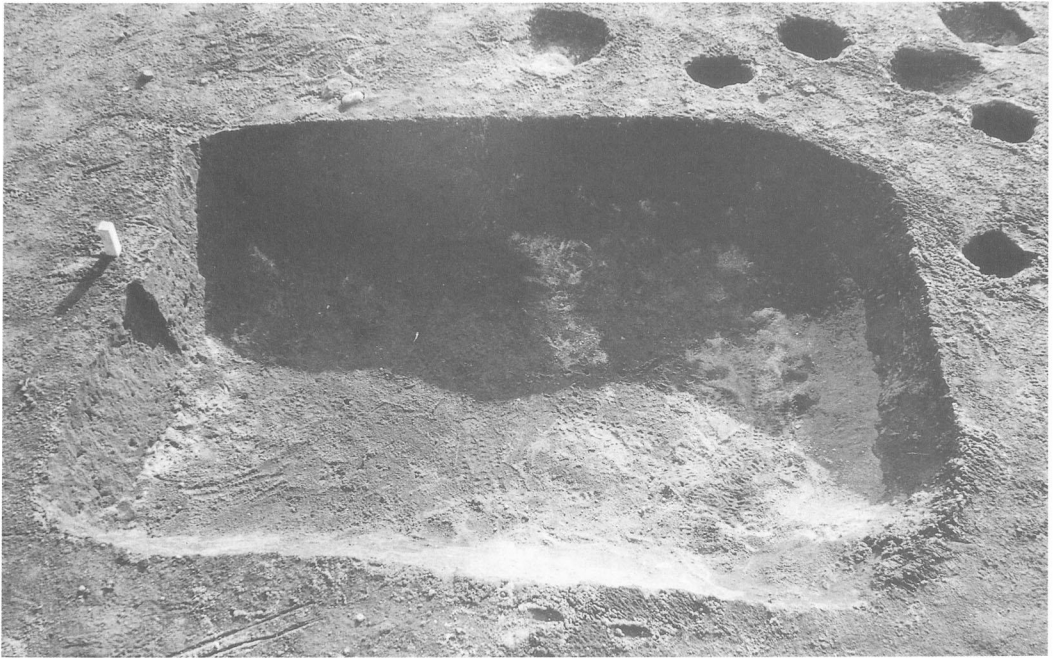
第40号土坑（南より）



第41号土坑（東より）



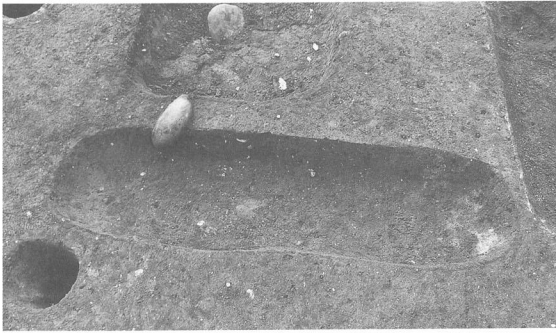
第43号土坑（東より）



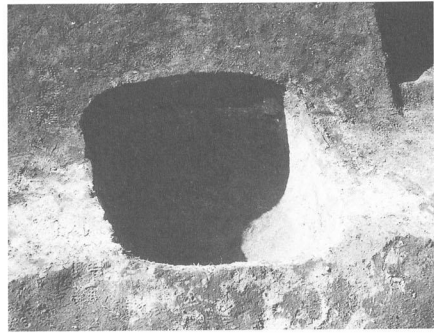
第44号土坑（北より）



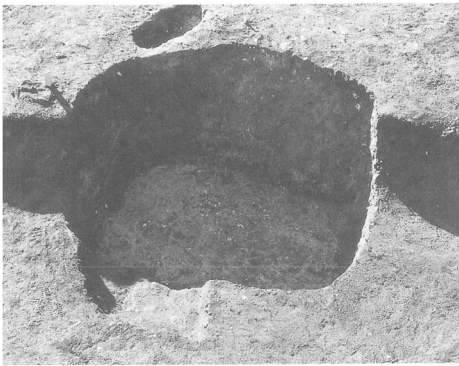
第48号土坑（北より）



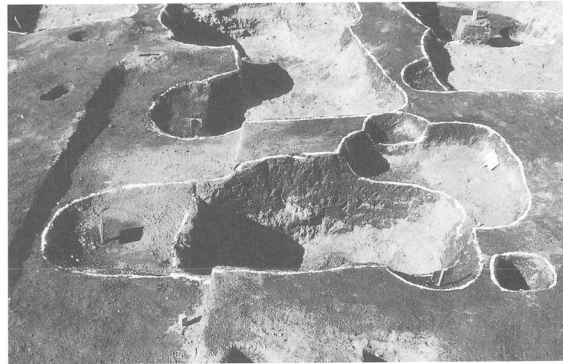
第50号土坑（北より）



第53号土坑（東より）



第62号土坑（東より）



中央左から第26号・61号・50号・54号土坑（東より）



西側土坑群（東より）

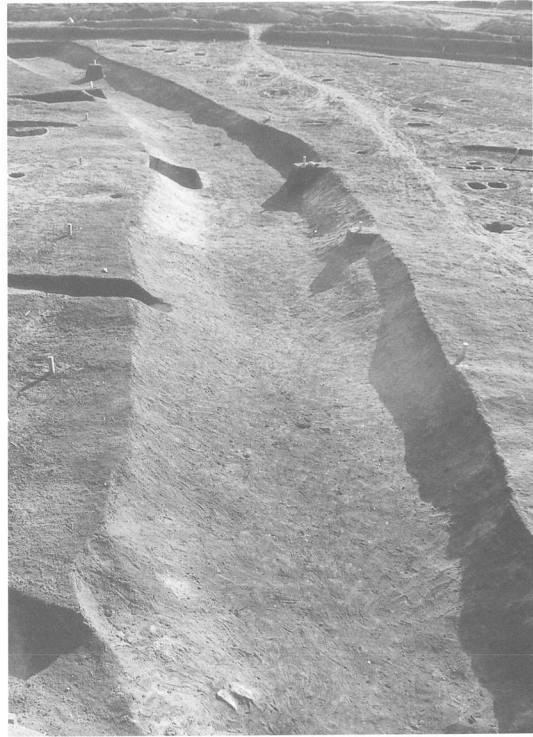


第6号溝状遺構（南より）

第3号溝状遺構（南より）



第1号溝状遺構（道路面検出状態、南より）



第1号溝状遺構（道路面、北より）

第2号溝状遺構（西より）



第1号溝状遺構（完掘、南より）



第1号溝状遺構（完掘、南より）



第22号・23号・24号ピット群（南より）



手前より第9号・8号ピット群（西より）



第6号ピット群南側（東より）





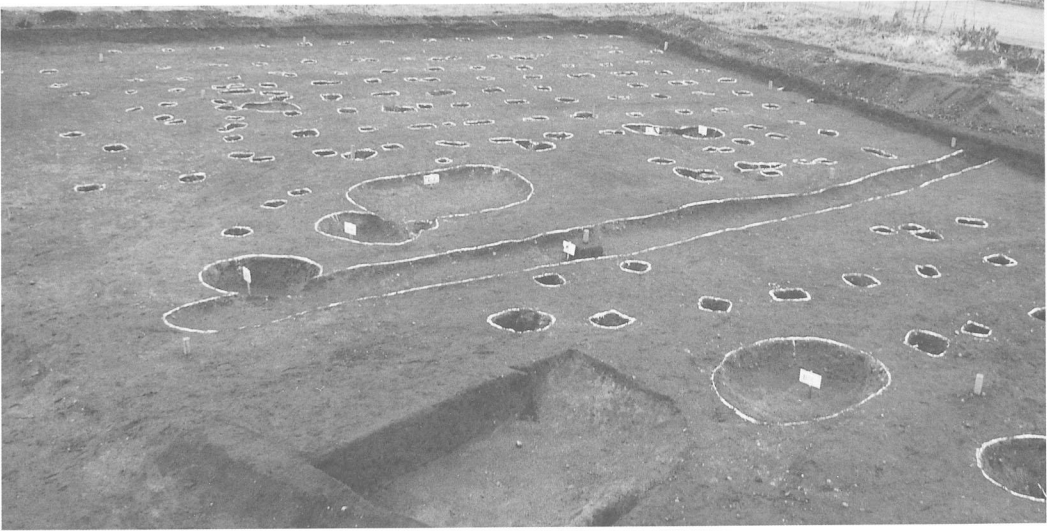
第6号ピット群 (南より)



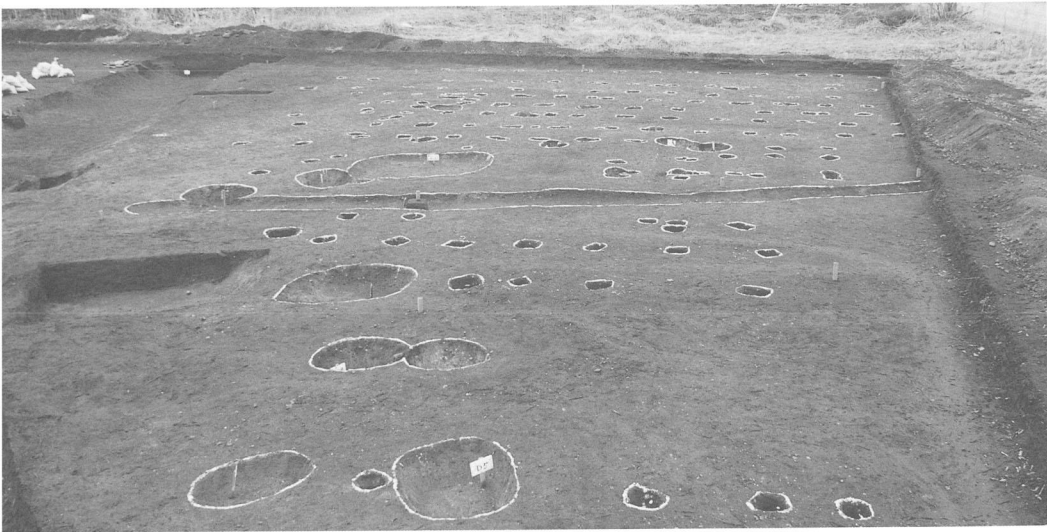
第1号ピット群 (西より)



第3号ピット群 (西より)



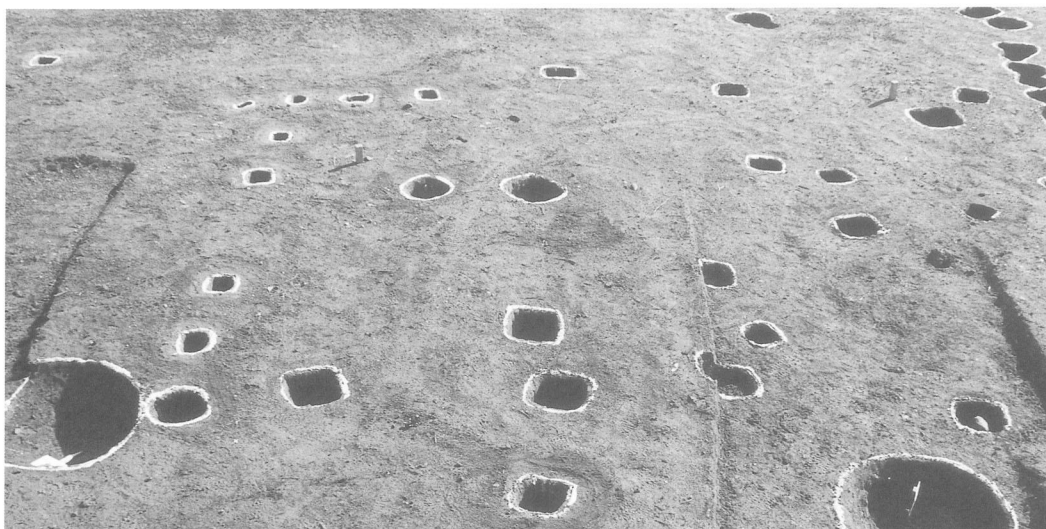
第1号ピット群（南西より）



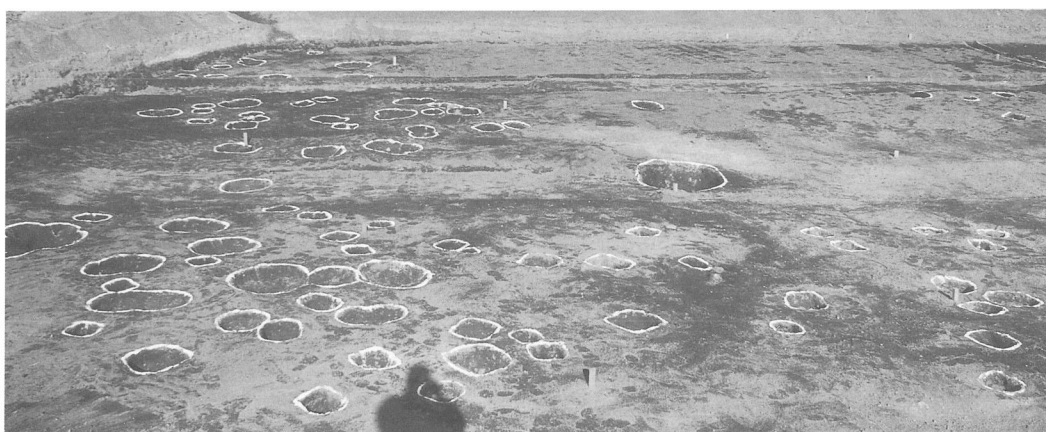
第1号ピット群（南より）



第2号ピット群（西より）



第6号ピット群北側（西より）



第22号・23号・24号ピット群（南より）



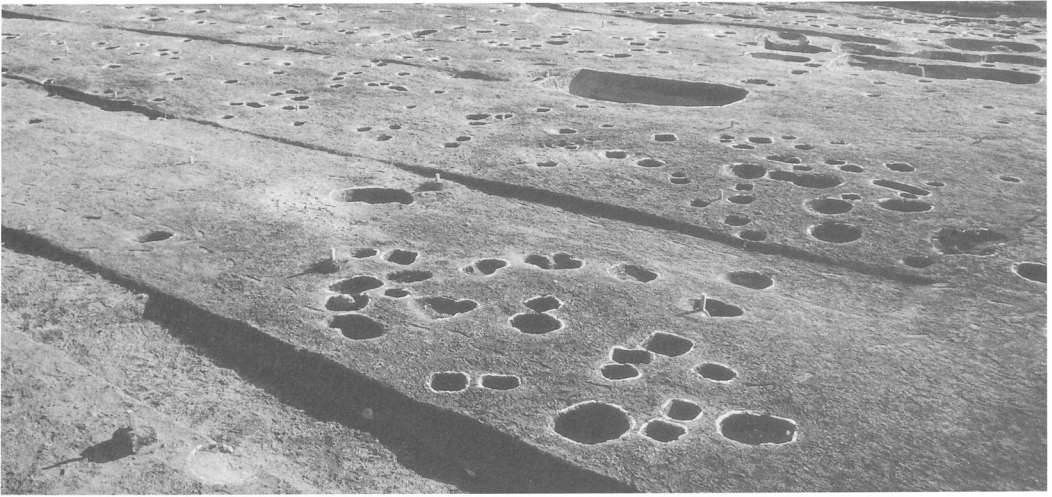
第23号・24号ピット群（南より）



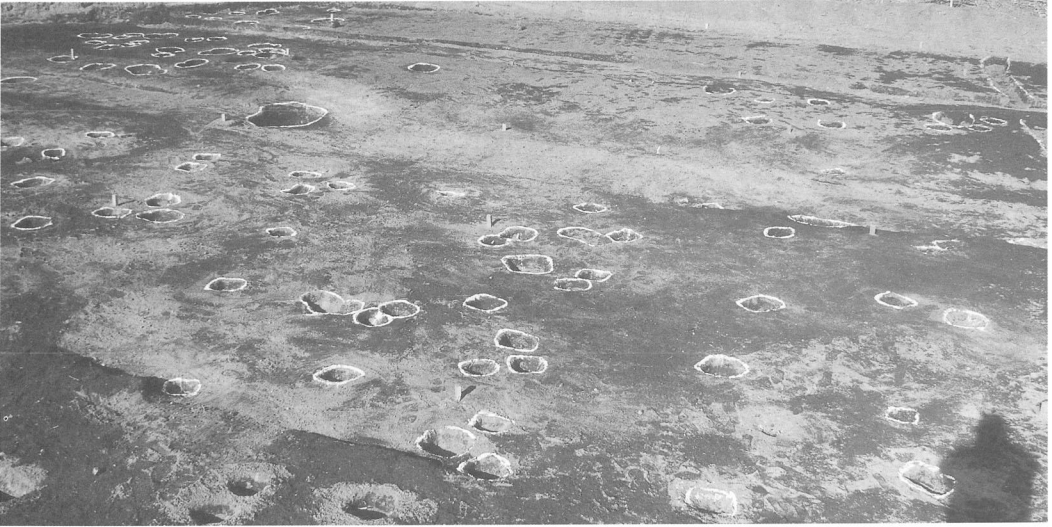
第20号・23号・24号ピット群（東より）



第7号・16号・17号ピット群（東より）



第23号・22号・20号ピット群（北西より）



第17号・21号ピット群（南東より）



第17号・20号・21号ピット群（南西より）



第11号・12号・13号・16号ピット群（東より）



第18号・19号・25号・27号ピット群（南方より）



第18号・25号ピット群（南より）



第18号・15号・25号・27号ピット群（西より）



第16号・17号ピット群（南より）

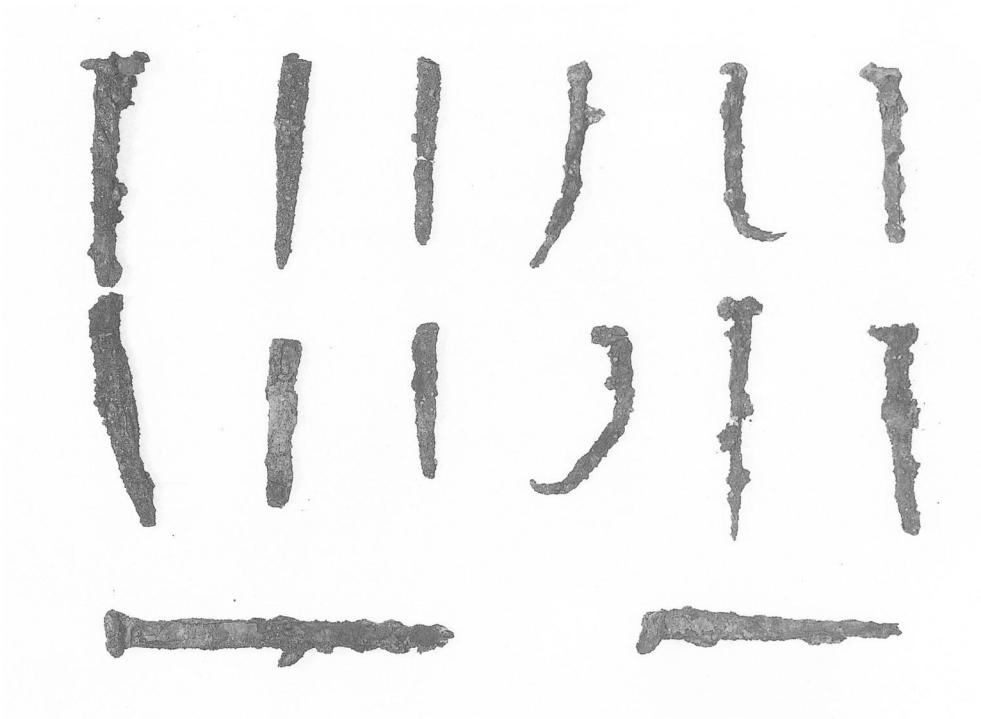


調査区西側（南東より）

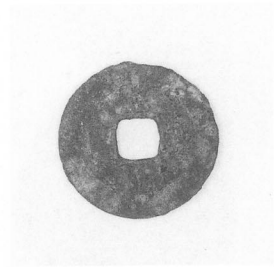




鉄製品 (第95図参照、1 : 2)



鉄製品 (第95図参照、1 : 2)

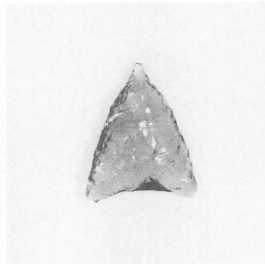


皇宋通宝(M4、1:1)

金属製品 (第96図参照、1:2)



開元通宝 (1:1)



石鏃(D61、1:1)



石匙 (1:2)



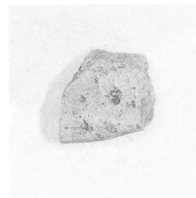
打製石斧 (1:3)



石核・フリイク (1:3)



擦り石(M1、1:3)



D42 (1:2)



Ta2 (1:2)



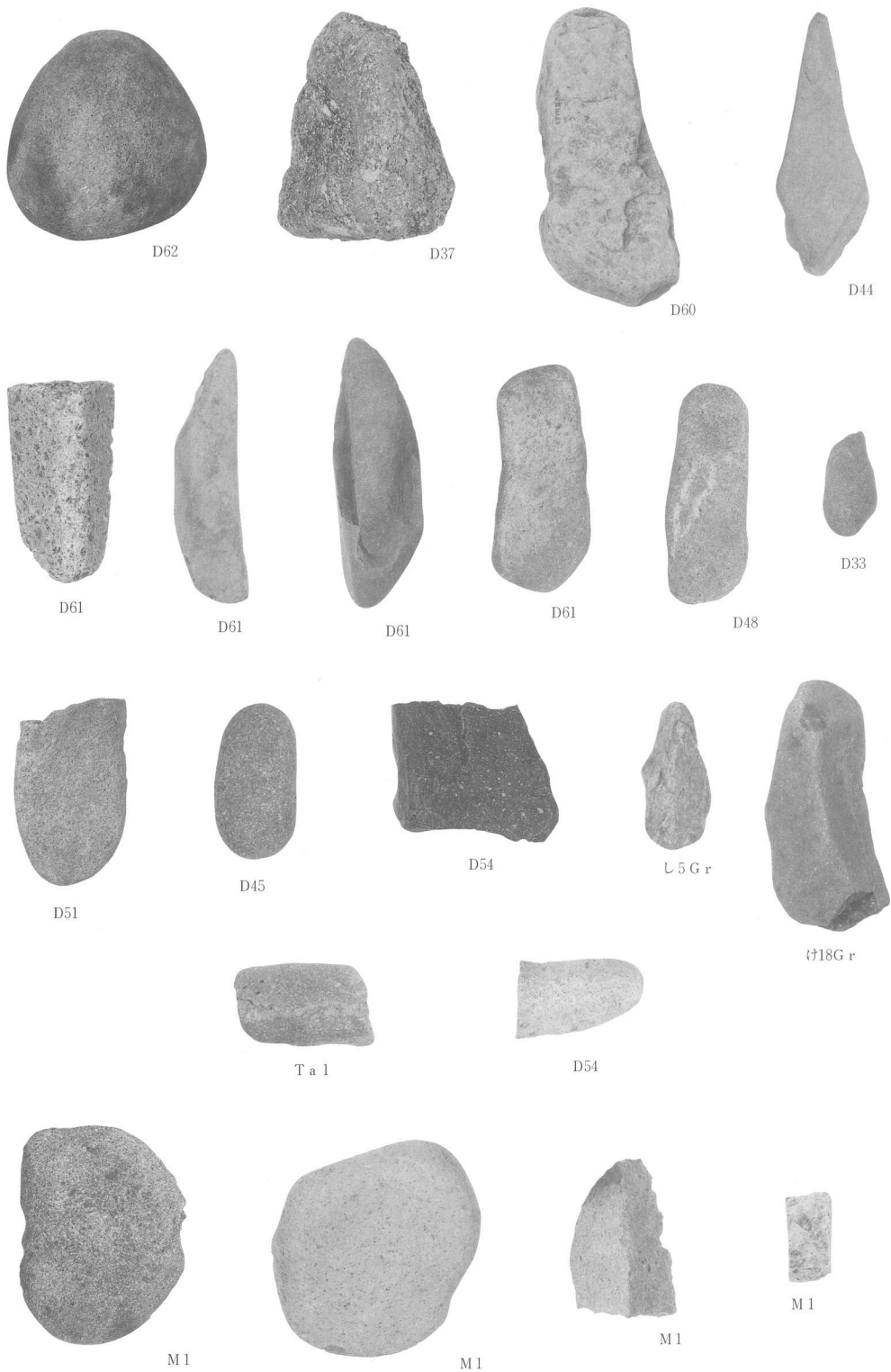
D24 (1:3)



D1 (1:3)



D32 (1:3)



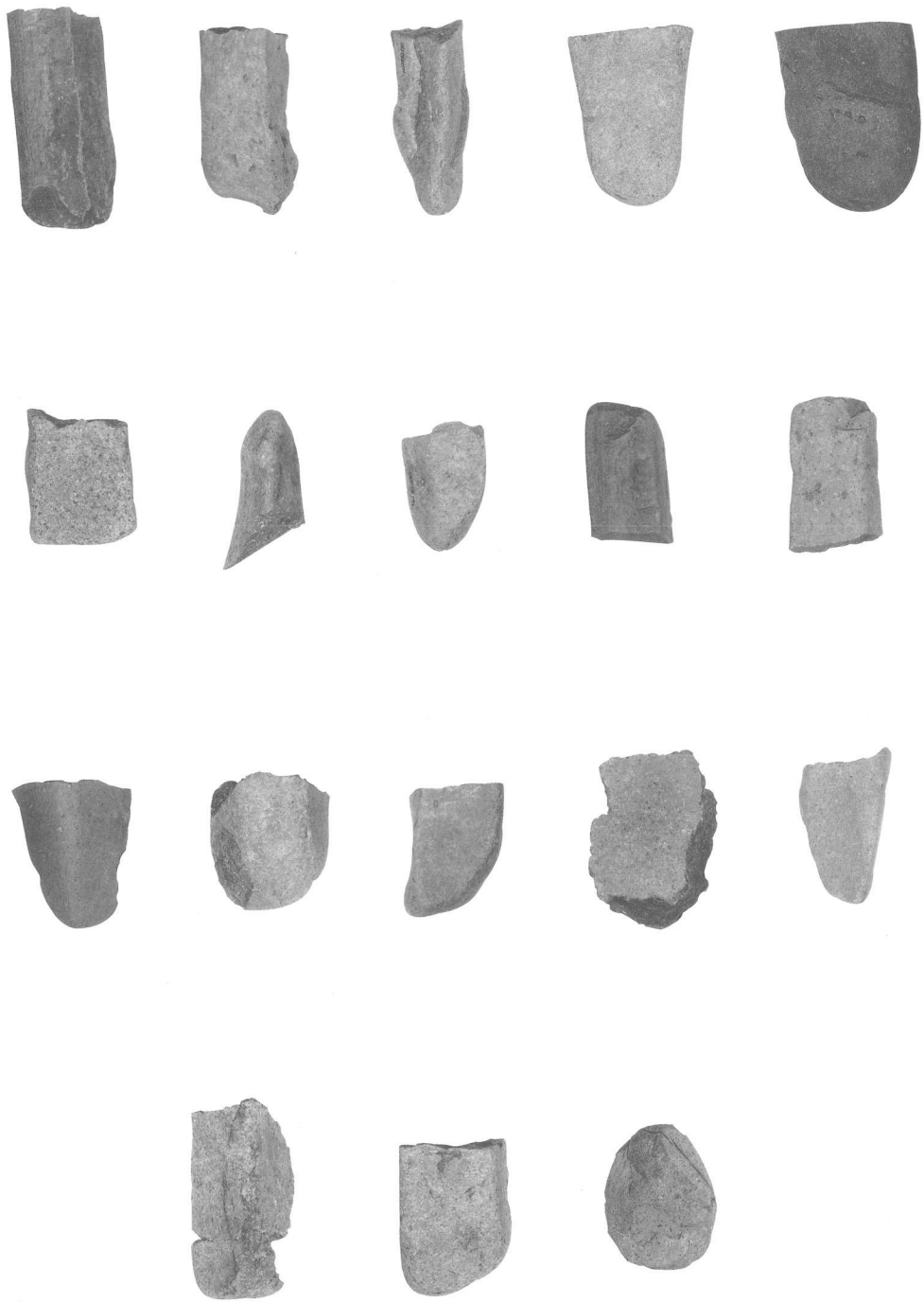
各遺構出土石器 (1 : 3)



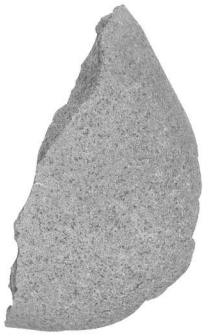
M1号出土石器（第86图参照、1：3）



M1号出土石器（第87图参照、1：3）



M1号出土石器（第88图参照、1：3）



D1



D48



D166



M4



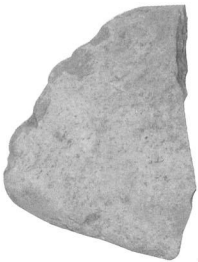
D24



D62



D53



D61



P804



D49

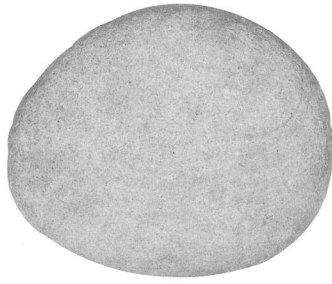


D48

各遺構出土石器（1：4）



D37



D49



P349



M1



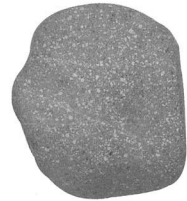
M1



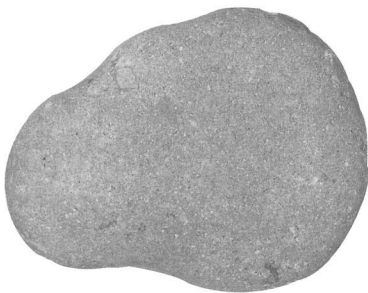
M1



D61



M1



M1



M1



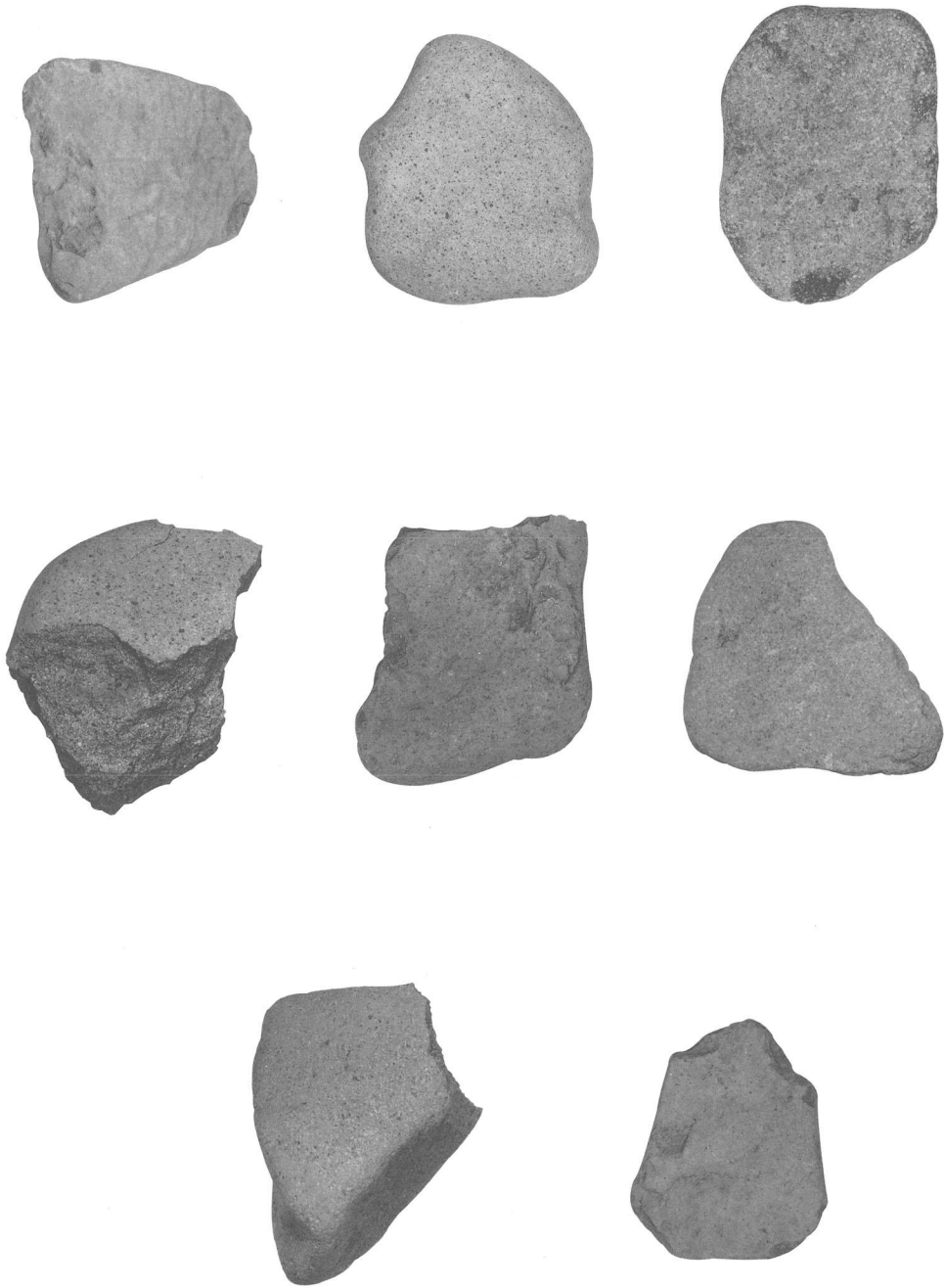
M1

各遺構出土石器 (1 : 4)





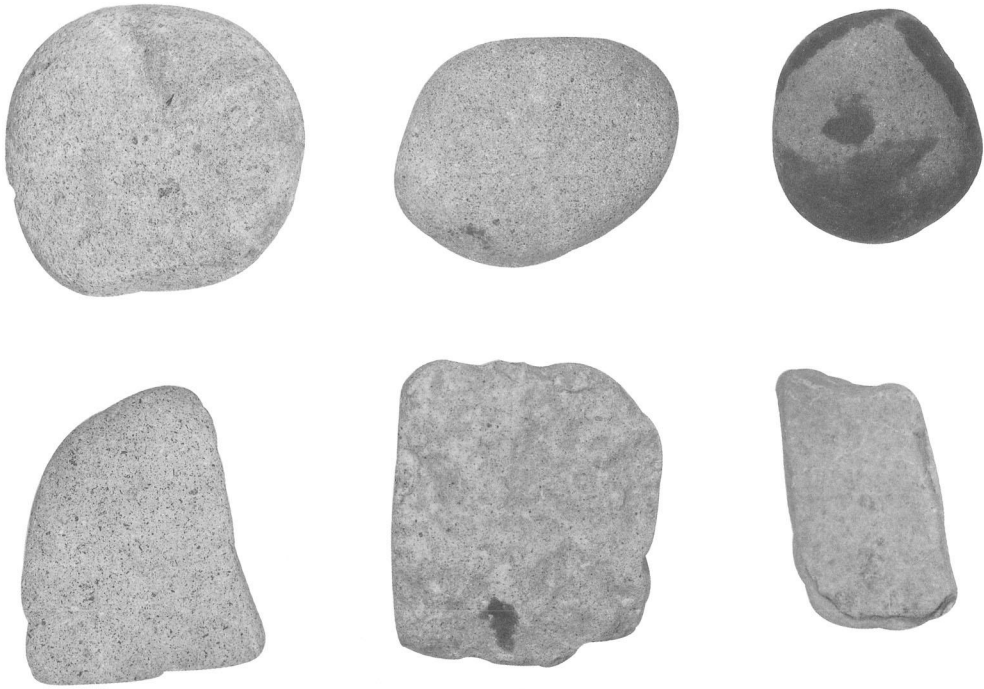
M1号出土石器（第91图参照、1：4）



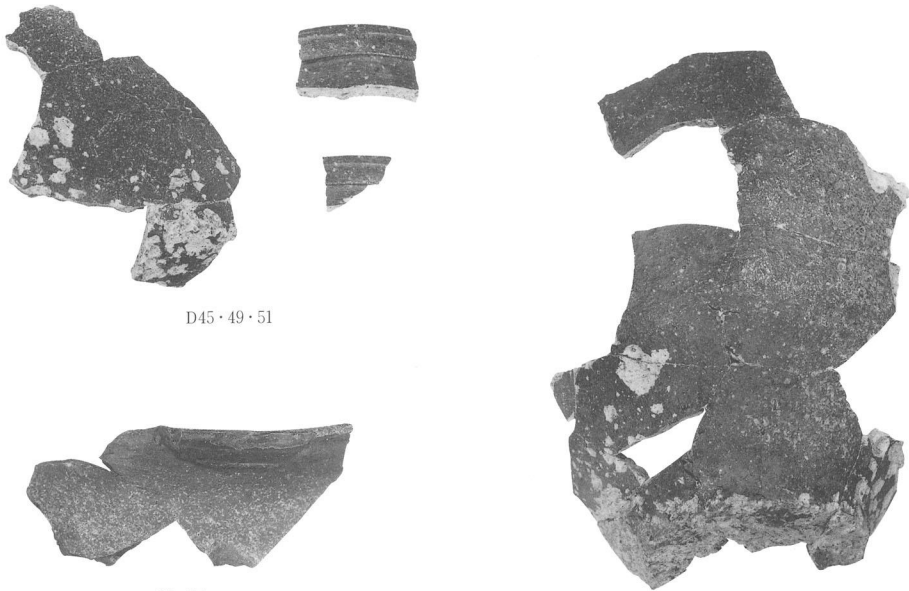
M1 号出土石器（第92图参照、1：4）



M1号出土石器（第93图参照、1：4）



M1号出土石器（第94図参照1：4）

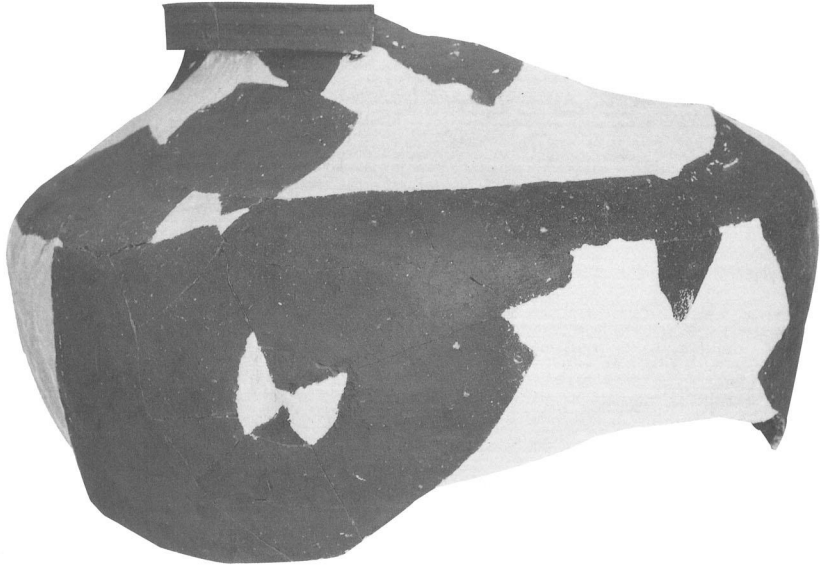


D45・49・51

試掘

D49・51・59、試掘

各遺構出土陶器（常滑、1：4）



常滑 D17・26・37・45・48、M4・5 (1:8)



常滑試掘



常滑D48



M1・D53



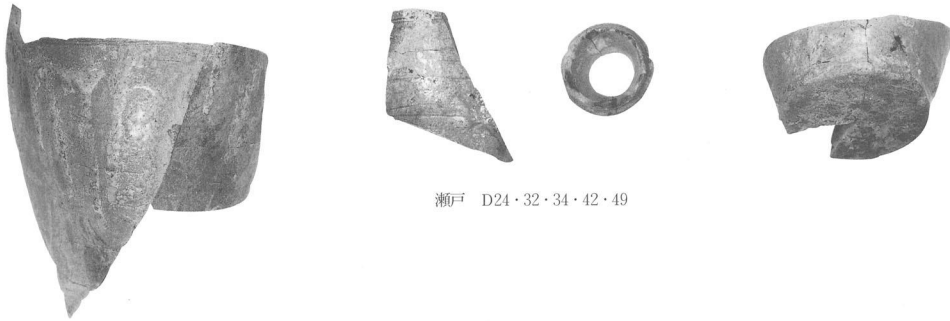
M1



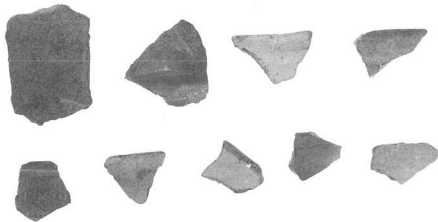
D26



各遺構出土陶器 (1:4)



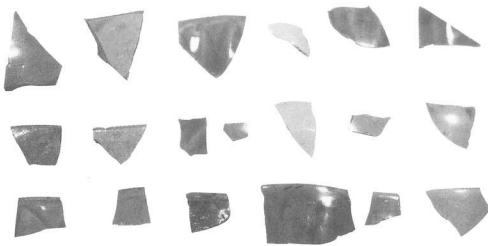
瀬戸 D24・32・34・42・49



土鍋 上段左より D6、う14Gr、け20Gr、Ta1  
下段左より 試掘く16Gr、P460、う14Gr、う14Gr



土師質土器  
上段左より D3、M1、え10Gr、D58  
下段左より う14Gr、D24、M1、く20Gr



青磁・白磁  
上段左より Ta1、Ta1、Ta1、Ta2、Ta3、Ta3  
中段左より D45、D48、M1、M1、P480、P608、こ13Gr  
下段左より え9Gr、う14Gr、え10Gr、表採、表採、い13Gr



瀬戸・美濃系  
上段左より  
P679、D29、こ13Gr、か8Gr、け16Gr  
下段左より  
え10Gr、P187、え9Gr、さ9Gr

各遺構出土陶磁器(1:4)